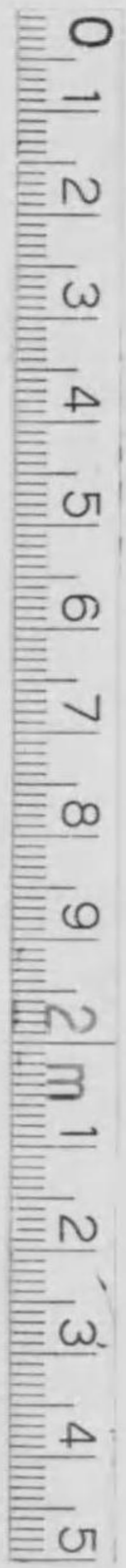


47
241



始



尿『ペプシン』ニ就テ

九州帝國大學醫學部醫化學教室

野村正一

47-241

尿「ペプレン」ニ就テ

九州帝國大學醫學部化學教室(研究科)

野村正一

目次

緒言

第一篇 尿「ペプレン」定量法ノ一新法ニ就テ

第一章 從來ノ尿「ペプレン」定量法及ビ是ガ批評

第二章 余ノ定量法ノ基礎

第一節 緒論

第二節 尿ヲ強「アルカリ」性トナスコトニ依テ磷酸土類ヲ沈澱セシムルノ法ハ尿「ペプレン」檢出法ニ應用シ得ルカ

第三節 尿ヲ強「アルカリ」性トナスコト無クシテ磷酸土類ノ沈澱ヲ生セシメ得ルヤ並ニ該法ハ「尿ペプレン」檢出法ニ應用シ得ルヤ

一、余ノ新法ニ依テ生セル磷酸土類ノ沈澱ハ鹽酸ニ溶解セル後チニ於テハ「ペプレン」ノ作用ヲ害セザルヤ

二、余ノ新法ニ依テ磷酸土類ヲ沈澱セシムルノ法ハ鋭敏ニ尿中ニ於ケル「ペプレン」ヲ檢出セシムルヤ

三、余ノ新法ニ依リテ生ズル磷酸土類ノ沈澱ハ鋭敏ニ尿中ニ於ケル「プロペプレン」ヲ檢出セシムルヤ

第三章 余ノ定量法ノ確定

大正 10 4 23 内交

第四章 余ノ定量法ノ實施法

第一篇ノ總括及ビ結論

第二章 尿「ペブシン」ノ生理的知見ニ就テ

第一章 尿「ペブシン」ノ本態ニ就テ

第一節 緒論

尿「ペブシン」ハ「プロペブシン」ヲ本態トスルカ或ハ又活性「マブシン」ヲ含有スルヤ

第三節 胃及ビ上部小腸壁ヨリ吸收セラル、活性「ペブシン」ハ血行中ニ於テ破壊セラル、ヤ

第二章 「ペブシン」(「プロペブシン」)ノ胃腔内ヘノ分泌ト尿中ヘノ排泄ト血行

中ヘノ移行トノ關係ニ就テ

第一節 緒論

第二節 一日中ニ於ケル尿「ペブシン」ノ濃度ノ動搖並ニ「プロペブシン」ノ饑餓時及ビ食後ニ於ケル血

行中ヘノ移行量ニ就テ

第三節 「ペブシン」(「プロペブシン」)ノ胃腔内分泌量ト血行中ヘノ移行量トノ總量の關係ニ就テ

第三章 健康邦人尿ノ「ペブレン」價(總「ペブシン」價)ニ就テ

第一節 緒論

第二節 健康邦人尿ノ「ペブレン」價表

第三節 尿量ノ動搖ト尿「ペブレン」濃度及ビ尿「ペブレン」價トノ關係ニ就テ

第四節 尿「ペブレン」價ノ動搖ノ狀態ニ就テ

第五節 年齢ト尿「ペブレン」價トノ關係ニ就テ

- 第六節 年齢及ビ尿「ペブレン」價ト尿量トノ關係ニ就テ
 - 第七節 年齢及ビ尿「ペブレン」價ト體重トノ關係ニ就テ
 - 第八節 男女間ニ於ケル尿「ペブレン」濃度ノ差異ニ就テ
 - 第九節 職業ト尿「ペブレン」價トノ關係ニ就テ
 - 第十節 授乳婦及ビ非授乳婦間ニ於ケル尿「ペブレン」價ノ差異ニ就テ
 - 第十一節 尿「ペブレン」價ト尿窒素量トノ關係ニ就テ
- 第四章 尿「ペブシン」檢出法施行ニ際シテノ尿ノ反應ノ關係ニ就テ

- 第一節 緒論
- 第二節 「プロペブシン」ノ吸着性ノ特異性ヲ明カニシ尿「ペブレン」檢出法ニ際シテノ尿ノ反應ノ關係ニ及テ
- 第二篇ノ總括及ビ結論
- 第三篇 胃及ビ他臟器疾患々者尿ノ「ペブシン」價並ニ尿「ペブレン」價ノ診斷的意義ニ就テ

- 第一節 緒論
- 第二節 胃及ビ他臟器疾患々者尿ノ「ペブレン」價
- 第三節 尿「ペブレン」價ノ診斷的意義ニ就テ
- 第三篇ノ總括及ビ結論
- 附錄 健康邦人尿ノ量、色及ビ比重ニ就テ
- 第一節 緒論

第二節 健康邦人尿ノ量ニ就テ

第三節 健康邦人尿ノ色ニ就テ

第四節 健康邦人尿ノ比量ニ就テ

附篇ノ總括及ビ結論

全論文ノ結論

引用書目

緒言

一千八百六十一年 Brucke 氏「尿中ニ『ペプシン』ヲ發見シテ以來多數ノ研究家輩出シ、從ツテ業報亦タ比較的豊富ナリト雖モ今尙ホ不明ナルノ點尠ナシトセズ、即チ生理的方面ニ於テハ尿『ペプシン』ノ本態、胃液『ペプシン』ト尿『ペプシン』トノ關係、男女、年齢、體重等個人的差異ニ因スル尿『ペプシン』價ノ動搖等ニ就テノ疑問ヲ遺シ、病理的方面ニ於テモ尿『ペプシン』定量法ガ幾干ノ程度マデ診斷的價値ヲ有スルカノ點ニハ尙ホ幾分ノ疑義存スルモノト謂ハザルベカラズ、而シテ斯クノ如ク本題ニ關スル進步ノ遲々タル所以ノモノハ蓋シ其ノ因チ定量法ニ良法ヲ缺クニ歸センメズンバ非ザルベシ、是レ確實ナル斷定ハ的確ナル定量法ヲ俟ツテ初メテ下シ得ベキヲ以テナリ、茲ニ於テカ余ハ本題ノ研究ノ第一歩ニ於テ定量法ノ一新法ヲ制定シ、次デ如上記スル所ノ種々ノ問題ニ就テ研究センコトヲ企圖シタルガ茲ニ漸クニシテ其ノ目的ヲ達シ得タルヲ以テ是ヲ報告セント欲ス。

余ハ曩キニ本題ニ就テ四回ニ亙リ醫學中央雜誌⁽¹⁾及ビ東京醫事新誌⁽²⁾ニ於テ報告セルガ其ノ大部分ハ是ヲ本論文ニ收載セリ

第一篇 尿『ペプシン』定量法ノ一新法ニ就テ

第一章 從來ノ尿『ペプシン』定量法及ビ是ガ批評

尿『ペプシン』定量法トシテ今日マデニ文献ニ現ハレタルモノハ左ノ數種ナリ。

一、纖維素ヲ用フルノ法

Gehrig 6) Hoffmann 7) ノ兩氏ハ一定尿量中ニ「カルミン」纖維素ノ一定量ヲ入レ振盪シタル後チ取出レ〇、一%ノ鹽酸中ニ投ジ消化セシメ赤色ノ度ヲ比較シ定量法トナシ、Saito 氏 8) ハ染色セザル纖維素ニ吸着セシメ鹽酸中ニ移シテ後チ更ニ「カルミン」纖維素ヲ加ヘタリ。

II、Wilenko 氏法 9)

Jacoby-Solms 氏「リチン」法ヲ應用セルモノナリ、「リチン」(Ricin von vereinigten chemischen Werken Charlotte nberg) 一〇瓦ニ〇、五%食鹽水一〇〇〇ccヲ注ギ過シ「クロ、フォルム」二〇ccヲ加ヘ水室内ニ貯フル時ハ少クトモ一週間ハ保存シ得ベシト云フ。

二十四時間ノ尿ヲ集メ混和シ其ノ比重ヲ計リ且ツ無蛋白ナルヲ證シタル後チ其ノ一部分ヲ取り強鹽酸ヲ滴下シ投入セル「コンゴローート」紙ガ青變シ始ムルニ至リテ止メ過シ其ノ一部分ハ煮沸シ更ニ冷却シ置ク。

而シテ試験管五本ニ〇、五cc宛ノ「リチン」液ヲ入レ其ノ初メノ四本ニ十分ノ一定規鹽酸〇、三cc、第五本目ニ〇、五ccヲ注ギ、次デ煮沸尿(稀釋用)ヲ第一管ニ一〇、第二管ニ〇、八第三管ニ〇、五cc追加シ、次デ非煮沸尿ヲ第二管ニ〇、第二管ニ〇、五第四管ニ一〇、第五管ニ二〇cc追加フ即チ左ノ如シ

番號	1/10 定規鹽酸	煮沸尿	非煮沸尿	「リチン」液
I	〇、III	1、0	—	〇、五

(對照試驗)

II	〇、III	〇、ⅴ	〇、VI	〇、ⅸ
III	〇、III	〇、ⅸ	〇、ⅸ	〇、ⅸ
IV	〇、III	—	1、0	〇、ⅸ
V	〇、ⅸ	—	1、0	〇、ⅸ

各管ニ栓ヲ施シ三十七度ノ孵卵器ニ六時間放置シテ後チ檢シ「リチン」液ノ濁濁ガ痕跡ナル程度ヲ尿「ペプシン」作用ノ單位トス、暗褐色ナル尿ハ稀釋シテ用ヒ後チニ計算ニ入ル。

III、Eilinger 及 Schalk 氏法 10)

(甲) Jacoby-Solms 氏法ニ因レル「リチン」法、「リチン」一〇瓦ヲ〇、五%ノ食鹽水一〇〇〇ccニ溶解シ其ノ二〇cc宛ヲ五本ノ試験管ニ入レ各管ニ十分ノ一定規鹽酸液〇、五cc宛注グ、然ル時ハ濃厚ナル濁濁ヲ生ズ、次デ稀釋セザル尿ノ二〇、一〇〇、五〇、二五cc等ヲ加ヘ而シテ煮沸尿ヲ以テ試験管ノ全量ヲ四、五ccトナシ十八乃至二十四時間三十七度ノ孵卵器内ニ置キ取出シテ檢ス。

(乙) Gross 氏法ニ因レル「カゼイン」法、試薬左ノ如シ

(イ) 一二五、〇%ノ鹽酸一六、〇ccヲ含有セル蒸餾水一〇〇〇ccニ乳鉢ニテ磨碎セル一〇瓦ノ「カゼイン」ヲ加ヘ一時間加熱セルモノ。

(ロ) 飽和醋酸「ナトリウム」液、六本ノ試験管ニ「カゼイン」液二〇cc宛ヲ入レ、次デ尿ノ二〇、一〇〇、五

○二〇・一 ○ 珉ヲ加ヘ煮沸尿ニテ全量ヲ一二〇珉トナス、適當ナル消化時間ハ攝氏四十度ニ一時間十五分又ハ一時間半ナリト云フ、而シテ後ヲ各管ニ飽和醋酸「ナトリウム」液〇・五珉ヲ注グ時ハ消化セザル「カゼイン」存セル管ニハ濁濁ヲ生ズ。

四、Fuld 及ヒ平山氏法 (11) (12)

三〇〇珉ノ定規鹽酸ヲ含有セル蒸餾水一〇〇〇珉「エデスチン」(Edestin von Gaer tner in Halle) 一〇珉ヲ溶解シ「トルオール」ヲ加ヘ氷室内ニ貯フ。

可檢尿ニハ檢査ノ際マデ「トルオール」ヲ加ヘ置キ而シテ尿九、〇珉ニ定規鹽酸一、〇珉ヲ加ヘ次デ其ノ二、〇珉ヨリ〇・二珉ニ至ル尿量ニ「エデスチン」溶液二、〇珉宛ヲ加ヘ三十八度乃至四十度ノ重湯煎上ニ一時間置キタル後ヲ冷水中ニ移シ各々ニ飽和食鹽水ノ六滴宛ヲ加ヘ濁濁ヲ呈セザルノ最小尿量ヲ「ペプシン」單位トス。

五、Brodzki 及ヒ Bankley 氏法 (13) (14)

一日分ノ尿量中ヨリ二五、〇珉ヲ取り蒸餾水二五、〇珉ト混ジ二等分シ甲ハ其儘トシ乙ハ煮沸シ其ノ際蒸發セル水量約一、〇珉ヲ補ヒ甲、乙兩尿ヲエレルンマイエル小「コルマン」中ニ入レ各々ニ「カゼイン」一、〇珉ヲ入ル、而シテ「ペプシン」ノ檢査ナレバ定規鹽酸二、〇珉ヲ「トリプシン」ノ檢査ナレバ二分ノ定規苛性曹達液二、〇珉又ハ一、〇%炭酸曹達液ノ二、〇珉ヲ加ヘ、次デ各「コルマン」ニ「トルオール」一、〇珉宛ヲ注加ス、而シテ此混和液ヲ三十七度ノ孵卵器ニ二十四時間放置シ消化ヲ終ラシメ更ニ兩管内ニ約五、〇珉ノ食鹽ヲ投入シタル後ヲ定規鹽酸又ハ定規苛性曹達液ヲ以テ中和シ次ニ各管ヲ直接火焰上ニ持來シテ七十度マデ加熱シ水醋酸一、〇珉ヲ滴下シ振盪

スル時ハ未消化ノ「カゼイン」アラバ白ク析出シ重湯煎上ニ暫時加温スル時ハ析出物一塊トナル、是ヲ濾過シ若シ濾液ニ濁濁アラバ再度濾過スベシ、此ノ濾液ヲ蒸餾水ニテ五〇、〇珉トナシ其ノ二〇、〇珉即チ原尿五、〇珉ニ相當スル量中ニ存スル窒素ノ量ヲ「S. G. 三氏法」ニテ定量ス、本試驗ト對照試驗トノ間ノ窒素量ノ差ハ「ペプシン」又ハ「トリプシン」ノ分解ノ度ヲ示スモノナリ。

以上ハ從來用ヒラレタル尿「ペプシン」定量法ノ大要ナリトス、是ヲ以テ觀レバ尿「ペプシン」定量法ニハ從來比較的多種ヲ存シ、而モ精粗好ム所ニ應ズルノ觀アリト謂ハザルベカラズシテ茲ニ新タニ新法ヲ案出スルノ要ヲ視ザルモノ、如シト雖モ決シテ然ラズ、是レ他ナシ、從來ノ方法ハ何レモ的確ナル良法ト稱スル能ハザルヲ以テナリ、今左ニ小論ヲ掲ゲテ其ノ理由ヲ明カニスベシ。

一、纖維素ヲ以テスルノ法ニ就テ。酵素ノ纖維素ニ吸着スルハ V. Wittich 氏 (15) ニ依テ確カメヲシ Gutzmer 氏 (16) 等モ尿「ペプシン」檢査法ニ應用セリト雖モ尿中ニ於テハ吸着作用鋭敏ニ行ハレザルハ Ellinger 及ヒ Scholz 氏 (10) ノ實驗スル所ナリ、若シ又一步ヲ譲リ此ノ事實ナシトナスモ Sali (8) Gehrig (6) Hoffmann (7) 氏等ノ行ハル液ノ染色ノ度ヲ以テ定量スルノ法ハ誤謬ヲ來シ易キ方法ナリト謂ハザルベカラズ。

二、Wienko, Ellinger 及ヒ Scholz, Fuld 及ヒ平山氏等ノ法ニ就テ。是レ等ハ試薬ヲ異ニスルノ差アルノミニシテ尿其ノ物ノ二、〇珉以下ヲ用フルノ主要點ニ於テハ相一致セリ而シテ是レ實ニ余ノ論難セントスル點ナリトス。

(イ) 尿色ノ影響 是等ハ何レモ濁濁ヲ以テ標示トスルノ方法ナルヲ以テ尿色ノ黃色乃至暗褐色ナルコトハ結果

ヲシテ誤ラシムルニ至ル、是レWienko氏法ニ於テ暗褐色ナル尿ハ稀釋シテ用フルニ依テモ明カナリ、試ニ今尿中ニ於ケル「カゼイン」ヲ醋酸「ナトリウム」ヲ以テ檢出センカ實ニ思ヒ半バニ過グルモノアラシ、余ノ經驗セル所ニ依レバ實ニ多量ノ「カゼイン」ヲ含有スル際ニ初メテ反應判然タルヲ得ルモノナリ、然リト雖Wienko氏ノ云ハルガ如ク是ヲ稀釋セバ「ペプシン」ノ濃度稀薄ナル場合ニ於テハ檢出チシテ不可能ナラシムルノ恐レナシトセズ、要スルニ尿色ノ障碍ハ實ニ大ナリト謂ハザルマカラズ。

(ロ) 尿成分ノ影響 尿中ニハ實ニ多數ノ成分ヲ有シ内服セル藥物モ亦排泄セラル、是ヲ以テ是等ノ方法ハ不定ナル混合物ヲ以テ蛋白質ヲ消化セシムルノ法ニ他ナラザルヲ以テ如何ナル化學的作用ノ此間ニ於テ行ハル、ヤ測リ知ル能ハザルノ憾ミアリ、此點ニ於テモ不安ナルノ誹ヲ免レザルマシ。

(ハ) 用量ノ制限 諸氏ノ法何レモ二、〇以下ノ尿ヲ試驗ニ供スルノ方法ナリ、故ニ是等ノ方法ニ依テ「ペプシン」ノ作用ヲ認メザルモ其ノ多量ヲ試驗ニ供スルヲ得バ或ハ檢出シ得ルヤモ測リ難シ、是ヲ以テ觀レバ從來缺如セリトセラレタルモノ果シテ然リヤ否ヤ不明ナリト謂ハザルマカラズ、即チ此點モ亦改良ヲ要スベキノ點ナリト云フヲ得マシ。

III Brodki及ヒBentley氏法ニ就テ。此法モ亦尿其物ヲ用フルノ點ノ不安ナルハ上記ニ異ナラズ、是ニ加フルニ未消化ノ「カゼイン」ヲ沈澱セシムルニ當ツテ食鹽及ヒ水醋酸ヲ用フルコトハ消化產物タル「カゼオーゼン」モ亦幾分沈澱セシムルノ備恐レナシトセズ、又此法ハ一定ノ設備ヲ要スルヲ以テ臨床上容易ニ行ヒ得ザルノ缺點アリ。是ヲ要スルニ從來ノ諸法ハ何レモ等シク缺點ヲ有シ確實ナル良法トハ稱スル能ハズ、是ヲ以テ余ハ新法ニ優良ナル一新法ヲ制定セント欲シ左ノ順序ニ於テ研究ニ從事シタリ。

第二章 余ノ定量法ノ基礎

第一節 緒論

余ハ尿「ペプシン」定量法ノ新法ヲ考案セントスルニ當ツテ試驗法ハ「Coss」氏「カゼイン」法ニ其ノ範ヲ採ラントセリ即チ「カゼイン」ハ醋酸「ナトリウム」ニヨリ潤濁ヲ呈スルモ其ノ消化產物タル「カゼオーゼン」ハ潤濁ヲ生ゼザルノ原理ヲ應用セルノ法是レナリ、而シテ余ハ吸着作用ノ現象ヲ利用シテ尿「ペプシン」ヲ可及的純淨ナル形態トナシ用ヒンコトヲ企圖シタリ。

酵素ノ吸着ヒラルベキ物質ニハ纖維素ノ他ニ磷酸「カルチウム」硫酸「バリウム」尿酸「マグネシウム」等ノ新タニ生ズル沈澱、木炭、「ヒヨロステリン」、「カオリン」、滑石、粘土、等多數ヲ存スト雖モ其ノ悉クヲ應用スル能ハズ、是レ後ニ透明ナル酵素液ヲ得ルノ要アルヲ以テナリ、故ニ此ノ目的ニ用ヒ得ルモノハ僅カニ磷酸「カルチウム」硫酸「バリウム」等ヲ數ヘ得ルノミ、而シテ前者ハ種々ノ點ニ於テ此ノ目的ニ利用シテ適當ナリト謂ハザルベカラズ、即チ鹽酸ニ溶解スルノ性質ヲ有スルヲ以テ「ペプシン」ノ試驗ニ好適ナルコト及ヒ恐ラク一定濃度マデノ含量ニ於テハ著シク酵素作用ヲ害セザルベキコト等是レナリトス。

右ノ理由ノ下ニ余ハ何等カノ方法ニ依テ尿ニ磷酸「カルチウム」ノ沈澱ヲ生ゼシメ其ノ目的ヲ達センコトヲ企圖シタルガ茲ニ是レガ基礎的研究ニ着手スルニ當ツテハ先ヅ尿「ペプシン」ノ本態ニ就テ顧慮セザルベカラズ即チ賦活セラレタル「ペプシン」ヲ本態トスルカ或ハ「プロペプシン」ヲ本態トスルカ或ハ又兩者ヲ存スルカノ問題ナリト

ス、何トナレバ此ノ兩者ハ「アルカリ」ニ對スル抵抗力ヲ異ニスルヲ以テ沈澱發生法ヲモ自ラ異ニスルノ要アルベ
ケレバナリ。

文獻ヲ參照スルニ Sahli 氏⁸⁾ Grobert 氏¹⁷⁾ Wienko 氏⁹⁾ 等ハ尿「ペブリン」ヲ以テ漫然「プロメブリン」トナセルガ
如ク Falk 及 Koliach 氏¹⁸⁾ 等ハ「活性」ペブリン」ヲ以テ本態ト見做シ、 Ellinger 及 Scholz 氏¹⁰⁾ Fried 及 平山
氏¹¹⁾ 等ハ其ノ大部分ヲ「プロメブリン」トナセルモ活性「ペブリン」ノ存在モ亦タ絶体的ニ否認セザルモノ、
如シ、要スルニ尿「ペブリン」ノ本態ニ就テハ諸説未ダニ歸セズ、何レヲ準繩トスベキヤ知ルニ由ナキヲ以テ余
ハ假リニ兩者ヲ有スルモノト見做シ定量法ノ基礎ヲ確定セントシタリ。

第二節 尿ヲ強「アルカリ」性トナスコトニ依テ磷酸土類ヲ沈澱セシムル ノ法ハ尿「ペブリン」檢出法ニ應用シ得ルカ

尿ヲ強「アルカリ」性トナスノ法ハ最モ簡單ニ尿ニ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼシムルノ方法ナリト雖モ此際「ペブ
リン」ノ破壊ヲ來スベシトハ容易ニ想像シ得ル所ナリトス、即チ此法ノ尿「ペブリン」檢出法ニ適當ナラザルハ一見明
瞭ナルガ如シト雖モ然レモ亦タ、此際急速ニ磷酸土類ノ沈澱ノ包擁スル所トナルガ故ニ破壊セラル、ニ至ラザル
ヤモ測リ難シ、余ハ此ノ關係ヲ明カニセンガ爲メニ左ノ試驗ヲ行ヒタリ、

試験一、煮沸シテ後ヲ冷却セル尿五〇、〇ㇿ中ニ鱗片狀「ペブリン」(三共株式會社製)〇、二瓦ヲ蒸留水一〇〇、〇
ㇿニ溶解セルモノ、一、〇ㇿヲ加ヘ次デ(アムモニアク)ヲ注加シ強「アルカリ」性トナシ沈澱ヲ生ゼシメ濾過シ沈
澱ヲ〇、四%ノ鹽酸一〇、〇ㇿニ溶解シ濾過シ濾液ニ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇ㇿヲ加ヘ攝氏四十度ノ水浴中

ニ於テ十五分間消化セシメ飽和醋酸「ナトリウム」溶液ヲ注加シテ檢セルニ毫モ消化スルコト無レ。

右ノ試験ニ依レバ尿ヲ強「アルカリ」性トナスコトニ依テ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼシムルモ尿中ニ於ケル「ペブリン」
ヲ檢出セシムルコト無シ、是レ勿論「ペブリン」ノ破壊ヲ來スニ因ルモノニシテ本法ハ活性「ペブリン」檢出法トシ
テハ應用シ得ルモノニ非ザルヲ知ル。

試験二、次ノ方法ニ依テ「プロメブリン」液ヲ製セリ即チ犬ノ胃ヲ取り大樽ニ沿フテ開キ内面ヲ丁寧ニ蒸留水ニ
テ洗滌シ、後チ胃底部粘膜ヲ剝離シ細切シ蒸留水中ニ浸シ「トルオール」數滴ヲ注加シ十二時間放置シ濾過セリ、
而シテ更ニ稀釋セルニ其ノ〇、二ㇿガ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇ㇿヲ十五分間ニ消化スルモノヲ得タリ。

煮沸シテ後ヲ冷却セル尿五〇、〇ㇿニ右ノ稀釋「プロメブリン」液三、〇ㇿヲ加ヘ、次デ「アムモニアク」ヲ加ヘテ
強「アルカリ」性トナシ沈澱ヲ生ゼシメ濾過シ、沈澱ヲ〇、四%ノ鹽酸一五、〇ㇿニ溶解シ次デ其ノ一、〇二、〇三、〇
四、〇五、〇ㇿヲ「カゼイン」溶液五、〇ㇿニ加ヘ更ニ〇、四%ノ鹽酸ヲ加ヘテ其全量ヲ同様ナラシメ四十度ニ於テ
十五分間消化セシメ飽和醋酸「ナトリウム」溶液ヲ注加シ檢セルニ四、〇ㇿ以上ニ於テ消化セリ。

右ノ試験ニ依レバ「プロメブリン」ノ吸着度モ亦タ甚ダ不良ナリト謂ハザルベカラズ、何トナレバ「プロメブリン」
「ガ完全ニ吸着スルトセバ一、〇ㇿハ「プロメブリン」液ノ〇、二ㇿニ相當スルヲ以テ一、〇ㇿニテ消化セザルベ
カラザルナリ、然ルニ其四倍ナル四、〇ㇿニテ初メテ消化セルハ其吸着度甚ダ不良ナルニ依ラズンバ非ザルナリ。

試験三、鱗片狀「ペブリン」〇、二瓦ヲ蒸留水一〇〇、〇ㇿニ溶解シ更ニ是ヲ十倍ニ稀釋セルモノ、〇、一〇、二
〇、三〇、四〇、五ㇿヲ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇ㇿニ加ヘテ十五分間四十度ニ於テ消化セシメタルニ〇、二

珉ガ消化レ得ベキ最小ナルヲ知レリ。

次デ煮沸シテ後チ冷却セル尿五〇、〇珉ニ「アムモニアク」ヲ加ヘ沈澱ヲ生ゼシメ沈澱ヲ〇、四％ノ鹽酸一〇、〇珉ニ溶解シ右ノ稀釋「ペプシン」液〇、二及ヒ「カゼイン」溶液五、〇珉ヲ加ヘ四十度ニ於テ十五分間消化セシメタルニ完全ニ消化セリ。

右ノ第三試験ハ磷酸土類ノ沈澱其物が溶解セル後チニ於テ「ペプシン」ノ作用ヲ害スルコト無キヤヲ檢セルモノニシテ前試験ノ結果ニ疑義ナカラシメントセルモノナリ、然ルニ磷酸土類其物ハ此際影響ヲ與フルモノニ非ザルヲ明カニスルヲ得タリ。

要スルニ尿ヲ強「アルカリ」性トナシテ生ズル磷酸土類ノ沈澱ニ依テハ尿中ニ於ケル「ペプシン」ノミナラズ「プロペプシン」モ亦檢出スルコト不可能ナルヲ明カニセリ。

第三節 尿ヲ強「アルカリ」性トナスコト無クシテ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼ

シメ得ルヤ並ニ該法ハ尿「ペプシン」檢出法ニ應用シ得ルヤ

余ハ前節ニ於テ尿ヲ強「アルカリ」性トナシテ磷酸土類ヲ沈澱セシムルノ法ノ尿「ペプシン」檢出法ニ應用スル能ハザルヲ明カニセルヲ以テ次デ尿ヲ強「アルカリ」性トナスコト無クシテ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼシメントラ企圖シ、而シテ尿ニ「クロールカルチウム」[Calcium chlori cum CaCl₂]及「第二磷酸」[ナトリウム] [Sekundares Natrium phosphat (尋常磷酸) ナトリウム] [Natrium phosphoricum] Na₂HPO₄ヲ適宜ニ加フルコトニ依テ目的ヲ達シ得ルヲ發見セリ。

而シテ瀝回ノ試験ニ依リ尿五〇、〇珉ニ對シ二、〇％ノ「クロールカルチウム」溶液及ヒ二、〇％ノ磷酸「ナトリウム」溶液ノ各五、〇珉及ヒ「アムモニアク」ノ數滴ヲ加フルコトガ後チニ所定量ノ鹽酸ニ溶解スルノ沈澱ヲ生シ而モ尿ノ反應ニ影響ヲ及ボスコトノ微弱ナルヲ明カニセルヲ以テ次デ左ノ試験ニ依テ尿「ペプシン」檢出法ニ應用シ得ルヤ否ヤヲ決定セントセリ。

一、余ノ新法ニ依テ生ゼル磷酸土類ノ沈澱ハ鹽酸ニ溶解セル後チニ於テハ「ペプシン」ノ作用ヲ害セザルヤ

先ヅ試薬トシテ次ノ人工胃液ヲ製セリ即チ鱗片狀「ペプシン」〇、二瓦ヲ〇、二％ノ鹽酸一〇〇、〇珉ニ溶解セルモノナリ。

(甲) 試験液

(一) 尿五〇、〇珉ヲ煮沸シ冷却セル後チ是ニ二、〇％ノ「クロールカルチウム」溶液及ヒ二、〇％ノ磷酸「ナトリウム」溶液ノ各五、〇珉ヲ加ヘ、次デ「アムモニアク」ヲ滴下シ少量ノ沈澱ヲ生ゼシメ濾過シ、蒸留水ヲ注ギテ沈澱ヲ洗滌シ、次デ沈澱ヲ〇、四％ノ鹽酸ニ溶解シ其ノ量ヲ九、〇珉ナラシム、而シテ人工胃液一、〇珉ヲ加フ(一)液)。

(二) 〇、二％ノ鹽酸九、〇珉ニ人工胃液一、〇珉ヲ加フ(二)液)。

茲ニ〇、二％ノ鹽酸ヲ用ヒタルハ〇、四％ノ鹽酸九、〇珉ニ右ノ量ノ磷酸土類ノ沈澱ヲ溶解スレバ凡ソ〇、二％ノ酸度ニ減弱スルガ故ナリ。

(乙) 操作

十本ノ試験管ニ一、〇％ノ「カゼイン」溶液五、〇珉宛ヲ入レ、是ニ右ノ(一)液及ヒ(二)液ノ〇、一〇、二〇、三〇、

○、四〇、五珉ヲ加ヘ豫メ卵卵器内ニ於テ攝氏四十度ノ温ヲ保タシメタル水中ニ於テ十五分間消化セシメ後チ飽和醋酸「ナトリウム」溶液ノ二、〇珉宛ヲ注ギ濁濁出現ノ有無ヲ檢セリ。

試験液注加量(珉)		0.10	0.20	0.30	0.40	0.50
(一)液ヲ用ヒタルモノ	+	+	-	-	-	-
(二)液ヲ用ヒタルモノ	+	-	-	-	-	-

備考、十八濁濁ヲ生ジ、一ハ濁濁ヲ生セザルヲ意味ス、

右ノ試験ノ致フル所ニ依レハ磷酸土類ノ影響ハ大ナラザルモノ、如シ、茲ニ於テカ余ハ更ニ其ノ状態ヲ綿密ニ知ランガ爲メニ左ノ試験ヲ行ヒタリ。

右ノ試験液〇、一〇、一五〇、二〇〇、二五〇、三〇〇珉ヲ用ヒテ同様ニ試験セリ。

試験液注加量(珉)		0.10	0.15	0.10	0.15	0.10
(一)液ヲ用ヒタルモノ	+	+	+	-	-	-
(二)液ヲ用ヒタルモノ	+	+	+	-	-	-

備考、全前

右試験ニ依リ一珉ノ「カゼイン」溶液五、〇珉ヲ十五分間ニ消化スルニ(一)液ハ〇、一一乃至〇、二〇(二)液ハ

〇、一一乃至〇、一五珉ヲ要スルヲ知レリ、即チ磷酸土類ノ影響ハ甚ダ僅微ナルヲ明カニスルヲ得タリ。

二、余ノ新法ニ依リテ磷酸土類ヲ沈澱セシムルノ法ハ鋭敏ニ尿中ニ於ケル「ペプシン」ヲ檢出セシムルヤ

余ノ新法ニ依レバ尿ヲ強「アルカリ」性トナスコト無クシテ磷酸土類ヲ沈澱セシメ得ベキモ茲ニ生ズル沈澱其物ハ強「アルカリ」性物質ナリ、「アルカリ」ニ對スル抵抗力弱キ「ペプシン」ガ是ニ包圍セラレテ安全ナルヤ否ヤ、又本法ニ依テ生セシムル磷酸土類ノ沈澱ハ「ペプシン」ヲ吸着スルコト可算ナリヤ否ヤ、此ノ兩條件ハ本法ノ鋭敏度ヲ左右スルモノト謂ハザルベカラズ、何トナレバ本法ニ於テハ沈澱ヲ生ズルマデハ尿ノ反應ニ著シキ變化ヲ來サシメズ、從ツテ此ノ間ニ「ペプシン」ノ破壊ヲ來スベシトハ考フル能ハザルヲ以テナリ。

(イ) 尿五〇、〇珉ヲ煮沸シ冷却セル後チ前試驗ニ用ヒタル人工胃液一、〇珉ヲ加ヘ、次デ二、〇%ノ「クロールカルチウム」溶液及ヒ二、〇%ノ「磷酸」ナトリウム「溶液」各五、〇珉及ヒ少量ノ十倍稀釋「アムモニアク」(「ペプシン」ヲ害スルコト無カラシメンガ爲メ十倍ニ稀釋セルモノヲ用フ)以下是ニ倣フ)ヲ滴下シ少量ノ沈澱ヲ生セシメ過シ次デ前法ニ於ケルガ如クニシテ沈澱ヲ一〇、〇珉ノ、四%ノ鹽酸ニ溶解ス(イ)液)。

(ロ) 〇、二%ノ鹽酸九、〇珉ニ人工胃液一、〇珉ヲ加フ(ロ)液)。

次デ十八本ノ試験管ニ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇珉ヲ入レ是ニ(イ)液及ヒ(ロ)液ノ 〇、一〇、一五〇、二〇、二五〇、三〇、三五〇、四〇、四五〇、五珉ヲ注ギ前法ノ如クニシテ消化セシメ飽和醋酸「ナトリウム」溶液ヲ加ヘタリ。

試験液注加量(耗)	(イ)液ヲ用ヒタルモノ	(ロ)液ヲ用ヒタルモノ
0.1	+	+
0.15	+	-
0.1	-	-
0.15	-	-
0.1	-	-
0.15	-	-
0.1	-	-
0.15	-	-
0.1	-	-
0.15	-	-
0.1	-	-
0.15	-	-
0.1	-	-
0.15	-	-

備考、全前

右ノ試験ニ於テ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇耗ヲ消化スルニ(イ)液ハ〇、(ロ)液ハ〇、一五耗ヲ要スルヲ知レルヲ以テ更ニ其ノ状態ヲ精密ニ知ランガ爲メニ左ノ試験ヲ行ヒタリ。

(イ)(ロ)兩液ヲ十倍ニ稀釋シ其ノ一、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四耗ヲ試験管ニ注加シ更ニ〇、二%ノ鹽酸ヲ以テ其ノ量ヲ補正シ試験セリ。

試験液注加量(耗)	(イ)液ヲ用ヒタルモノ	(ロ)液ヲ用ヒタルモノ
一、一	+	+
二、二	+	+
三、三	+	+
四、四	+	+
五、五	+	+
六、六	+	+
七、七	+	+
八、八	+	+
九、九	+	+
一〇、一〇	+	+
一一、一一	+	+
一二、一二	+	+
一三、一三	+	+
一四、一四	+	+
一五、一五	+	+
一六、一六	+	+
一七、一七	+	+
一八、一八	+	+
一九、一九	+	+
二〇、二〇	+	+
二一、二一	+	+
二二、二二	+	+
二三、二三	+	+
二四、二四	+	+
二五、二五	+	+
二六、二六	+	+
二七、二七	+	+
二八、二八	+	+
二九、二九	+	+
三〇、三〇	+	+
三一、三一	+	+
三二、三二	+	+
三三、三三	+	+
三四、三四	+	+
三五、三五	+	+
三六、三六	+	+
三七、三七	+	+
三八、三八	+	+
三九、三九	+	+
四〇、四〇	+	+
四一、四一	+	+
四二、四二	+	+
四三、四三	+	+
四四、四四	+	+
四五、四五	+	+
四六、四六	+	+
四七、四七	+	+
四八、四八	+	+
四九、四九	+	+
五〇、五〇	+	+
五一、五一	+	+
五二、五二	+	+
五三、五三	+	+
五四、五四	+	+
五五、五五	+	+
五六、五六	+	+
五七、五七	+	+
五八、五八	+	+
五九、五九	+	+
六〇、六〇	+	+
六一、六一	+	+
六二、六二	+	+
六三、六三	+	+
六四、六四	+	+
六五、六五	+	+
六六、六六	+	+
六七、六七	+	+
六八、六八	+	+
六九、六九	+	+
七〇、七〇	+	+
七一、七一	+	+
七二、七二	+	+
七三、七三	+	+
七四、七四	+	+
七五、七五	+	+
七六、七六	+	+
七七、七七	+	+
七八、七八	+	+
七九、七九	+	+
八〇、八〇	+	+
八一、八一	+	+
八二、八二	+	+
八三、八三	+	+
八四、八四	+	+
八五、八五	+	+
八六、八六	+	+
八七、八七	+	+
八八、八八	+	+
八九、八九	+	+
九〇、九〇	+	+
九一、九一	+	+
九二、九二	+	+
九三、九三	+	+
九四、九四	+	+
九五、九五	+	+
九六、九六	+	+
九七、九七	+	+
九八、九八	+	+
九九、九九	+	+
一〇〇、一〇〇	+	+

備考、全前

右ノ試験ニ依リ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇耗ヲ消化スルニ(イ)液ハ一、九乃至二、〇(ロ)液ハ一、五乃至一、六耗ヲ要スルヲ明カニセリ、即チ其ノ差ハ前試驗ニ於ケル磷酸土類其物ノ障害ト大差ナシ、是ニ依テ観レバ磷

酸土類ノ沈澱ハ「プロベシン」ヲ包圍スルノ間ニ是ヲ害スルコト殆ンド是レ無ク、又此際「プロベシン」吸着ノ現象ハ可成リ鋭敏ニ行ハル、モノ、如シ、即チ余ノ新法ニ依リテ生ズル磷酸土類ノ沈澱ハ可成リ鋭敏ニ尿中ニ於ケル「プロベシン」ヲ檢出セシムルモノト謂ハザルベカラズ。

三、余ノ新法ニ依リテ生ズル磷酸土類ノ沈澱ハ鋭敏ニ尿中ニ於ケル「プロベシン」ヲ檢出セシムルヤ

尿「プロベシン」ノ主トシテ「プロベシン」ナルベキハ文献ノ示ス所ナリ而シテ然リトセバ「プロベシン」ハ尿「プロベシン」ノ檢出法若案ニ際シテ特ニ重要視セザルベカラザルモノトス、然レモ「プロベシン」ニ在テハ「アルカリ」ニ依ル破壊ハ是ヲ除外シ得ルガ故ニ此際吸着ノ現象鋭敏ニ行ハルレバ可ナリトス。

本章第二節ニ於テ用ヒタル稀釋「プロベシン」液ヲ以テ左ノ試験ヲ行ヒタリ。
尿五〇、〇耗ヲ煮沸冷却シ稀釋「プロベシン」液〇、二耗ヲ加ヘ二、〇%「クロールカルチウム」溶液及ビ二、〇%磷酸「ナトリウム」溶液五、〇耗宛並ニ「アムモニアク」ヲ加ヘテ少量ノ沈澱ヲ生ゼシメ濾過シ沈澱ヲ〇、四%ノ鹽酸一〇、〇耗ニ溶解シ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇耗ヲ加ヘ消化セシメ醋酸「ナトリウム」溶液ヲ注加シテ檢スルニ濁濁ヲ生ズルコト無シ。

右ノ試験ニ依レバ余ノ新法ニ依テ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼシムルノ法ハ可成リ鋭敏ニ尿中ニ於ケル「プロベシン」ヲ檢出セシムルコト明カナリ。
是ヲ要スルニ余ハ本章ノ試験ニ依テ尿ヲ強「アルカリ」性トナシテ生ズル磷酸土類ノ沈澱ハ尿中ニ混入セル「ベ

「アリン」及「プロベリン」ノ檢出法トシテ用フル能ハザルモ尿ヲ強「アルカリ」性トナスコト無クシテ「磷酸土類」ノ沈澱ヲ生ゼシムル余ノ新法ノ可成リ銳敏ニ檢出セシムルヲ明カニスルヲ得タリ。

第三章 余ノ定量法ノ確定

余ハ前章ニ於テ尿ヲ強「アルカリ」性トナスコト無クシテ「磷酸土類」ノ沈澱ヲ生ゼシムル余ノ新法ノ可成リ銳敏ニ檢出セシムルヲ明カニスルヲ得タリ。尿中ニ於ケル「ベリン」及「プロベリン」ヲ檢出セシムルヲ明カニスルヲ以テ「實際ニ於テ尿」ベリン」定量法トシテ應用シ得ベキヤ否ヤヲ決定セントセリ、而シテ食後三時間ニ於テ排泄セル余ノ尿ヲ以テ瀝回ノ試験ヲ行ヒ漸クニシテ其ノ目的ヲ達セリ、今得タル所ヲ模型的ニ記スレバ次ノ如シ。

一、尿五〇、〇%ニ「クロールカルチウム」溶液及「ビニ」%ノ「磷酸」ナトリウム」溶液ノ各五、〇%及「ビ少量」ノ「アムモニアク」ヲ加ヘ少量ノ沈澱ヲ生ゼシメ濾過シ「蒸餾水」ヲ注加シテ沈澱ヲ洗滌シ、次デ沈澱ヲ〇、四%ノ「鹽酸」一〇、〇%ニ溶解濾過シ、濾液ヲ試験管ニ移シ、次デ一、〇%ノ「カゼイン」溶液四、〇%ヲ加フ、而シテ同様に試験管六管ヲ作り四十度ノ水中ニ三十分(イ)、一時間(ロ)、一時間半(ハ)、二時間(ニ)、二時間半(ホ)及「ビ三時間(ヘ)」放置シタル後「飽和醋酸」ナトリウム」溶液二、〇%ヲ加ヘタルニ左表ノ結果ヲ得タリ。

試験管 番號	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ
濁濁	+	+	+	-	-	-

二、蒸餾水五〇、〇%ニ「クロールカルチウム」溶液、及「ビニ」%ノ「磷酸」ナトリウム」溶液並ニ「アムモニアク」ヲ加ヘテ沈澱ヲ生ゼシメ同様ニ處置セルニ著明ニ濁濁セリ。

試験管 番號	イ	ロ	ハ
濁濁	+	+	+

三、蒸餾水五〇、〇%ニ「クロールカルチウム」溶液、及「ビニ」%ノ「磷酸」ナトリウム」溶液並ニ「アムモニアク」ヲ加ヘテ沈澱ヲ生ゼシメ同様ニ處置セルニ著明ニ濁濁セリ。

四、尿一〇〇、〇%ニ「クロールカルチウム」溶液及「ビニ」%ノ「磷酸」ナトリウム」溶液ノ各一〇、〇%及「ビ少量」ノ「アムモニアク」ヲ加ヘテ少量ノ沈澱ヲ生ゼシメ濾過シ、沈澱ヲ〇、四%ノ「鹽酸」二〇、〇%ニ溶解濾過シ、濾液ヲ二等分シ、甲ハ其ノ儘トシ、乙ハ煮沸シ各々二、〇%ノ「カゼイン」溶液四、〇%ヲ加ヘ二時間半消化セシメ「飽和醋酸」ナトリウム」溶液ヲ加ヘタルニ煮沸セルモノハ濁濁ヲ生ジ煮沸セルモノハ濁濁ヲ生ゼズ。

五、尿一〇〇、〇%ニ「クロールカルチウム」溶液及「ビニ」%ノ「磷酸」ナトリウム」溶液ノ各一〇、〇%及「ビ少量」ノ「アムモニアク」ヲ加ヘ少量ノ沈澱ヲ生ゼシメ濾過シ沈澱ヲ〇、四%ノ「鹽酸」二〇、〇%ニ溶解濾過シ(今是ヲ尿「ベリン」液ト稱ス)次デ「カゼイン」溶液四、〇%ヲ盛レル試験管ニ左表ノ如ク五、〇、四、〇、三、〇、二、〇、一、〇%ヲ加ヘ更ニ〇、二%ノ「鹽酸」ヲ加ヘテ其ノ量ヲ補正シ二時間消化セシメタル後「飽和醋酸」ナトリウム」溶液ヲ加ヘタルニ左ノ結果ヲ得タリ。

番號	「0.5%」カゼイン液(珪)	尿	「0.5%」カゼイン液(珪)	「2%」鹽酸(珪)	潤濁
一	四・〇	五・〇	一・〇	一・〇	一
二	〃	四・〇	二・〇	二・〇	±
三	〃	三・〇	三・〇	三・〇	+
四	〃	二・〇	四・〇	四・〇	++
五	〃	一・〇	五・〇	五・〇	++

備考 一ハ潤濁セザルモノ、±ハ潤濁痕跡ナルモノ、+ハ潤濁輕度ナルモノ、++ハ潤濁強度ナルモノ、意也

六、前試験ト同様ニシテ二時間半消化セシメタルニ左表ノ結果ヲ得タリ。

番號	「0.5%」カゼイン液(珪)	尿	「0.5%」カゼイン液(珪)	「2%」鹽酸(珪)	潤濁
一	四・〇	五・〇	一・〇	一・〇	一
二	〃	四・〇	二・〇	二・〇	一
三	〃	三・〇	三・〇	三・〇	+
四	〃	二・〇	四・〇	四・〇	++
五	〃	一・〇	五・〇	五・〇	++

備考 同前

以上ノ試験ニ依リ余ノ尿一五、〇珪以上ヨリ得タル尿「ペブリン」液ハ二時間乃至二時間半ニ四、〇珪ノ「カゼイン」溶液ヲ消化スルモ煮沸セル尿ヨリ得タルモノニハ其ノ作用ナク、又隣酸土類ノ沈澱ノミヲ加フルモ全ク「カゼイン」ニ影響ヲ及ボサザルヲ知レリ、即チ前章ニ於テ樹立セル余ノ検査法ノ實際上ニ應用シ得ベキヲ明カニセリ。斯クノ如クニシテ余ハ余ノ創案セル尿「ペブリン」検査法ノ實際上ニ應用シ得ベキノ基礎ヲ確定シ得タリト雖モ是ヲ新定量法トシテ世ニ公ニスルニハ多數ノ場合ニ應用シテ一定ノ成績ヲ得ルヲ定メタル後チナルヲ要スルヲ以テ余ハ續テ健康男子二十五名、健康女子二十一名ノ朝食後三時間ノ尿及ビ胃液ニ於ケル「ペブリン」含量ノ減少又ハ缺如セル患者六名ノ尿ニ就テ消化時間ヲ二時間半トシ試験セリ、其ノ結果左表ノ如シ。

一、健康男子二十五名、健康女子二十一名ノ朝食後三時間ノ尿ヲ以テセル試験

番號	検査者	年齢	性別	職業	尿ノ反應	試験ニ用ヒタル尿量(珪)				
						三	三・五	四	四・五	五
一	野〇	四	男	醫師	酸性	1	1	1	1	1
二	福〇	九	〃	農	〃	1	1	1	1	1
三	西〇	七	〃	〃	〃	1	1	1	1	1
四	松〇	三	〃	教師	〃	1	1	1	1	1
五	田〇	五	〃	農	〃	1	1	1	1	1

三	三	三	三	三	三	元	元	元	元	元	元	三	三	三	三
齊○	野○	西○	大○	中○	田○	笠○	中○	長○	野○	野○	武○	仲○	G	F	
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	女	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	農	無	下女	農	〃	〃	無	農	無	〃	〃	農	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
-	-	-	±	-	-	±									
±	±	-	+	-	±	±	±	-	-	-	-	±	-	-	
+	+	-	+	±	+	+	+	±	-	-	-	±	-	-	
++	++	+	++	+	++	++	++	+	±	-	-	±	-	-	
++	++	++	++	++	++	++	++	++	++	±	±	+	±	±	
								++	++						

三	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元
E	D	C	B	A	加○	美○	西村	西田	西○	繩○	岩○	三○	林	櫻○		
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	±	-	±	-	-	-	-	-	-	±	-	±	-	-	-	-
-	+	-	+	±	-	-	±	±	-	+	-	+	-	±	±	±
-	++	-	++	+	-	±	+	+	+	++	±	++	±	+	+	+

四	東谷	五〇	醬油店	10	10	20
五	枝村	五	職工	+	+	+
六	田原	四	植木商	+	+	+
	胃腸		胃腸	+	+	+

右ノ試験ニ依レバ健康男子ノ尿一五、〇乃至二五、〇毫、健康女子ノ尿二五、〇乃至三五、〇毫ヨリ得タル「ペブシン」液ガ一、〇%ノ「カゼイン」溶液四、〇毫ヲ二時間半ニ完全ニ或ハ殆ソド完全ニ消化スルコト畧ホ一定的ニシテ胃液ニ於ケル「ペブシン」含量ノ減少又ハ缺如セル患者ノ尿ニ在ツテハ消化セシムルニ是レ以上ノ量ヲ要シ其ノ關係畧ホ胃液「ペブシン」單位ニ從フヲ見ルヲ得ベシ、即チ余ノ新法ハ胃液ニ於ケル含量正常ナル場合ニモ將タ含量異常ナル場合ニモ畧ホ是ヲ一定的ニ表示スルコト明カナリトス。

茲ニ於テカ余ハ本法ヲ余ノ新定量法トナシ文献ニ附加セント欲スルモノナルガ是ヲ從來ノ諸法ニ比較スレバ本法ハ尿「ペブシン」ヲ比較的純粹ナル形態トナシ用フルモノナルガ故ニ其ノ正確度優越シ又多量ノ尿中ノ「ペブシン」ヲ集積セシメテ檢出シ得ルガ故ニ含量稀薄ナル場合ニ於テモ是ヲ證明シ得ルノ利アリト謂ハザルベカラズ、若シ夫レ鹽酸ニ溶解スルノ性アル磷酸「カルチウム」ニ吸着セシメテ透析等ノ手數ヲ要セズ簡單ニ試験セシムルノ點ニ至ツテハ妙味味フニ足ルベキモノアルベシト信ズ。

論者或ハ本法ニ於テ尿「ペブシン」ノ絶体的全量ヲ吸着セシメ能ハザルノ點ヲ非難セン、然レモハ濃縮セル尿「ペブシン」液ヲ製センガ爲メニ餘義ナクセラレタルモノニシテ實ニ止ムヲ得ザリシナリ、今茲ニ余ノ此ノ點ニ於

テ苦心セル所ヲ示セバ下ノ如シ、余ハ尿「ペブシン」ノ全量ヲ吸着セシムルノ法トシテ右ノ方法ヲ反覆スルノ法ヲ實驗セリ即チ沈澱ヲ濾過シテ得タル濾液(尿)ヲ用ヒ同様ノ操作ヲ行フノ法ナリ、然ルニ凡ソ三回ニテ全部ヲ吸着セシムルヲ明カニセリト雖モ斯クノ如クセバ數回ニ得タル沈澱ノ全部ヲ溶解スルニハ多量ノ鹽酸ヲ要シ「ペブシン」濃度ハ却テ稀薄トナリ余ノ主眼トスル濃縮法ニ適セザルニ歸着ス、蓋シ第一回ニ於テ大部分ヲ吸着シ第二回以後ニ餘ス所ノ量ハ僅少ナルヲ以テナリ是レ前章ノ試験ニ依テモ明カナル所ナリ、是ヲ以テ觀レバ徒ラニ試験法ヲ複雑ナラシムルノミニシテ益スル所ナシ況ンヤ一回ノ沈澱法ヲ以テスル方法ガ以上ノ實驗ノ示スガ如ク每當胃液「ペブシン」ノ含量ヲ平行的ニ表示スルニ於テオヤ、是レ余カ僅少ノ「ペブシン」ヲ失フヲ知リツ、モ先キノ方法ヲ撰ビタル所以ナリトス。

第四章 余ノ定量法ノ實施法

甲、試藥

一、一、〇%ノ「カゼイン」溶液、純良ナル「カゼイン」ノ一、〇瓦ニ二五、〇%ノ鹽酸(比重一、一二四)一六、〇毫及ビ蒸留水凡ソ九五、〇毫ヲ加ヘ砂浴上ニ於テ煮沸溶解シ(凡ソ一時間ヲ要ス)冷後濾過シ、後チ蒸留水ヲ注ギテ全量ヲ嚴密ニ一〇〇〇、〇毫トナス。

純良ナル「カゼイン」(カールバウム、メルク等ノ製品ノ如キ)ハ此方法ニテ透明ニ溶解スルモノ不良ナル製品(本邦某所製及ビ自製品ノ如キ)ハ完全ニ溶解セズ透明トナラザルノミナラズ僅少ノ浮遊物ヲ殘スモノナリ、總テ終リニ濾過スルニ當リ迅速ニ濾過紙ヲ通過セザルモノハ完全ニ溶解セルモノニ非ザルヲ以テ用フベカラズ。

- 二、二、〇%ノ「クロールカルチウム」溶液。
- 三、二、〇%ノ第二磷酸「ナトリウム」(「磷酸」ナトリウム)溶液。
- 四、〇、四%及二、〇%ノ鹽酸 日本藥局方鹽酸(三、〇%)ヨリ換算シ作製スベシ。
- 五、一、〇、〇%ノ鹽酸 日本藥局方稀鹽酸ヲ用フ(單ニ稀鹽酸ト稱スル時ハ本品ト知ルベシ)。
- 六、稀釋「アムモニアク」 日本藥局方「アムモニア」水ヲ十倍ニ稀釋シテ用フベシ。
- 七、飽和醋酸「ナトリウム」溶液。

乙、採尿

尿ハ二十四時間ノ全尿ヲ集メ濾過シテ用フ、蓄尿瓶ニハ線メ少量ノ「トルオール」ヲ入レ置クベシ。
尿ニ蛋白質ヲ有スルモノハ本來本法ノ應用ニ適セザルモノナルモ其ノ量微量ナル時ハ概畧ノ成績ヲ知ルニ妨ケ
ナキモノトス。

丙、操作

一、尿一五〇、〇ㄐヲ「メツヘルグラス」ニ採リ(「アルカリ」性反應ナル時ハ稀鹽酸ヲ以テ酸性反應ヲ呈セシメ、
酸性反應ナルモ尚ホ其ノ〇、三乃至〇、五ㄐヲ追加スルヲ可トス、附記注意事項ニ參照)是ニ二、〇%ノ「クロール
カルチウム」溶液及ビ二、〇%ノ磷酸「ナトリウム」溶液ノ各一五、〇ㄐ宛ヲ加ヘ、次デ硝子棒ヲ以テ攪拌シツ、稀釋
「アムモニアク」ヲ滴下ス、然ル時ハ初メハ其ノ點滴部ニ生ザタル濁濁攪拌スルニ依テ消失スルモ暫クニシテ消失
セザルニ至ル而シテ點滴ヲ加フル毎ニ濁濁ノ度ヲ増スタ以テ注視シ居リ恰モ石鹼水ノ觀ヲ呈スルニ至レバ滴下ヲ

止メ靜置スベシ、然ル時ハ一面ニ小沈澱片ノ浮遊スルヲ見テ器底ニ沈降シ雲絮狀ヲナスベシ、茲ニ於テ小漏斗
ヲ以テ濾過シ更ニ數回蒸留水ヲ注ギテ沈澱ヲ洗滌シ、次デ漏斗ノ下端ニ「クエツチユハーン」ニテ挾ミタル短カキ
「ゴム」管ヲ連テ而シテ後チ〇、四%ノ鹽酸凡ソ二五、〇ㄐヲ漏斗上ニ注ギテ放置スベシ、然ル時ハ沈澱ハ徐々ニ溶
解ス、茲ニ於テ「クエツチユハーン」ヲ除キ濾出スル液ヲ「メスタリソナル」ニ受ケ、更ニ〇、四%ノ鹽酸ヲ追加シテ
三〇、〇ㄐノ濾液ヲ得ベシ、今是ヲ尿「ペブレン」液ト名付ク、次デ其ノ一、〇(原尿五、〇)二、〇(全一〇、〇)三、
〇(全一五、〇)四、〇(全二〇、〇)五、〇(全二五、〇)六、〇(全三〇、〇)七、〇(全三五、〇)ㄐヲ同大ノ試驗管ニ
取リ向ホ其ノ六、〇ㄐ以下ヲ入レタレバ一、〇%ノ鹽酸ヲ注ギテ全量ヲ七、〇ㄐトナシ次デ各管ニ一、〇%ノ
「カゼイン」溶液四、〇ㄐヲ宛加ヘ、又〇、二%ノ鹽酸七、〇ㄐニ「カゼイン」溶液四、〇ㄐヲ加ヘタル對照管ヲ準備シ
二時間半攝氏四十度ノ水中ニ於テ消化セシメ、消化ノ終リダレバ直ニ取出シ冷水中ニ移シ、各々ニ飽和醋酸「ナ
トリウム」溶液二、〇ㄐ宛ヲ注ギテ檢ス、而シテ濁濁ヲ生ゼザルモノハ一 濁濁痕跡ナルモノハ土 程度ニ濁濁
ヲ生ゼルモノハ十 強度ニ濁濁セルモノハ廿 ニテ表ハスベシ。
右ノ操作ヲ表示スレバ次ノ如シ。

番號	「〇、二%」カゼイン液(「カゼイン」液) ㄐ	「〇、二%」鹽酸(「鹽酸」) ㄐ	「〇、二%」飽和醋酸(「飽和醋酸」) ㄐ	濁濁
1	5.0	1.0	5.0	11.0
11	5.0	11.0	5.0	17.0

三	〃	三、〇	四、〇	〃	〃
四	〃	四、〇	三、〇	〃	〃
五	〃	五、〇	二、〇	〃	〃
六	〃	六、〇	一、〇	〃	〃
七	〃	七、〇	〇	〃	〃
對照 試験	〃	〇	七、〇	〃	〃
+					

二、右ノ試験ニ於テ何レモ潤濁ヲ生ゼル時ハ更ニ同様ナル操作ヲ行ヒ尿「ペブシン」液ヲ得其ノ八、〇（原尿四〇、〇）九、〇（全四五、〇）一〇、〇（全五〇、〇）耗ヲ以テ同様ニ試験スベシ。

番號	「〇、〇」カセイン「尿」ペブシン「〇、二」%鹽酸「酢酸」ナトリウム「液」(耗)	「二、〇」%鹽酸「酢酸」ナトリウム「液」(耗)	「四、〇」%鹽酸「酢酸」ナトリウム「液」(耗)	「六、〇」%鹽酸「酢酸」ナトリウム「液」(耗)	「八、〇」%鹽酸「酢酸」ナトリウム「液」(耗)	「一〇、〇」%鹽酸「酢酸」ナトリウム「液」(耗)
一	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三	〃	〃	〃	〃	〃	〃
對照 試験	〃	〃	〃	〃	〃	〃
+						

三、第二 試験ニ於テモ向ホ潤濁ヲ生ズル時ハ更ニ左法ヲ行フ。

尿ノ六〇、〇七〇、〇八〇、〇九〇、〇一〇〇、〇耗等ヲ取リ其ノ各々ニ二、〇%ノ「クロールカルチウム」溶液及ビ二、〇%ノ「磷酸」ナトリウム「溶液」五、〇耗宛並ニ少量ノ「稀釋」アムモニアク「ヲ加ヘテ沈澱ヲ生ゼシメ各々ヲ〇、四%ノ鹽酸一〇、〇乃至一二、〇耗ニ溶解シ一、〇%ノ「カセイン」溶液四、〇耗宛ヲ加ヘテ消化セシム、此ノ試験ニ於テハ「クロールカルチウム」溶液及ビ「磷酸」ナトリウム「溶液」ヲ注加量尿量ニ比シテ少量ナルヲ以テ沈澱ヲ生ゼシムルニ少シク多量ノ「アムモニアク」ヲ要ス特ニ尿量ノ多量ナルモノニ於テ然リトス、然レモ多量ノ「アムモニアク」ヲ注加スレバ尿ノ反應著明ナル「アルカリ」性ニ變ジ結果ヲ誤ラシムルニ至ル、故ニ尿量多量ナルモノニ於テハ沈澱ヲ生ジ始ムレバ直ニ滴下ヲ止メザルマカラズ。

丁、結果ノ表示法

右ノ如クニシテ試験シ一、〇%ノ「カセイン」溶液ノ四、〇耗ヲ二時間半ニ消化シ得ルノ最小尿量ヲ知り得タレバ（完全或ハ殆ンド完全ニ消化スルノ量ニシテ即チ一又ハ士ニテ表示スルノ量）是テ一單位トナシ一日ノ全尿ノ「ペブシン」價ヲ算出ス、即チ當該尿ノ幾干量ハ一、〇%ノ「カセイン」溶液四、〇耗ヲ消化スルガ其ノ全尿ナレバ何程ノ「カセイン」溶液ヲ消化スルヤヲ算出シ其ノ量ヲ以テ「ペブシン」價ヲ表ハヌモノトス。

今日ノ全尿量一〇〇、〇〇、〇耗ナル際ニ二五、〇耗ノ尿量ガ最小消化量ナリトスレバ次式ニ依テ「ペブシン」價ハ一六〇ナリ。

$$4.25 = X \cdot 1000$$

$$X = 4 \times \frac{1000}{2.5} = 160$$

附記 注意事項

一、『カゼイン』ヲ溶解スルニ當ツテハ透明ニ溶解スルチ度トスベシ、純良ナル製品ナレバ凡ソ一時間ニテ此程度ニ達ス、一時間煮沸スルモ尚ホ溶解スルニ至ラザレバ熱度低キ爲メナルコト多シ、又煮沸時間長キニ過グル時ハ分解スルニ至ルヲ以テ慎シムベシ。

總テ『カゼイン』溶液ヲ使用スルニ當ツテハ先ヅ醋酸『ナトリウム』ヲ加ヘテ強キ潤濁ヲ生ズルチ確メタル後チ使用スルチ可トス。

二、尿ハ酸性反應ナル時ハ直ニ用ヒテ可ナルモ『アルカリ』性反應ナル時ハ稀鹽酸ヲ以テ酸性反應トナシ用ヒザルベカラズ(第一篇第四章參照)。

然レモ其ノ反應酸性ナルモ稀鹽酸(一五〇、〇)ト尿ニ對シ〇、三乃至〇、五(ト)ヲ加ヘテ用フルチ安全ナリトス、是レ酸度弱キ尿、中性尿ニ在テハ右ノ量ノ『クロールカルチウム』溶液及ビ磷酸『ナトリウム』溶液ヲ加フルコトニ依テ尿ノ反應ヲ『アルカリ』性ニ變セシメ結果チシテ誤マラシムルニ至ル、是レ『アルカリ』性反應ニ於テ生ズル沈澱ニハ『ペプシン』ノ吸着スルコト不良ナレバナリ(第一篇第四章參照)。

三、尿酸鹽類ニ依テ潤濁ヲ生ゼルモノハ凡ソ四十度ニ温メ溶解セシメテ用フベシ。

四、濾過スルモ透明トナラズ、鹽酸ヲ加フルモ透明トナラズ、加温スルモ透明トナラザル尿ハ本法ノ應用ニ適セザルモノトス。

五、尿一五〇、〇(ト)ニ『クロールカルチウム』溶液及ビ磷酸『ナトリウム』溶液ノ各一五、〇(ト)ヲ加ヘタル後チ幾十

量ノ稀釋『アムモニアク』ヲ加フルカハ尿ノ酸度ヲ異ニスルニ從ツテ臨機加減セザルベカラザルヲ以テ豫メ決定スル能ハズ、而シテコハ本法施行上ニ於テ遺憾トナス所ナルモ薄ク潤濁性ニ潤濁スルチ程度トシ茲ニ生ゼル沈澱ガ後チニ三〇、〇(ト)ノ鹽酸ニ溶解スルノ量ヲ得ベシ、溶解シテ後チ極メテ薄ク白色ノ潤濁ヲ呈スルノミナル時ハ用ヒ得ベキモ強ク潤濁セルモノ、如キハ後チニ醋酸『ナトリウム』ニ依ル反應ヲ檢スル能ハザルヲ以テ用フベキニ非ズ更ニ試験ヲ反覆スベシ。

六、本法ニ於テ沈澱ヲ生ゼシムルニハ先キノ方法ノ他左記ノ方法ヲ用フルチ得。

(イ) 『クロールカルチウム』溶液及ビ磷酸『ナトリウム』溶液ノ濃度ヲ増シ四、〇%前後トナスノ法、此法ニ依ル時ハ『アムモニアク』ヲ加フルコトヲ要セズシテ沈澱ヲ生ゼシムルチ得、而シテ其ノ注加量ヲ加減シテ適量ノ沈澱ヲ生ゼシムルモノトス。

(ロ) 石灰水又ハ石灰乳ヲ適宜ニ加ヘ沈澱ヲ生ゼシムルノ法。石灰乳ヲ以テスルノ法ハ往々其成績劣ル事アリ、是レ恐ラク新ニ生ズル沈澱ナラザルガ故ナラン、然レドモ充分振盪スルコトニ依リ比較的完全ニ其ノ弊ヲ除クコトヲ得。

第一篇ノ總括及ビ結論

尿『ペプシン』檢出法トシテ従來行ハレタルモノハ纖維素ニ吸着セシムルノ法(Sahlb. Gehrig, Hoffmann氏等)及ビ『リヂン』『カゼイン』『エヂスチン』等ノ溶液ニ尿ヲ加ヘテ消化セシムルノ法(Wilkenko, Ellinger 及ビ Scholtz Fuld 及ビ平山氏等)ナリシガ前法ハ定量法トシテハ確實ナラズ後法モ亦尿色、尿成分ノ影響等アル爲メ的確ナリ

トハ稀シ難シ、茲ニ於テカ余ハ磷酸「カルチウム」ニ吸着セシメテ検出スルノ一新法ヲ制定セント欲シ種々ノ試験ヲ行ヘルニ

一、尿ヲ強「アルカリ」性トナシテ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼシムルノ法ハ尿中ノ「ペプシン」(故意ニ加ヘタル)ヲ破壊スルノミナラズ、「プロペブレン」(故意ニ加ヘタル)ヲ吸着スルコトモ亦甚ダ不良ナリ。

二、尿ニ「クロールカルチウム」、磷酸「ナトリウム」(第二磷酸「ナトリウム」)及ビ「アムモニアク」ヲ加ヘ尿ノ酸性反應ニ著シキ影響ヲ與フルコト無クシテ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼシムルノ法ハ尿中ノ「ペプシン」及ビ「プロペブレン」(故意ニ加ヘタル)ヲ可成リ鋭敏ニ檢出セシム。

ノ兩事實ヲ發見シ而シテ其ノ第二ノ事實ヲ基礎トシテ新法制定ニ成效セリ。

即チ一定量ノ尿ニ一定濃度ノ「クロールカルチウム」溶液及ビ磷酸「ナトリウム」溶液及ビ「アムモニアク」ノ一定量ヲ加ヘテ磷酸土類ノ沈澱ヲ生ゼシメテ沈澱ヲ一定濃度ノ鹽酸ニ溶解シ是ヲ以テ「カセイ」ヲ消化セシメ、未消化ノ「カセイ」ノ存否ヲ「酪酸」ナトリウムヲ以テ檢シ「ペプシン」單位ヲ定メ是ヨリ換算シテ一日ノ全尿ノ「ペプシン」價ヲ知ルノ法ナリ、而シテ四十六名ノ健康者及ビ六名ノ病者尿ニ就テ試験セルニ一定ノ成績ヲ擧グルコトヲ確メタリ即チ胃ニ於ケル「ペプシン」分泌異常ノ存セザルニ健康人ノ尿ニ在ツラハ一定量ノ「カセイ」溶液ヲ一定時間内ニ消化スルニ常ニ一定範圍内ノ尿量ヨリ得タル尿「ペプシン」液ヲ要シ、胃ニ於ケル分泌異常ノ存スル病者ノ尿ニ在テハ胃液ニ於ケル「ペプシン」單位ノ低下スルニ從ヒ漸次多量ノ尿量ヨリ得タル尿「ペプシン」液ヲ要スルノ結果ヲ擧ゲ得タリ。

是ヲ以テ余ハ本法ヲ尿「ペプシン」定量法ノ新法トナシ世ニ公ニスルモノナルガ是ヲ從來ノ諸法ニ比較スレバ尿「ペプシン」ヲ比較的純粹ナル形態トナシ用ヒ得ルト及ビ多量ノ尿中ニ於ケル「ペプシン」ヲ集積セシメテ檢出シ得ルニ依リ遙カニ優秀ナル方法ナリト稱シ得ベシ、而シテ鹽酸ニ溶解スルノ性アル磷酸土類ノ沈澱ニ吸着セシメ透析等ノ手數ヲ要セズ、簡便ニ試験セシムルノ點ニ至ツテハ特筆スルニ値スベシト信ズ、

第二篇 尿「ペプシン」ノ生理的知見ニ就テ

第一章 尿「ペプシン」ノ本態ニ就テ

第一節 緒論

尿「ペプシン」ノ本態ニ關シテハ多數ノ文獻アリ Salmi氏 8) ハ尿「ペプシン」ヲ以テ胃内ニ分泌セラレタル後チ胃腸壁ヨリ吸收セラル、「プロペブレン」ナリト想像シ、Crohn氏 11) ハ「ペプレン」ノ腸ニ於テ破壊セラル、チ證シ尿「ペプシン」ハ腸壁ヨリ吸收セラル、ニ非ズ腺自身ヨリ吸收セラレトナシ、Wienko氏 9) ハ「アチドール」ペブシン」ヲ内用スルモ尿「ペプシン」増加セザルヲ實驗シ胃腸壁ヨリ吸收セラル、ニ非ズ胃腺ヨリ直接ニ吸收セラルトナシ、Falk及コ Koidich氏 18) ハ尿「ペプシン」ノ作用ノ尿ヲ「アルカリ」性トナスコトニ依テ減弱スルヲ認メ、Ellienger及コ Scholz氏 10) ハ尿「ペプシン」ノ「アルカリ」及ビ高温ニ抵抗スルヲ實驗シテ尿「ペプシン」ハ主トシテ胃粘膜ヨリ逆ニ吸收セラル、「ペプシノーゲン」ナリト説キ、Feld及ビ平山氏 11) 12) ハ活性「ペプレン」ハ殆ンド出現セズ尿「ペプシン」ハ胃腺ヨリ持續的ニ血行中ニ入ル「ペプシノーゲン」ナリト唱ヘ、Podstewin氏 19) ハ乳兒ニ於

チハ「チモーゲン」ノモチ尿ニ排泄スト云ヘリ即チ Sahli, Grober, Wienko 等ノ諸氏ハ尿「ペブシン」ヲ以テ漫然「プロベブシン」ナリトナセルガ如ク「Falk」及「Kojich」氏ハ寧ロ活性「ペブシン」ヲ以テ本態ト見做シ、Einhorn 及「Scholze」氏「Fuld」及「平山氏」等ハ其ノ大部分ヲ「プロベブシン」トナセルモ活性「ペブシン」ノ存在モ亦タ全然否認セザルガ如ク、Pechmann 氏ハ乳兒ニ限定セルモ活性「ペブシン」ノ存在ヲ認メザリシナリ。

是ヲ以テ觀レバ尿「ペブシン」ノ主トシテ「プロベブシン」ナルハ今ヤ動カスベカラザル所ノ如シト雖「E活性」「ベブシン」ノ存スルヤ否ヤハ未解決ノ問題ナリト謂ハザルヘカラズ、而シテ若モ活性「ペブシン」存セズトセバ胃及ビ上部小腸壁ヨリ吸收セラル、活性「ペブシン」ハ血行中ニ於テ破壊セラル、ヤノ問題モ亦タ當然隨伴セザルヘカラザル所ナリトス、是レ胃及ビ小腸壁ニモ吸收作用存スレバナリ。

余ハ如上ノ問題ヲ解決シ以テ尿「ペブシン」ノ本態ヲ闡明センガ爲メニ次ノ如クニシテ研究ヲ行ヘリ。
尿「ペブシン」定量法 第一篇所載ノ余ノ新法ニ據ル。

第二節 尿「ペブシン」ハ「プロベブシン」ナ本態トスルカ或ハ又活性「ペブシン」ヲモ含有スルヤ

實驗一、鱗片狀「ペブシン」(三共會社製)〇、二瓦ヲ蒸留水一〇〇、〇珉ニ溶解シ更ニ是ヲ十倍ニ稀釋セルモノ、〇、一〇、〇、二〇、三〇、四〇、五珉ヲ一、〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇珉ニ加ヘテ十五分間四十度ニ於テ消化セシムルニ其ノ〇、二珉ガ最小消化量ナルヲ知レリ。

右ノ試驗ハ單ニ斯クノ如キ人工ノ胃液ノ強度ヲ決定センガ爲メニ行ヒタルモノナリ。

實驗二、煮沸シタル尿五〇、〇珉ヲ冷却シ鱗片狀「ペブシン」〇、二瓦ヲ蒸留水一〇〇、〇珉ニ溶解シ更ニ十倍ニ稀釋セルモノ、一、〇珉ヲ加ヘ、次デ飽和炭酸「ナトリウム」溶液ヲ加ヘテ中和シ、更ニ炭酸「ナトリウム」ヲ〇、三%ノ割合ニ加ヘ三十分間放置シタル後チ鹽酸ヲ以テ弱酸性トナシ、次デ二、〇%「クロールカルチウム」溶液及ビ二、〇%磷酸「ナトリウム」溶液ノ各五、〇珉及ビ稀釋「アムモニアク」ノ少量ヲ加ヘ沈澱ヲ生ゼシメ沈澱ヲ〇、四%ノ鹽酸一〇、〇珉ニ溶解シ一、〇%ノ「カゼイン」溶液四、〇珉ヲ加ヘ二時間半四十度ニ於テ消化セシメ飽和醋酸「ナトリウム」溶液二、〇珉ヲ加フルニ著明ニ濁濁ス。

右ノ試驗ニ於テ加ヘタル「ペブシン」ノ量ハ實驗一ニ依テ一%ノ「カゼイン」溶液約二十五珉ヲ十五分間ニ消化スベキ量ナルコト明カナリ、然ルニ二時間半ヲ經過スルモ消化作用全ク現ハレズ、是ヲ以テ觀レバ尿中ニ於ケル活性「ペブシン」ハ炭酸「ナトリウム」ヲ以テ〇、三%ノ「アルカリ」度トナシ三十分間放置スルニ依リ完全ニ破壊セラレ、コト明白ナリ。

實驗三、健康ナル男子及ビ女子各三名ノ尿ヲ採取シ其ノ二〇〇、〇珉ヲ二等分シAハ其儘トシBハ先ヅ飽和炭酸「ナトリウム」溶液ヲ以テ中和シタル後チ炭酸「ナトリウム」ヲ〇、三%ノ割合ニ加ヘ三十分間放置シ次デ鹽酸ヲ以テ弱酸性トナシ、後チ全量ヲ計リ此操作ニ依テ増加セル量ヲ知り、是ト同量ノ蒸留水ヲAニ加ヘ次デ各々二、〇%ノ「クロールカルチウム」溶液及ビ二、〇%ノ磷酸「ナトリウム」溶液ノ一、〇、〇珉死及ビ稀釋「アムモニアク」ノ少量ヲ加ヘ沈澱ヲ生ゼシメ而シテ沈澱ヲ各別ニ〇、四%ノ鹽酸二〇、〇珉ニ溶解シ男性ノモノハ四、五(尿量二二、五)四、〇(全二二、〇)三、五(全一七、五)三、〇(全一五、〇)珉、女性ノモノハ六、〇(尿量三〇、〇)五、五(全二二、五)四、〇(全二二、〇)三、五(全一七、五)三、〇(全一五、〇)珉、女性ノモノハ六、〇(尿量三〇、〇)五、五(全二二、

七、五、〇(全二五、〇) 鈣ヲ各別ニ一、〇%ノ「カゼイン」溶液四、〇 鈣ニ加へ更ニ〇、二%ノ鹽酸ヲ以テ全量ヲ同
 様ナラシメ四十度ニ於テ二時間半消化セシメタルニ左表ノ結果ヲ得タリ。

第一表 (大正七年四月試驗)

番 號	被 檢 者	性 別	尿 ノ 反 應	處 置 別	試驗ニ用ヒタル尿量(鈣)	
					濁濁出現ノ有無	量
一	野 〇	男	酸性	BA	11	11
二	木 〇	〃	〃	BA	11	11
三	長 〇	〃	〃	BA	11	11
四	野 〇	女	〃	BA	11	11
五	森 〇	〃	〃	BA	11	11
六	西 〇	〃	〃	BA	11	11

備考 處置別Aハ其儘ノモノBハ「アルカリ」ヲ作用ヒシメタルモノナリ

右試驗ニ依レバ尿ニ活性「ペプシン」ヲ破壊スルノ程度ニ「アルカリ」ヲ加フルモ「ペプシン」ノ作用ハ毫モ減ズル
 コトナシ、即チ是ヲ以テ觀レバ尿ニ活性「ペプシン」ノ存スルコト無キヲ決定シ得ルガ如シト雖モ本試驗ニ於テ一
 ハ尿本來ノ酸性、一ハ鹽酸々性ナルコトガ「ペプシン」ノ吸着度ニ差異ヲ來スコト無キヤノ疑點存スルヲ以テ次デ

左ノ試驗ヲ行ヒタリ。

實驗四、健康男子二名ノ尿ヲ用ヒ前試驗ト同様ニ操作セルモ 甲及ビ乙ニ更ニ約〇、一%ノ割合ニ鹽酸ヲ加へ兩
 者ヲ鹽酸々性トナシ沈澱ヲ生ゼシメタルヲ異ニセリ。

第二表 (大正七年四月試驗)

番 號	被 檢 者	尿 ノ 反 應	處 置 別	試驗ニ用ヒタル尿量(鈣)	
				濁濁出現ノ有無	量
一	野 〇	酸性	BA	11	11
二	大 〇	〃	BA	11	11

備考 處置別A、Bノ意味ハ前表ニ同ジ。

右試驗ニ於テモ其ノ結果ハ同様ナリ、是ヲ以テ觀レバ尿「ペプシン」ノ本態ノ「プロペプシン」ナルハ今ヤ疑フベ
 カラザルガ如シト雖モ余ハ更ニ左ノ試驗ヲ以テ是ヲ確實ナラシメタリ。

實驗五、前試驗ニ用ヒタルト同一尿ニ約〇、一%ノ割合ニ鹽酸ヲ加へ一時間攝氏三十七度ノ温ヲ加へ後チ飽和
 炭酸「ナトリウム」溶液ニテ中和シ更ニ炭酸「ナトリウム」ヲ〇、三%ノ割合ニ加へ三十分間放置シ、次デ鹽酸ヲ以テ
 弱酸性トナシ、後チ「クローラルカルチウム」及ビ磷酸「ナトリウム」溶液並ニ「アムモニアク」ヲ加へテ沈澱ヲ生ゼシ
 メ濾過シ沈澱ヲ鹽酸ニ溶解シ「カゼイン」溶液ヲ加へテ消化試驗ヲ行フニ毫モ消化スルコト無シ。
 右試驗ニ依レバ尿「ペプシン」ハ鹽酸ノ作用スルニ依リ「アルカリ」ニ對スル抵抗力ヲ失フヲ見ル、是レ尿「ペプシン」

ガ活性ヲ得タルニ因ラズンハ非ズシテ實ニ尿「ペブシン」ノ本態ノ「プロペブシン」ナルヲ證スルモノト謂ハザルベカラズ。

是ヲ要スルニ余ハ本節ノ試驗ニ依テ尿「ペブシン」ノ本態ノ「プロペブシン」ナルヲ決定シ得タリト信ズ、即チ余ハ Ellinger 及 Scholz-Frid 及 ビ平山氏等ノ所說ニ一步ヲ加ヘ尿ニ全ク活性「ペブシン」ヲ含有スルコトナシトナサント欲スルモノナリ。

從ツテ彼ノ Peckstein 氏ノ乳兒ニ於テ擧ケタル所ハ是ヲ信セザルヲ得ザルナリ。

第二節 胃及ビ上部小腸壁ヨリ吸收セラル、活性「ペブシン」ハ血行中ニ於テ破壊セラル、ヤ

「ペブシン」ノ胃ヨリ腸管内ニ入ルヤ腸液ノ「アルカリ」ニ依テ破壊セラル、ハ Yeo 氏 20) 及 Gruber 氏 17) ノ證スル所ノ如シト雖「ペブシン」ハ其レ以前ニ於テ一部分血行中ニ進入セザルベカラザルナリ、是レ胃及ビ上部小腸壁ニモ亦タ吸收作用存スルヲ以テナリ、然ルニ尿ニ活性「ペブシン」ヲ有セザルハ前節ニ於テ明カニセル所ノ如キヲ以テ胃及ビ腸壁ヨリ吸收セラル、「ペブシン」ハ血行中ニ於テ破壊セラルトナサザルベカラザルニ似タリ、而シテ是ハ Wienko 氏 9) Ellinger 及 Scholz 氏 10) 等ノ「ペブシン」ヲ内用スルモ尿「ペブシン」增多セザルノ實驗ニ一致セリ、然レハ Ellinger 及 Scholz 氏 10) ハ一方ニ於テ活性「ペブシン」ヲ靜脈内ニ注入スレバ其ノ儘尿ニ排泄スルヲ實驗セリ、然レハ若シ果シテ然レバ活性「ペブシン」ハ胃又ハ腸壁ヨリ吸收セラル、モノニ非ズトナサザルベカラザルニ至リ茲ニ大ナル矛盾ヲ生ズベシ、何トナレバ延イテ胃及ビ上部小腸壁ノ吸收機能ヲ否定セザルベ

カラザルヲ以テナリ、是ヲ以テ觀レバ氏等ノ實驗ハ是ヲ疑ハザルヲ得ザルヲ以テ更ニ是ヲ復試シ本節ノ疑問ヲ闡明セント企テタリ、而シテ先ヅ内用試驗、次デ靜脈内注入試驗ヲ行ヘリ。

實驗一、九州帝國大學醫院第二内科ニ收容サレ胃液缺如症兼慢性腸加答兒ト診斷セラレ數回ノ胃液検査ニ於テ遊離鹽酸及ビ「ペブシン」(「ラブ」酵素モ亦)ノ缺如セルヲ確メラレ而シテ「ペブシン」一、〇瓦稀鹽酸一、五瓦蒸餾水一〇〇、〇ㇿヲ一日量トシ持續的ニ服用セシメラレツ、アル患者(澤木某、男、四十歳、澱粉製造業)ノ尿ヲ以テ數回試驗ヲ行ヘルニ每當「ペブシン」ノ作用無シ。

實驗二、余自身鱗片狀「ペブシン」〇、四瓦ヲ朝食後一時間ニ内用シ後チ一時間半、三時間及ビ六時間ニ排尿レ「ペブシン」單位ヲ定メ内用前ノ單位ニ比較シ又健康女子一人ニ於テ同一試驗ヲ行ヘルニ其ノ單位動搖スルコト無シ。

右ノ試驗ニ依レバ「ペブシン」ヲ内用スルモ尿ニ達スルモノニ非ザルヲ知ヒ、即チ Wienko 氏 Ellinger 及 Scholz 氏等ノ所說ニ一致セリ。

實驗三、同大(重量約二千二百瓦)ノ家兔三頭ヲ絶食セシメ餓餓第四日ノ早朝ニ採尿レ尿ノ反應酸性ナルヲ確カメタル後チ耳靜脈ニ鱗片狀「ペブシン」〇、二瓦ヲ蒸餾水一〇〇、〇ㇿニ溶解セルモノ、六、〇ㇿヲ注入シ絶食ヲ持續セシム、而シテ其ノ尿一〇〇、〇ㇿニ〇、〇%ノ「クロールカルチウム」溶液及ビ二、〇%ノ磷酸「ナトリウム」溶液ノ各五、〇ㇿ及ビ十倍稀釋ノ「アムモニアク」ノ少量ヲ加ヘ沈澱ヲ生ゼシメ是ヲ〇、四%ノ鹽酸二〇、〇ㇿニ溶解シ而シテ其ノ五、〇、四、〇、三、〇、二、〇、一、〇ㇿヲ一、〇%ノ「カゼイン」溶液四、〇ㇿニ加ヘ〇、二%ノ鹽酸ヲ以テ

其ノ全量ヲ同量ナラシメ四十度ニ於テ二時間消化セシメ醋酸、ナトリウム「溶液ヲ注加シテ檢セル」左表ノ結果ヲ得タリ。

第三表ノ甲 (大正七年四月試驗)

家兔 番號	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)			
	五〇	一〇〇	一五〇	二〇〇
一	-	-	-	+
二	-	-	+	+
三	-	-	±	+

次ヲ八時間ヲ經テ「ペブシン」溶液ヲ注入後採尿シ(勿論此間ニ於テ排尿セザルコトハ確カメタリ)、而シテ同様ニシテ「ペブシン」單位ヲ定メタルニ左ノ結果ヲ得タリ。

第三表ノ乙 (全前)

家兔 番號	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)			
	採尿量	潤濁出現ノ有無		
一	約壹	-	+	+
二	〃	-	+	+
三	〃	-	±	+

二	〃	-	+	+
三	〃	-	±	+

右ノ試驗ニ於テ注入ノ前後ニ於ケル「ペブシン」單位ヲ比較スルニ注入前ニ於テハ一〇、〇乃至一五、〇耗、注入後ニ於テハ一〇、〇乃至二〇、〇耗ニシテ「ペブシン」ヲ注入スルモ尿「量增加セザル」ミナラズ寧ロ却テ減少セルヲ示セリ、然ルニ右ノ試驗ニ於テ注入セル「ペブシン」ノ量ハ一、〇%ノ「カゼイン」溶液ノ約一五〇〇耗ヲ十五分間ニ消化シ得ル量ナリトス、是レ第一節實驗一ノ證スル所ナリ。

次ニ余ハ注入後ノ尿三〇、〇耗ニ沈澱ヲ生ゼシメ、四%ノ鹽酸一〇、〇耗ニ溶解シ、一〇%ノ「カゼイン」溶液五、〇耗ヲ加ヘ十五分間消化セシメ醋酸、ナトリウム「溶液ヲ注加セル」ニ著明ニ潤濁セリ。

右ノ試驗モ亦「ペブシン」ガ血行中ニ於テ破壊セラル、ヲ證スルニ適セリ、何トナレバ三〇耗ハ全尿量ノ凡ソ三分ノ一ニ相當スルヲ以テ注入セル「ペブシン」ノ全量ガ排泄セラルトスレバ凡ソ五〇〇耗ノ「カゼイン」溶液ヲ十五分間ニ消化セザルマカラズ、然ルニ其ノ五、〇耗ヲモ消化セザルハ注入セル「ペブシン」ノ安全ニ尿ニ達スルモノニ非ザルヲ證スルモノト謂ハザルマカラズ。

實驗四、同一家兔ヲ用ヒ前試驗ノ翌日即チ餓餓第五日ニ試驗ヲ反復シタリ、「ペブシン」溶液ヲ注入後ノ採尿時刻ヲ六時間後トナセルノ差アルノミニシテ其ノ他ハ全ク前試驗ニ同ジ。

第四表 (全前)

甲、注入前ノ尿「ペブシン」單位

家兎	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		
	番号	10.0	15.0
一	-	+	+
二	±	+	+
三	-	+	+

乙、注入後ノ尿「ペブシン」單位

家兎	採尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		
		番号	10.0	15.0
一	約量	-	+	+
二	〃	+	+	+
三	〃	±	+	+

右ノ試驗モ亦注入後ニ尿「ペブシン」增多セザルノミナラズ寧ロ却テ減少スルヲ示セリ。

以上ノ試驗ニ依テ觀レバ靜脈内ニ注入セル「活性」ペブシンハ血行中ニ於テ破壊セラレ安全ニ尿ニ達シ得ルモノニ非ザルハ今ヤ疑フ能ハザルモノ、如シ、Eilinger及ビScholz氏ハ全ク相反セル結果ヲ擧ゲタリト雖モ「活性」ペブシン「ハ」アルカリ「ニ依テ破壊セラレ、ヲ以テ血行ヲ經テ安全ニ尿ニ排泄セラレ、コハ特殊ノ條件ヲ要スベシ、即チ注入液ノ酸度強度ニシテ而モ多量ニ注入セラレ血液ノ反應酸性ニ變ズルガ如キ場合はレナリトス、然レハ斯クノ如キハ吾人ノ實驗ニ於テハ除外シ得ベキコトニ屬スルヲ以テEilinger及ビScholz氏ノ擧ゲタル所ハ是ヲ疑ハザルヲ得ザルナリ」(10)及ビ平山氏(11)ハ「活性」ペブシン「モ亦恐ラク腸ヨリ吸收セラレ、ナラン、然レモ抗酵素或ハ其ノ他ノ機關ニ依テ破壊セラレ、ナラントセリ、余モ亦此ノ破壊作用ガ果シテ「アルカリ」ニ依テ營爲セラレ、ヤ否ヤハ是ヲ斷定スル能ハズト雖モ不自然的ニ進入セル多量ノ「ペブシン」ニ對シテ抗酵素ガ充分ナル量ニ於テ準備セ

ラルトハ考ヘ得ベカラザルヲ以テ少クトモ注入試驗ノ際ニ於テ「アルカリ」ノ作用トナスヲ適當トスベシ、知ラズ自然的状态ニ於テモ亦「アルカリ」ノ作用ニ歸セシメ得ベキヤ否ヤ、抗酵素ニ關スル知見闡明シテ後ヲ初メテ決定シ得ベキ問題ナリトス、余ハ唯ダ「アルカリ」ノ作用ニ依テモ亦破壊セラレ得ベキヲ謂フニ止メントス。

是ヲ要スルニ余ハ本節ノ試驗ニ依テ胃腸壁ヨリ吸收セラレ、活性「ペブシン」ハ血行中ニ於テ破壊セラレ尿「ペブシン」トシテ證明セラレ、モノニ非ラザルヲ證セルモノナリ。

第二章 「ペブシン」(プロペブシン)ノ胃腔内ヘノ分泌ト尿中ヘノ排泄ト血行中ヘノ移行トトノ關係ニ就テ

第一節 緒論

尿「ペブシン」トシテ尿ニ於テ證明セラレ、**「ペブシン」ノ胃腔ヨリ直接ニ血行中ニ移行スル「プロペブシン」ナルハ今ヤ疑フノ餘地ナシトス、然レモ此ノ者ノ血行中ヘ移行スルノ状態特ニ胃腔内ヘノ分泌トノ關係ハ尙ホ不明ナリ**Schli氏(8)ハ朝時ノ尿ニ於テ多量ニシテ午後ノ尿ニ少量ナルヲ認メGehr氏(6)ハ「饑餓試驗ニ於テ尿「ペブシン」增多スルヲ實驗シHoffmann氏(2)ハ食後ニ於テ減少スルヲ認メGrober氏(17)ハ「饑餓時ニ尿「ペブシン」ノ増量スルヲ報ゼリ、然レモ是レ等ノ諸氏ハ單ニ饑餓時ニ於テ増量スルヲ主張セルノミナリト雖モ是レニ一步ノ所説ヲ加ヘタルモノニWienkoff氏(9)ナリトス、氏ハ朝時ニ於テハ胃腔内分泌ヲ缺クテ以テ血行中ニ移行スルノ量多量ナリトセリ、同ク朝時ノ尿ニ多量ナルヲ認メタリト雖モ其理由ヲ尿ノ酸度ノ關係ニ歸シタルハFalk及ビKolisch氏(18)ニシテ食

後ニ於テ尿ノ酸度減弱スルニ因ルトセリ、是等ト少シク趣ヲ異ニセルノ論者ハFriedberger氏²¹⁾ Ellinger及Scholz氏¹⁰⁾ Fuld及平山氏¹¹⁾¹²⁾等ニシテFriedberger氏ハ尿「ペブシン」排泄量ト胃「ペブシン」分泌量トガ相平行スルヲ認メEllinger及Scholz氏ハ「饑餓時ニ於テ尿「ペブシン」増量シ食後ニ於テ減少スルノ規則ハ多クノ場合ニ於テ適合スルモ總テノ場合ニ於テ然ルニ非ズトシ必ラズシモ常存ノ事實ニ非ザルヲ主張シ」¹³⁾及ビ平山氏ハ血行中ヘノ移行ハ持續的ナルヲ以テ食事ノ刺戟ニ依ル胃液分泌亢進ニ關スルコトナク尿ノ濃度ニ關係ストセリ、即チ從來諸氏ノ説ク所ハ甚ダ區々ニシテ血行中ヘノ移行「尿中ヘノ排泄」ト胃腔内ヘノ分泌トノ關係ハ未ダ關係ヲ脱セズト謂ハザルベカラザルナリ。

第二節 一日中ニ於ケル尿「ペブシン」ノ濃度ノ動搖並ニ「プロペブシ

ン」ノ饑餓時及ビ食後ニ於ケル血行中ヘノ移行量ニ就テ

尿「ペブシン」濃度ガ時ヲ異ニスルニ從ヒ動搖スルヤ否ヤノ問題ハ緒論ニ於テ述メタルガ如ク未ダ不明ナリ、余ハ此ノ關係ヲ明カニセンガ爲メニ次ノ如クニシテ試験セリ。

試験法、第一篇所載ノ余ノ新法ニ據ル、

試験一、三日間ニ亘リ余ノ尿ヲ左表ノ如ク早朝、朝食後、晝食前、晝食後、夕食前及ビ夕食後ニ採取シ尿「ペブシン」單位ヲ定メタリ。

第五表 (大正六年十一月試験)

採尿時刻	第一日			第二日			第三日		
	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	全	上	全	上	全	全	上	
午前六時	-	-	-	-	-	-	-	-	
全九時半	-	-	-	-	-	-	-	-	
午後三時半	-	-	-	-	-	-	-	-	
全六時	-	-	-	-	-	-	-	-	
全九時半	-	-	-	-	-	-	-	-	
午後三時半	-	-	-	-	-	-	-	-	
全九時半	-	-	-	-	-	-	-	-	

備考 一、朝食ハ午前六時半、晝食ハ午後〇時半、夕食ハ午後六時半ニ攝取セリ。

二、午後及ビ夜間採取セルモノハ「トルオール」ヲ加ヘテ保存シ翌日試験セリ。

實驗二、健康男子一人、健康女子二人ニ於テ早朝、朝食後及ビ晝食後ニ採尿シ檢セルニ左ノ單位ヲ得タリ。

第六表 (全前)

採尿時刻	男子尿(三十四歳)		女子尿(三十三歳)		女子尿(二十七歳)	
	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	全	全	全	全	全
全	全	上	全	上	全	上

早朝空腹時	朝食後三時間	晝食後三時間
-	-	-
-	-	-
+	+	+
-	-	-
-	-	-
±	±	±
-	-	-
+	+	+
+	+	+

100

右ノ試験ハ五、〇 尿ノ尿量ノ差毎ニ行ヒタルモノナルヲ以テ甚ダシク精密ナリト謂フ能ハズト雖モ含量ニ顯著ナル動搖アレバ結果ニ表ハル、ナ當然トス然ルニ右ノ試験ノ示ス所ニ依レバ其ノ動搖ハ殆ンド認めムベカラズ、即チ一日中ニ於ケル尿「ペブシン」濃度ハ著シク動搖スルモノニ非ズト云ヒ得ベキガ如シ、是ヲ以テ觀ルニ Sahli, Gehrig, Hoffmann Grobel, Wienko, Falk 及 Koliab 等ノ諸氏ガ饑餓時增多ストセルハ信ズベカラズ、却テ Ellinger 及 Scholz 氏ノ時ニ依テ變動アルベキヲ唱ヘタルヲ認メ、又 Ellinger 及 比平山氏ノ所説ノ一部分ヲ認容セザルベカラズ即チ氏等ノ主張セル「プロペブシン」ガ持續的ニ血行中ニ入ルノ説是レナリトス、是レ斯アリテコソ初メテ其濃度ノ持長ヲ保持シ得ベキヲ以テナリ、然レモ余ハ氏等ト異ナリ食事ノ刺激ニ依ル胃腔内分泌亢進トモ亦關係ヲ有スベキヲ信ズルモノナリ即チ「プロペブシン」ノ胃腺ヨリ血行中ヘノ移行ハ持續的ナルベキモ其間ニ消長アリテ胃腔内分泌ノ旺盛ナル食後ニ於テハ多量ナルメシト云フニアリ、余ノ實驗ノ示スガ如ク空腹時ニ於テモ將タ食後ニ於テモ尿ニ於ケル含量殆ンド動搖セズトセバ食後ニ於テハ血行中ヘ移行スルコト多量ナラザルベカラザルノ理ナリ、何トナレバ食後ニハ尿量增多スルヲ以テ若シ然ラズシテ移行ノ絶体量ニ増減ナリトセンカ尿「ペブシン」ノ濃度ハ勢ヒ減少セザルベカラザルヲ以テナリ、尿ノ濃度ノ尿「ペブシン」濃度ニ影響ヲ與フルハ Ellinger 及 Scholz 氏 Ellinger 及 比平山氏

等ノ唱ヘタル所ナリト雖モ余ハ空腹時及ヒ食後ノ濃度ヲ比較スルニ當ツテハ此關係ニ注目セザルベカラザルメシト信ズ。

胃腺ノ主細胞ハ空腹時ニ於テハ全部小顆粒狀物質ヲ以テ滿サレ食後分泌旺盛時ニハ漸次是ヲ失フト同時ニ又之ヲ再生シ、而シテ此顆粒ニ富メル細胞ヲ有スル胃粘膜ノ浸出液ハ「ペブシン」ノ作用ニ富ムト云フ、是レ實ニ空腹時ニ於テハ内外ノ何レヘモ多量ニ分泌セザルノ證ナリト云ハザルベカラズ。

斯クノ如ク論ジ來レバ「プロペブシン」ノ胃腺ヨリ血行中ヘ移行スル量ノ胃腔内分泌ノ間歇時ニ於テ增多スルガ如キ事實ナク胃腔内分泌ト其ノ消長ヲ同ジウスベキハ今ヤ疑フベカラザルガ如シト雖モ余ハ是ヲ確定センガ爲メニ左ノ如クニシテ試験セリ。

實驗三、本試験ハ實驗的饑餓時ニ於テ尿「ペブシン」濃度ガ動搖スルヤ否ヤヲ試験スルモノナルヲ以テ豫メ生理的單位ヲ明カニナシ置クノ要アルヲ以テ此點ニ於テ最モ便利ナル余自身ニ於テ試験セント欲シ時ヲ異ニシテ數回尿「ペブシン」單位ヲ定メタルニ食前ニ於テモ將タ食後ニ於テモ殆ンド常ニ一五、〇 尿ノ尿ガ一、〇%ノ「カセイ」溶液 四、〇 尿ヲ二時間半ニ完全ニ或ハ殆ンド完全ニ消化スルヲ明カニセリ。

第一、大正九年四月三十日ノ夜半吐根末 〇、三瓦宛テ二回内服シテ嘔吐シ胃腔内ヲ空虚ナラシメタリ、此際嘔吐ハ三回ニ及ビ最後ニハ胆汁ヲ吐出セリ且ツ同時ニ排尿セリ時ニ翌五月一日午前二時ナリキ、茲ニ於テ暫時睡眠シ午前七時排尿セルニ約二〇〇 尿ヲ得タリ、朝食ハ是ヲ廢シ南ホ飲料ヲ用フルコトナク正午マデ饑餓状態ヲ持續シテ排尿セルニ其量約一〇五 尿ナリキ、次デ晝食ヲ攝リ午後三時及ビ全六時排尿セルニ一五〇 及ビ一五五 尿ヲ得

タリ。

仍テ右ノ四回ニ排尿セル尿ノ各々ニ「トルオール」ヲ加ヘテ保存シ翌二日「ペブシン」單位ヲ定メタルニ左表ノ結果ヲ得タリ。

第七表 (大正九年五月試驗)

排尿ノ時刻	尿量(耗)	色澤	反應	比重	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	
					濁濁出現ノ有無	NO ₂ O ₁₁ H ₅ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ H ₅ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀
午前七時	100	帶赤黃	酸性	1013	-	-
正午	105	〃	〃	1014	+	+
午後三時	150	〃	〃	〃	-	+
全六時	15	帶黃赤	〃	1013	-	+

右ノ試驗ニ依テ觀レバ午前七時ノ尿ニ於テハ「ペブシン」濃度平常ナリト雖正午ニ至レバ著ク稀薄トナリ更ニ攝食後ニ於テハ平常ニ復スルモノ、如シ、此試驗ニ於テ留意セザルベカラザルハ午前七時ヨリ正午ニ至ル五時間ニ於ケル尿量ノ僅カニ一〇五耗ナルコト是レナリトス、此量ハ午後ノ尿量ニ比スレバ凡ソ三分ノ一量ナルヲ以テ「ペブシン」ノ血行中へ移行スル量平常ニ異ナラズトセバ尿「ペブシン」濃度ハ著ク濃厚トナラサルベカラサルノ理ナリ、然ルニ却テ斯クノ如ク稀薄トナルハ胃腔内分泌ノ少量ナルノ際ニ於テハ血行中へノ移行量モ亦少量ナ

ルヲ證スルモノト謂ハサルヘカラサルヘシ。

第二、前試驗ニ倣ヒ試驗セルモ吐劑ハ用ヒズ、又前後ノ排尿時刻ノ如キモ定メズ自然ノ儘ニ放任セリ。
 今年五月四日午前七時排尿シ、朝食ハ是ヲ廢シ而シテ後チ午前十時及ビ正午ニ排尿シ、次デ晝食ヲ攝リ午後三時排尿セリ、其ノ尿「ペブシン」單位ノ變動左ノ如シ。

第八表 (全前)

排尿ノ時刻	尿量(耗)	色澤	反應	比重	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	
					濁濁出現ノ有無	NO ₂ O ₁₁ H ₅ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ H ₅ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀ O ₁₁ O ₁₀
午前七時	400	黃	酸性	1009	-	+
全十時	106	帶黃赤	〃	1011	+	+
全十二時	74	〃	〃	〃	+	+
午後三時	100	〃	〃	1010	-	+

右ノ試驗ニ於テモ其ノ結果ハ全ク前試驗ニ同ジ。

第三、次デ余ハ晝食ノ饑餓試驗ヲ行ヘリ。

全年全月五日正午排尿シ、晝食ヲ廢シ午後四時排尿、次デ攝食シ後チ午後七時排尿シ、各尿ノ「ペブシン」單位ヲ定メタリ。

第九表 (全前)

排尿ノ時刻	尿量(耗)	色澤	反應	比重	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)					
					濁濁出現ノ有無	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
正午	六七〇	帶赤黃	酸性	1.011	—	+	—	—	—	—
午後四時	二〇〇	〃	〃	1.011	—	+	—	—	—	—
全七時	三四〇	〃	〃	1.011	—	+	—	—	—	—

備考 正午ノ尿ノ量ハ午前七時ヨリ正午マデノ總量ナリ。

第四、全年全月六日晝食ヲ廢シ午後一時排尿(放棄)シ、次デ午後四時排尿、直ニ攝食シ、是レヨリ午後九時マデノ尿ヲ集メ前後兩回ノ尿ノ「ベブシン」單位ヲ檢セリ。

第十表 (全前)

排尿ノ時刻	尿量(耗)	色澤	反應	比重	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)					
					濁濁出現ノ有無	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
午後一時	—	—	—	—	—	+	—	—	—	—
全四時	一七〇	帶赤黃	酸性	1.011	—	+	—	—	—	—
全九時	五二〇	〃	〃	1.009	—	+	—	—	—	—

備考 午後九時ノ尿ノ量ハ午後四時以後ノ總量ナリ。

右ノ試驗ニ依テ觀ルニ晝食ヲ廢スルモ其ノ結果ハ同ジク尿「ベブシン」ノ濃度著シク低下スルモノ、如シ。然レモ以上ハ余一人ニ於テ行ヘル所ノ結果ナルヲ以テ是ヲ以テ直ニ總テノ場合ヲ律スルハ早計ニ失スルヲ以テ更ニ左ノ試驗ヲ行ヘリ。

實驗四、三十五才ノ一女性体ニ於テ反復生理的尿「ベブシン」單位ヲ定メタルニ殆ソド常ニ二・五、〇耗ガ一、〇%ノ「カゼイン」溶液四、〇耗ヲ消化スルヲ明カニセルヲ以テ次デ左ノ試驗ニ移レリ。

第一、大正九年五月十一日午前七時排尿セシメ朝食ヲ廢シ、午前十時排尿、直ニ攝食セシメ、後チ午後二時マデノ尿ヲ集メ、各々ノ尿「ベブシン」單位ヲ定メタリ。

第十一表 (大正九年五月試驗)

排尿ノ時刻	尿量(耗)	色澤	反應	比重	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)					
					濁濁出現ノ有無	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
午前七時	二六〇	黃	酸性	1.014	—	—	—	—	—	—
全十時	一五五	〃	〃	1.010	—	+	—	—	—	—
午後二時	三三〇	〃	〃	〃	—	+	—	—	—	—

第二、全年全月十二日午前十一時及ビ十二時排尿セシメ、晝食ヲ廢シ、午後二時排尿、次デ攝食セシメ後チ午後五時排尿セシメ各尿ノ「ベブシン」單位ヲ定メタリ。

第十二表 (全前)

時 刻	尿量 (耗)	色澤	反應	比重	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)				
					15.0	10.0	15.0	10.0	15.0
午前十二時	一五	帶赤黃	酸性	1.026	-	-	-	-	-
正 午	二五	黃	〃	1.023	-	-	-	-	-
午後二時	二三	〃	〃	〃	-	-	+	+	+
全 五時	一三	帶赤黃	〃	1.023	-	-	-	+	+

右ノ試驗ノ結果ニ依レバ饑餓時ニ於テ尿「ベアレン」濃度ノ低下スルコト余ニ於テセル試驗ニ異ナラズ。以上余及ビ一女性体ニ於テセル數回ノ試驗ノ結果ヲ觀ルニ饑餓時ニ於テ尿「ベアレン」濃度低下スルハ今ヤ疑フマカラズ、而シテ饑餓試驗後攝食スレバ再ビ平常量ニ復スルノミナラズ、多クノ場合ニ於テ饑餓時前ノ夫レヲ超越スルヲ見ル、是ヲ以テ觀レバ饑餓後ニ於テハ頗ル多量ヲ分泌シ平常量ヲ超越スルモノトナサルマカラザルガ如シ。

吾人ノ實驗ニ於テ食前倒之バ朝食前、晝食前等ニ於テ其ノ濃度ニ變化ヲ來ササルハ是レ此時期ハ饑餓ノ初期ニシテ前回ノ食事後胃腺ヨリ血行中ニ移行セル「プロベプシン」ノ排泄ニ盡サレザルノ時期ニ相當スルノ故ナルベシ。饑餓時ニ於テモ尚ホ尿「ベアレン」ガ可成リノ量ニ於テ含有セラル、ハ一見不可解ノ事實ナルガ如シト雖モ決シ

テ然ラズシテ「E.C.E」及ビ平山氏ガ唱フルガ如ク「プロベプシン」ノ血行中ヘノ移行持續ナルニ由因セズ、然レモ余ハ此ノ持續的ナル語ヲ狹義ニ解釋シ得ルヤ否ヤハ是ヲ斷定スルヲ得ズ、是レ尿ニ持續的ニ證明セラル、トモ胃腺ヨリ出デ、尿ニ達スルニハ血行ヲ經ルヲ要シ、而モ尿ハ一定時膀胱ニ滯留セラレタル後ヲ排泄セラル、ヲ以テ此間ニ於テ前後ノ成分相混合ト劃然ト胃腺ヨリ血行中ニ移行スルノ際ニ於ケル状態ヲ知リ能ハザルヲ以テナリ、故ニ余ハ畧ホ持續的ナリト稱スルニ止ムベシ。

「ベアレン」「プロベプシン」ノ胃腔内ヘノ分泌ハ食後ニ於テ開始サレ一定時間持續シタル後ヲ暫時間ノ間歇時ヲ有スルヲ普通トス、然レモ平田氏⁽¹²⁾ノ研究ニ依レバ嚥下セル唾液ノ刺激、食品通過後ニ於ケル後續分泌乃至精神的分泌等ノ數因ハ或ハ單獨ニ或ハ相關聯シテ空腹時胃液滯留ノ原因ヲナスト云ヒ、又水分ノ飲用ニ依テモ少量ノ分泌ヲ喚起スルハ既知ノ事實ナリ、是ニ依テ觀レバ絶体ニ間歇スルノ時期ハ意外ニ短時間ナリトナサルベカラズシテ其ノ状態血行中ニ入ルノ状態ト相隔ルコト遠カラズ、一程度マデ正比例的ナリト云フヲ得ベキモノ、如シ。

實驗的饑餓時ニ於テ胃液分泌ノ起喚セラル、ハ明カナリト雖モ其量ノ多量ナラザルハ當然ナリトス、而シテ此際ニ於ケル尿「ベアレン」ノ量ノ多量ナラザルハ余ノ實驗ノ示ス所ノ如シ、是ヲ以テ觀レバ實驗的饑餓時ニ於テモ胃腺ノ内外ヘノ分泌ハ一程度マデ相平行セリト見做シテ太過ナカルベシ。今ヤ余ハ胃腺ヨリ血行中ニ移行セルノ關係ナ一程度マデ徹底的ニ論述セリト信ズ、而シテ叙上論ズルガ如ク Sahli, Gehrig, Hoffmann, Grober, Wilenko, Falk 及 Bi Kolich 等ノ諸氏ノ空腹時增多セルノ説ハ全然信ズマカ

ラズシテ Ellinger 及 Scholze 氏ノ朝時ノ增多ハ多クノ場合ニ適合スルモ總テノ場合ニ然ルニ非ズトセルハ其ノ本末ヲ誤マルノ觀察ナリトナサザルベカラザルガ如ク [E] 及 [F] 平山氏ノ說ニ至ツテハ「プロベプシン」ノ持續的ニ血行中ニ入ルトナセルノ點ニハ實スベキモ食事ノ刺激ニ依リ胃腔内分泌亢進ニ無關係ナリトナセルノ點ハ是ヲ疑ハザルヲ得ザルニ歸着シ、上記一日中ニ於ケル尿「ペプシン」濃度ノ著シク動搖スルモノニ非ザルノ實驗ヲ根據トシテ論セル所ニ一致セルノ結論ニ到達セリ、而シテ饑餓時ニ於ケル「プロベプシン」ノ血行中ニ入ルノ程度ノ大体ヲ明カニシ、且ツ是ト胃腔分泌トノ關係ヲ論斷シ [E] 及 [F] 平山氏ノ所說ニ一步ノ知見ヲ加ヘタルノ點ニ至ツテハ特筆スルニ値スマシト信ズ。

終ニ臨ミ本節ノ實驗ニ依テ得タル所ヲ再言スレバ下ノ如シ「プロベプシン」ハ畧ホ持續的ニ血行中ニ移行スベキモ食事ノ刺激ニ依リ胃腔内分泌トハ密接ナル關係ヲ有シ胃腔内分泌ノ旺盛ナル食後ニ於テハ多量ニ移行シ、胃腔内分泌ノ少量ナル饑餓時ニ於テハ移行量亦少量ナリ、即チ其ノ關係一程度マデ正比例的ナリ。

第三節 「ペプシン」(「プロベプシン」)ノ胃腔内分泌量ト血行中ヘノ移行量トノ總量的關係ニ就テ

前節ニ於テハ胃腺ノ内外ヘノ分泌機能ノ部分的ニハ畧ホ相平行スルヲ明カニセリト雖モ總量的關係ハ尙ホ不明ナリト云ハザルベカラズ、即チ一日中ニ於テ内外ヘ分泌スル總量ガ平行的ナルヤ否ヤノ問題ナリ、然レモ胃腔内ニ分泌セラレタル「ペプシン」ハ食後一定時ヲ經レバ食糜ト共ニ漸次腸管内ニ入ルヲ以テ一日中ニ分泌セラレ、總量ハ是ヲ定ムル能ハズ、是ヲ以テ胃腔内分泌量ト血行中ヘノ移行量トノ總量的關係ヲ正確ニ知ラントスルハ不可能

ナリト謂ハザルベカラズ、故ニ吾人ハ唯ダ其ノ概畧ヲ知ルノミヲ以テ満足セザルベカラザルヤ勿論ナリ。

食後一定時ニ採取セル胃液ニ於ケル「ペプシン」量ハ空腹時ニ分泌ヲ持續スル慢性持續性分泌過多症等ノ場合ヲ除イテハ一日中ニ於ケル總分泌量ヲ表示スルノ標準トナシ得ベキヲ以テ是ト一日ノ全尿ノ尿「ペプシン」價トヲ比較スレバ總量的關係ノ概畧ヲ知リ得ベシ。

胃粘膜ガ解剖的變化ニ陥リ或ハ全身の異常ニ依テ分泌機能障礙ヲ來セル際ニ於テ「プロベプシン」ノ血行中ニ移行スルノ量ガ胃腔内分泌量ニ正比例スルヤ否ヤノ問題ハ實際ニ極メテ重要ナリトス、是レ此事實ノ存スルアリテコソ初メテ胃疾患ノ診斷ニ應用シ得ベキヲ以テナリ。

余ハ本論文ノ第一篇ニ於テ余ノ新定量法ノ價值ヲ定ムルニ際シ胃ノ分泌機能生理的ナルモノ四名、病的ナルモノ六名ニ於テ胃液「ペプシン」量トノ關係ヲ檢セリト雖モ一名ヲ除イテハ一日中ノ全尿量ヲ計リ得ザリシヲ以テ從ツテ全尿「ペプシン」價ヲ定ムル能ハズ、本項研究ノ目的ニ必要ナル條件ヲ缺クモノト云ハザルベカラズト雖モ、然レモ尙ホ其ノ大体ヲ知ラシムルノ價值ナシト云フ能ハザルヲ以テ茲ニ再ビ是ヲ掲ゲントス。

甲、胃液「ペプシン」量生理的ナルモノ、尿「ペプシン」量ニ就テノ試驗

胃液「ペプシン」量ハ [C] 氏法ニ依テ定量シ尿「ペプシン」量ハ余ノ定量法ニ依テ是ヲ定メテ、今了解ニ便ナラシメンガ爲メニ前者ノ法ヲ述ブレバ次ノ如シ。

試驗朝食トシテ麵麩八〇、〇瓦、食鹽、白糖各一、五瓦、白湯二〇〇、〇、ト用ヒ一時十五分ヲ經テ胃液ヲ採取シ濾過シ十倍ニ稀釋シ其ノ〇、一〇、二〇、三〇、四〇、五瓦ヲ一、〇、〇、〇、〇「カゼイン」溶液一〇、〇、〇、〇ト加ヘ四十度ニ

於テ十五分間消化セシメ Gross 氏法ニ依テ單位ヲ定メタリ

表 三 十 第
(驗試月一十至乃月十年六正大)

番 號	被 檢 者	性 別	年 齡	職 業	胃液「ペプシン」單位 (Gross 氏)	尿「ペプシン」單位 試驗ニ用ヒタル尿 量(耗)	尿濁出現ノ有無
一	福 〇	男	一九	農	$1.0 \times 10 = 25$	1	+
二	西 〇	〃	二七	〃	$1.0 \times 10 = 33$	1	+
三	松 〇	〃	〃	教師	〃	1	+
四	田 〇	〃	〃	農	〃	1	+

右ノ試驗ニ依レバ胃液「ペプシン」單位ノ生理的ナルモノニ於テハ尿「ペプシン」單位畧ボ一定セルガ如シ即チ血
行中ヘノ移行量ハ胃腔内分泌量ニ畧ボ正比例的ナルヲ教フルモノト云ハザルベカラズ。

乙、胃液「ペプシン」量減少又ハ缺如セル場合ノ尿「ペプシン」量ニ就テノ試驗

胃液ニ於ケル「ペプシン」量減少セルモノ五名、缺如セルモノ一名ニ於テ試驗セリ試驗法ハ前法ニ同ジ。

番 號	被 檢 者	性 別	年 齡	職 業	病名及ビ胃液「ペプシン」單位 (Gross 氏)	尿「ペプシン」單位 試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿濁出現ノ有無
一	森田 男	〃	〃	活版業	十二指腸蟲病 0.2×5	100.0	+
二	黒瀬 〃	〃	〃	農	胃痛ノ疑 0.1×10	50.0	+
三	佐竹 〃	〃	〃	呉服店員	慢性胃加答兒 0.1×10	50.0	+
四	東谷 〃	〃	〃	醬油店主	慢性胃加答兒 $0.5 \times 10 = 20$	50.0	+
五	枝村 〃	〃	〃	職工	胃擴張 $1.0 \times 10 = 20$	50.0	+
六	出原 女	〃	〃	植木商	胃痛 〇	100.0	+

表 四 十 第
(驗試月一年七至乃月十年六正大)

番 號	被 檢 者	性 別	年 齡	職 業	病名及ビ胃液「ペプシン」單位 (Gross 氏)	尿「ペプシン」單位 試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿濁出現ノ有無
一	森田 男	〃	〃	活版業	十二指腸蟲病 0.2×5	100.0	+
二	黒瀬 〃	〃	〃	農	胃痛ノ疑 0.1×10	50.0	+
三	佐竹 〃	〃	〃	呉服店員	慢性胃加答兒 0.1×10	50.0	+
四	東谷 〃	〃	〃	醬油店主	慢性胃加答兒 $0.5 \times 10 = 20$	50.0	+
五	枝村 〃	〃	〃	職工	胃擴張 $1.0 \times 10 = 20$	50.0	+
六	出原 女	〃	〃	植木商	胃痛 〇	100.0	+

右ノ試驗ニ依テ觀レバ胃液ニ於テ含量ノ少量ナルモノハ尿ニ於テモ亦少量ナリ、然レモ右述ノ如ク右ノ試驗
ニ於テハ一名(第六號患者)ヲ除イテハ全尿量ヲ計リ得ザリシヲ以テ嚴密ニ其ノ含量ガ平行ナリヤ否ヤハ是ヲ斷
定スル能ハズ、然レモ是ニ依テ一程度マデ正比例的關係ヲ有セルハ畧ボ推知シ得ルモノ、如シ、第六號患者ノ尿
量ハ九〇〇〇耗ナリシト雖モ胃液ニ於テ全ク「ペプシン」ヲ缺如セルモノナリシヲ以テ量的關係ヲ判斷スルノ材料ト
ナス能ハズ、唯ダ胃液ニ於テ缺如セルモノハ尿ニ於テモ亦然ルヲ證スルノ資料トナシ得ベキノミ。

斯クノ如ク以上記スル所ヲ以テシテハ其ノ關係ノ大体ヲ知リ得ルニ止ルヲ以テ余ハ更ニ試驗ヲ重テテ是ヲ精密

ナラシメントシタリ。

實驗一、本試驗ハ全ク右ノ試驗ニ倣ヒタリト雖モ一日中ノ全尿量ヲ計リ以テ全尿ノ「ペブレン」價ヲ判明ナラシメタルヲ異ニセリ。

甲、胃液「ペブレン」量ノ生理的ナルモノ、尿「ペブレン」價、

第十五表 (大正九年試驗)

番 號	試 驗 日	被 檢 者 別 性 年 齡 業 職	病 名 及 ビ 胃 液 「ペブレン」 單 位 (Gross氏)	一 日 ノ 全 尿 量 (耗)	尿 「ペブレン」 單 位 試 驗 ニ 用 ヒ タ ル 尿 量 (耗)	尿 シン
一	大正九年四月三日	中○男 三 農	1.7 G ₃ × 10 = 33	一三五	一	一
二	全月十一日	山○ 〃 元 〃	〃	一四五	一	一
三	十月廿日	西○ 〃 三 〃	〃	一三五	+	+

乙、胃液「ペブレン」量ノ減少セルモノ、尿「ペブレン」價

第十六表 (全前)

番 號	試 驗 日	被 檢 者 別 性 年 齡 業 職	病 名 及 ビ 胃 液 「ペブレン」 單 位 (Gross氏)	一 日 ノ 全 尿 量 (耗)	尿 「ペブレン」 單 位 試 驗 ニ 用 ヒ タ ル 尿 量 (耗)	尿 シン
一	大正九年四月十一日	木○男 三 農	慢性胃加答兒 1.0 0.5 × 10 = 20	一四〇	一	一
二	全月廿一日	野○ 〃 三 無	全前	一五〇	一	+
三	五月七日	經○女 三 農	胃癆ノ疑 1.0 0.2	九〇〇	+	+
四	九月廿六日	中○男 三 教師	全前	一〇五〇	+	+
五	十月五日	山○ 〃 七 農	慢性胃加答兒 1.0 0.4 × 10 = 25	一四〇〇	+	+

右ノ試驗ハ其ノ例數餘リニ少數ニ過グト雖モ是ニ依テ觀レバ尿「ペブレン」價ハ胃液「ペブレン」單位ノ二三即チGross氏ノ生理的單位ナルモノニ於テハ二〇乃至三五六、二五ナルモノニ於テハ一八七、二〇ナルモノニ於テハ一二〇及ビ一八〇、五ナルモノニ於テハ七二及ビ八六ニシテ一般ニ胃液「ペブレン」單位ニ比スレバ稍々著シク動搖スト雖モ大体ニ於テ正比例的關係ヲ有スルモノト謂ハザルベカラザルガ如シ。

尿「ペブレン」價ガ胃液「ペブレン」單位ニ比シ動搖スルノ理由ニ至ツテハ

- 一、胃腺ヨリスル内外ヘノ總分泌量ガ正比例的關係ヲ有セザルニ因ルカ、
- 二、胃腺ヨリスル内外ヘノ總分泌量ハ畧ホ正比例スルモ、(イ)尿量ノ動搖等ノ關係ニヨリ正確ニ一日中ニ胃腺ヨリ血行中ニ入ルノ全量ヲ排泄セザルニ因ルカ、(ロ)胃液「ペブレン」單位ハ食後一定時ニ於ケル濃度ニ他ナラ

ザルモ尿「ベブレン」價ハ一日中ノ總「ベブレン」價ナルヲ以テ其ノ間ニ差異ヲ來スチ寧ロ當然トスルカ、
等ノ條件ヲ考ヘザルベカラズシテ而シテ余ハ第二項ノ全部ヲ認容セザルベカラザルベシト信ズ、然レモ正比例
的關係ナル字義ヲ狹義ニ解釋センカ第一項ヲモ亦是認セザルベカラザルヤ勿論ナリトス。

胃液「ベブレン」定量法ト尿「ベブレン」定量法ノ何レガ胃腺ノ總量ノ分泌機能ヲ表示スルニ適スルヤハ容易ニ決
定シ能ハサル問題ナリトス。

抑々胃液「ベブレン」定量法ハ一見其ノ際ニ於ケル胃液「ベブレン」濃度ヲ正確ニ示スモノ、如シト雖モ決シテ然
ラズ、是レ此際「ベブレン」ガ胃ノ内容ニ平等ニ混在セルヤ否ヤ、又胃ノ内容ノ全部ヲ採取シ得タルヤ否ヤヲ知ル
能ハザルヲ以テナリ、即チ其ノ正確度殆ンド尿「ベブレン」定量法ト撰ブ所ナリト云ハザルベカラズ、然レモ食後
ニ於ケル分泌量ヲ定ムルノ法トシテハ胃液検査法ニ一歩ノ長アルハ是ヲ否認スル能ハサルベシト雖モ一日中ニ於
ケル總分泌量ヲ定ムルノ法トシテハ胃液検査法ハ落伍セザルヲ得ズ、何ントナレバ一日中ニ分泌スル胃液ノ全部
ヲ採取スル能ハサルヲ以テナリ、然ルニ尿「ベブレン」定量法ヲ以テスレバ假令其ノ正確度ニ於テハ尙ホ論議ノ餘
地ナシト云フ能ハズトスルモ容易ニ是ヲ明カニシ得ルナリ、論者或ハ曰ハシ、試験食後ニ於ケル胃液「ベブレン」
量ヲ以テ一日中ノ總分泌量ヲ示スノ標準トナスモ大過ナカラント、然リ多クノ場合ニ於テハ然リトス、然レドモ
慢性持續性分泌過多症等ノ場合ニ於テハ其ノ間ニ多少ノ相違ヲ來サルベカラザルナリ、何ントナレバ食後ノ分
泌量ノミ是ト同程度ノ場合ト成績ニ差違ヲ示サルベキヲ以テナリ、即チ一日中ニ於ケル總分泌量ヲ知ルノ方法
ハ尿「ベブレン」定量法ヲ措テ他ニ需ムベカラズト云フモ過言ニ非ラサルベシ。

是ヲ要スルニ余ハ本節ノ試験ニ依テ「ベブレン」ノ胃腔内分泌量ト血行中へ移行スル量トノ總量ガ生理的ノ場合
ニモ將タ病的ノ場合ニ於テモ略ホ正比例的關係ヲ有スルヲ立證シ而シテ尿「ベブレン」定量法ノ價値ノ存スル所ヲ
明カニセルモノナリ。

第二章 健康邦人尿ノ「ベブレン」價(總「ベブレン」價)ニ就テ 第一節 緒論

尿「ベブレン」ニ關スル文献散ラズシト云フベカラズ、然レモ一日ノ全尿ノ總「ベブレン」價ヲ數字ニ於テ表ハレ
其ノ動搖並ニ個人的差異ヲ明瞭ナラシメタルノ論著ハ未ダ稀有ナルモノ、如シトJodanis氏(19)ハ乳兒ニ於テハ第
一日ニ於テ少ク漸次増量シテ第二年ノ間ハ大人ノ排泄量ノ約三十分ノ一ヲ算シ人工營養兒ニ於テハ母乳營養兒ニ比
シ排泄量多シト云ヘリト雖モ乳兒ニ於ケルガ如ク全尿ヲ集ムルコトノ困難ナルモノニ於テハ割然ト總「ベブレン」
價ヲ知ルコト難ク、又大人ト雖モ男女、年齢、體重等個人的關係ヲ異ニスルニ依リ差異アルヲ當然トスベキヲ以テ
氏ノ業績ハ其ノ關係ノ大体ヲ示スモノト云ハザルベカラズ、余ハ全尿ヲ集ムルコトノ難キ乳兒ハ暫ク是ヲ措キ正
確ナル全尿量ヲ知り得ルノ年齢ニ達セル小兒及ビ大人ニ於テ余ノ定量法ニ依テ尿「ベブレン」價ヲ定メ以テ左ノ諸
項ヲ決定セント企テタリ。

- 一、尿量ノ動搖ト尿「ベブレン」濃度及ビ尿「ベブレン」價トノ關係
- 二、尿「ベブレン」價ノ動搖ノ狀態
- 三、年齢ト尿「ベブレン」價トノ關係

四、年齡及小便『ベプシン』價ト尿量トノ關係
 五、年齡及小便『ベプシン』價ト體重トノ關係
 六、男女間ニ於ケル尿『ベプシン』濃度ノ差異
 七、職業ト尿『ベプシン』價トノ關係
 八、授乳婦及非授乳婦間ニ於ケル尿『ベプシン』價ノ差異
 九、尿『ベプシン』價ト尿總窒素量トノ關係
 而シテ是ガ決定ハ多數ノ人員ニ於テ並ニ同一人ニ於テ瀕回検査スルコトニ依テ可能ナルハ疑ヒ無キ所ナルヲ以テ此方針ニ從ツテ研究セリ。

第二節 健康邦人尿ノ『ベプシン』價表

余ハ前節ニ於テ述ヘタルガ如ク健康邦人尿ニ於ケル『ベプシン』價ヲ定メ、而シテ是ニ基キテ種々ノ知見ヲ闡明セント企圖セルガ元ト健康人ノ全尿ヲ集ムルハ容易ノ業ニ非ズ何トナレバ病床ニ起臥セルモノト異ナリ各自其ノ業ニ從フヲ以テナリ、特ニ野外ニ勞働スルモノニ至ツテハ甚ダシク困難ナリト云ハサルヘカラズ、余モ亦實ニ此點ニ於テ擲ナカラズ苦心セルモノナルガ漸クニシテ總人員八十八人、採尿總日數二百四十二日ヲ數フルヲ得タリ、而

シテ余ハ成ル可ク連續シテ三日間採尿セントシタリト雖種々ノ事情ニ依リ連續セシメ得サリシモノ多數ナリシノミナラズ、亦二日間、而カノミナラズ一名ニ於テハ一日間採尿シ得タルノミナリ、然レモ余及ビ余ノ家族ニ於テハ四日乃至十二日間採尿セタリ、左ニ掲グル所ハ男女別トシ採尿日(第一日)順ニ配列シタル成績表ナリ、茲ニ余ガ特ニ本節ニ於テ其ノ成績表ノミヲ掲グル所以ノモノハ各研究項目毎ニ是ヲ掲グルノ法ヲ採ランカ、其ノ都度本表ノ殆ンド全部ヲ掲載セサルベカラサルヲ以テ實ニ紙員ヲ増加セシムルノミナラズ讀者ヲシテ其ノ煩ニ耐エサラシムルモノアルヲ以テ茲ニ先ヅ成績表ヲ掲グ次節以降各項目ヲ論述スルニ當ツテハ單ニ必要ナル程度ニ於テ摘録セントセルガ爲メニ他ナラズ。

第一號 野村正一 男 年齢 三七 職業 醫師

身長 一六九仙透 胸圍 八五仙透 體重 五六基瓦

體格長大、營養稍々良、全身ニ異常無シ、食忠良、

尿量(二十四時間ノ全尿)	尿色	反應(比重其他)	試驗(用ヒタリ尿量(託))	尿『ベプシン』價
九月一日 一五〇	帶赤黃	酸 一〇.一七	濁濁出現ノ有無	三二二
全二日 一八〇	〃	〃 一〇.一〇		三二二
				三二二
				三二二
				三二二
				三二二
				三二二
				三二二
				三二二
				三二二

採尿日	尿量(耗)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	濁濁出現ノ有無	尿一價
全三三	九七五	〃	〃	〃	〃	+	-	二六〇
全三九	一六三〇	〃	〃	〃	〃	+	-	四三三
全三拾日	一七〇〇	〃	〃	〃	〃	+	-	四三三
拾月一日	一五六〇	〃	〃	〃	〃	+	-	四二六
拾一月拾四日	二四八〇	黃	〃	〃	〃	+	+	三九七
全拾五日	一八五〇	〃	〃	〃	〃	+	-	四九三
全拾六日	二四五〇	〃	〃	〃	〃	+	-	四九〇
拾二月九日	二四〇〇	帶赤黃	〃	〃	〃	+	-	三八四
全拾日	二四五〇	〃	〃	〃	〃	+	-	四九〇
全拾一日	二三五〇	〃	〃	〃	〃	+	-	四六七
平均	一九三八	〃	〃	〃	〃	+	-	四一四

第二號

木村 〇 〇 男 年齡 三九 職業 農

身長 一六五仙迷 胸圍 八五仙迷 體重 五五基瓦
 體格強大、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思良、

採尿日	尿量(耗)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	濁濁出現ノ有無	尿一價
九月拾四日	一五九〇	帶赤黃	酸	一〇一七	〃	+	-	三三八
全拾五日	一七九〇	〃	〃	一〇一六	〃	+	-	三五八
全拾六日	二二八〇	〃	〃	一〇一〇	〃	+	-	三五五
平均	一五三三	〃	〃	一〇一八	〃	+	-	三四

第三號

野村 行夫 男 年齡 一〇 職業

身長 一二六仙迷 胸圍 六二仙迷 體重 二五基瓦
 體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思大ニ派フ、

採尿日	尿量(耗)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	濁濁出現ノ有無	尿一價
九月拾日	九二五	淡黃	酸	一〇一八	〃	+	-	九二
拾月三日	五五〇	黃	〃	一〇一一	〃	+	-	八八
拾月拾四日	九五〇	〃	〃	一〇一五	〃	+	-	九六

全二種百	六七五	〃	〃	〃	+	+	九〇
全三種百	一〇八〇	〃	〃	〃	+	+	一〇四
平均	九五〇	〃	〃	〃	+	+	一〇五
平均	八五四	〃	〃	〃	+	+	一〇五

第四號

野村 幸次 男

年齢 一〇

職業

身長 一三一仙迷

胸圍 六一仙迷

體重 二七基瓦

體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良

探尿	尿(二十四時間ノ全尿)	量	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿ニベ
日	九七五	淡黄	酸	〃	〃	〃	五二〇	二二
全二種百	九〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九〇
全三種百	九〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九〇
平均	八二〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九〇
平均	八九二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九〇

第五號

山縣 〇 男

年齢 八八

職業 無

身長 仙迷

胸圍 仙迷

體重 凡三〇基瓦

骨格ハ良ナルモ筋肉瘦削シ起居自由ナラズ、食量少量ニシテ一回ニ漸ク米飯一椀ヲ用フルノミト云フ、然レモ内臟器ニハ著明ナル異常ナシ、即チ生理的的老衰病ナリトス、

探尿	尿(二十四時間ノ全尿)	量	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿ニベ
日	四〇〇	帶赤黄	酸	〃	〃	〃	五二〇	四〇
全二種百	四〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四〇
平均	四〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四〇

第六號

枝村 〇 男

年齢 四

職業

身長 九八仙迷

胸圍 五〇仙迷

體重 一四基瓦

體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、

探尿	尿(二十四時間ノ全尿)	量	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿ニベ
日	七〇〇	淡黄	酸	〃	〃	〃	五二〇	七〇
全二種百	七〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七〇
平均	七〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七〇
平均	七〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七〇

第七號

薙野 ○ 男 年齡 七 職業 一六基瓦
 身長 一一三仙迷 胸圍 五三仙迷 體重 一六基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良、

採尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一價
日(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾見日 五〇〇	黃 酸 一〇三三	五二〇五三〇三三〇四〇五〇六〇七〇八〇九〇白	價
全拾日 六七〇	〃 〃 一〇一七	+	四
全拾日 三八〇	〃 〃 一〇一六	+	四
平均 五七	〃 〃 一〇一九	+	四

第八號

薙野 ○ 男 年齡 九 職業 二四基瓦
 身長 一二三仙迷 胸圍 六〇仙迷 體重 二四基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良、

採尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一價
日(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾見日 七五	黃 酸 一〇一八	五二〇五三〇三三〇四〇五〇六〇七〇八〇九〇白	價
全拾日 六九五	〃 〃 一〇一一	+	三
平均 七〇	〃 〃 一〇一五	+	三

第九號

吉富 ○ 男 年齡 一八 職業 稅務署員
 身長 一六〇仙迷 胸圍 八〇仙迷 體重 九四七基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常ナシ、食思良

採尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一價
日(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾見日 八五〇	帶赤黃 酸 一〇三三	五二〇五三〇三三〇四〇五〇六〇七〇八〇九〇白	價
全拾日 一〇〇	〃 〃 一〇三三	+	一
平均 九七五	〃 〃 一〇一八	+	一

第一〇號

且原 ○ 男 年齡 一〇 職業 二一基瓦
 身長 一一〇仙迷 胸圍 五八仙迷 體重 二一基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常ナシ、食思良、

採尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一價
日(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾見日 六五〇	淡黃 酸 一〇一八	五二〇五三〇三三〇四〇五〇六〇七〇八〇九〇白	價
全拾日 二五〇	〃 〃 一〇一〇	+	一
平均 九五〇	〃 〃 一〇一四	+	一

第一號

吉富 ○ 男 年齡 一
身長 一八八仙迷 胸圍 六五仙迷 職業 二八基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	潤濁出現ノ有無	價
拾日拾日	五四五帶赤黃 酸 二〇五	五二〇五二〇五三〇五四〇五五〇五六〇五七〇五八〇五九〇六〇	五
全拾日	七五五 黃 〃 〃 二〇八	十士一	六
全拾日	六二〇 〃 〃 〃 〃 一〇七	十士一	六
平均	六四〇	一〇七	六

第一二號

三池 ○ ○ ○ 男 年齡 六三 職業 磨工
身長 一五一仙迷 胸圍 八三仙迷 體重 四四基瓦
體格營養共ニ不良ナラズ、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良、

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	潤濁出現ノ有無	價
拾日拾日	二九九帶赤黃 酸 一〇三	十士一	二五三
全拾日	一〇〇〇 〃 〃 〃 〃 一〇六	十士一	四〇〇
全拾日	一九〇 〃 〃 〃 〃 一〇一	十士一	三三八
平均	一四八	一〇一	三二〇

第一三號

齋藤 ○ ○ 男 年齡 一四 職業 三六基瓦
身長 一四五仙迷 胸圍 七四仙迷 體重 三六基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常ナシ、食思良

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	潤濁出現ノ有無	價
拾日拾日	淡黃 酸 一〇九	十士一	一六三
全拾日	〇九五 黃 〃 〃 一〇三	十士一	一四六
全拾日	二六五 〃 〃 〃 〃 〃 〃	十士一	一八六
平均	三三〇	一〇三	一六五

第一四號

國光 ○ ○ 男 年齡 一九 職業 農
身長 一五七仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 五二基瓦
體格營養共ニ良、全身ニ異常ナシ、食思大ニ減フト云フ、

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	潤濁出現ノ有無	價
拾日拾日	黃 酸 一〇四	五二〇五二〇五三〇五四〇五五〇五六〇五七〇五八〇五九〇六〇	三〇〇
全拾日	二五〇 〃 〃 〃 〃 一〇三	十士一	三三三
平均	二八八	一〇四	三二七

第一五號 繩田○○○男 年齡 六 職業 體重 一五基瓦

身長 一一〇仙迷 胸圍 五〇仙迷 體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日(耗)	色 反應 比重 其他	濁濁出現ノ有無	フレン
稀身拾百二五〇	黄 酸 二〇四	五 一〇 一五 二〇 二五 三〇 三五 四〇 四五 五〇 五五 六〇 六五 七〇 七五 八〇 八五 九〇 九五 一〇〇	價
全拾百四四五	〃 〃 二〇五	+	四八
平均 四九六	〃 〃 二〇五	+	四〇
		+	四四

第一六號 國光○○○男 年齡 二七 職業 下駄職 體重 四九基瓦

身長 一六〇仙迷 胸圍 八七仙迷 體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、食思ハ良ナリト云フ、

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日(耗)	色 反應 比重 其他	濁濁出現ノ有無	フレン
稀身拾百二五〇	帶赤黄 酸 二〇九	五 一〇 一五 二〇 二五 三〇 三五 四〇 四五 五〇 五五 六〇 六五 七〇 七五 八〇 八五 九〇 九五 一〇〇	價
全拾百二三五	〃 〃 二〇九	+	一七
平均 二四三	〃 〃 二〇九	+	一七五
		+	一七
		+	一七五
		+	一八二

第一七號 國光○○○男 年齡 六三 職業 農 體重 五六基瓦

身長 一六六仙迷 胸圍 八七仙迷 體格強大營養中等、全身ニ異常ナシ、食思良ナリト云フ

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日(耗)	色 反應 比重 其他	濁濁出現ノ有無	フレン
稀身拾百二四二五	帶赤黄 酸 二〇七	五 一〇 一五 二〇 二五 三〇 三五 四〇 四五 五〇 五五 六〇 六五 七〇 七五 八〇 八五 九〇 九五 一〇〇	價
全拾百二〇〇	黄 〃 二〇四	+	一八九
平均 二八〇	〃 〃 二〇四	+	二六五
		+	二六五
		+	三五

第一八號 且原○○○男 年齡 四五 職業 左官職 體重 六〇基瓦

身長 一六三仙迷 胸圍 八六仙迷 體格強大營養佳良、全身ニ異常ナシ、食思良

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日(耗)	色 反應 比重 其他	濁濁出現ノ有無	フレン
稀身拾百二三〇〇	帶赤黄 酸 二〇三	五 一〇 一五 二〇 二五 三〇 三五 四〇 四五 五〇 五五 六〇 六五 七〇 七五 八〇 八五 九〇 九五 一〇〇	價
全拾百二六〇〇	〃 〃 二〇三	+	五二四
平均 一四五五	〃 〃 二〇三	+	四二六
		+	四七五

第一九號

國弘 ○ ○ 男 年齡 三〇 職業 無
身長 一五八仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 四九基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレソ
稀薄六日二四五帶赤黃	五〇一五〇三三〇四四〇五五〇六〇七〇八〇九〇百		價
全檢七〇〇〇	〃	+	一九〇
平均二五三	〃	+	一八五
		+	一八八

第二〇號

長谷川 ○ ○ 男 年齡 九 職業 無
身長 一一四仙迷 胸圍 六〇仙迷 體重 二三基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレソ
稀薄六日八三〇	五〇一五〇三三〇四四〇五五〇六〇七〇八〇九〇百		價
全檢七〇〇〇	〃	+	一〇〇
平均七三三	〃	+	八三
		+	六

第二一號

田中 ○ ○ 男 年齡 二二 職業 下男
身長 一四七仙迷 胸圍 八五仙迷 體重 四九基瓦
體格強健營養良、全身ニ異常ナシ、食思振フト云フ

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレソ
稀薄六日二五〇帶赤黃	五〇一五〇三三〇四四〇五五〇六〇七〇八〇九〇百		價
全檢七〇〇〇	〃	+	二五〇
平均九一五	〃	+	一六五
		+	一五
		+	一九七

第二二號

中田 ○ ○ 男 年齡 四七 職業 酒造業主人
身長 一五八仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 六四基瓦
體格營養共ニ佳良、皮下脂肪層ハ過多、凡ソ四ヶ月前ヨリ萎縮腎ノ疑アリトテ蛋白性食餌ヲ節減セリト云フ

探尿量	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日量	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレソ
稀薄六日二一〇	五〇一五〇三三〇四四〇五五〇六〇七〇八〇九〇百		價
全檢七〇〇〇帶赤黃	〃	+	二四〇
全檢七〇〇〇	〃	+	一七三
平均一八四七	〃	+	一九五

第二三號

重成 ○ 男 年齡 一五 職業 無
身長 一三七仙迷 胸圍 六五仙迷 體重 二八基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良

採尿日	尿量(託)		色	反應比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	濁濁出現ノ有無	尿價
	量	託						
拾月拾七日	七六〇	淡黃	酸	1019		五1015	+	100
全三拾日	八五〇	帶赤黃	〃	1018		五1015	+	113
全三拾日	1100	黃	〃	1017		五1015	+	116
平均	943			1018				116

第二四號

宇賀 ○ 男 年齡 一一 職業 無
身長 一三一仙迷 胸圍 六五仙迷 體重 二三基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

採尿日	尿量(託)		色	反應比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	濁濁出現ノ有無	尿價
	量	託						
拾月拾七日	二六〇	黃	酸	1016		五1015	+	115
全三拾日	八五〇	〃	〃	1009		五1015	+	113
平均	1003			1013				114

第二五號

重成 ○ 男 年齡 一四 職業 無
身長 一三〇仙迷 胸圍 六四仙迷 體重 二六基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ

採尿日	尿量(託)		色	反應比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	濁濁出現ノ有無	尿價
	量	託						
拾月拾七日	1030	淡黃	酸	1010		五1015	+	103
全三拾日	五九〇	帶赤黃	〃	1014		五1015	+	59
平均	810			1013				81

第二六號

重成 ○ 男 年齡 三八 職業 稅務官吏
身長 一六二仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 四六基瓦
體格營養共ニ佳良、內臟器ニ異常ヲ認メズ、食思良

採尿日	尿量(託)		色	反應比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	濁濁出現ノ有無	尿價
	量	託						
拾月拾七日	二五	帶赤黃	酸	1011		五1015	+	313
全三拾日	二五	〃	〃	1013		五1015	+	312
全三拾日	二二五	黃	〃	1013		五1015	+	314
平均	213			1013				316

第二七號

身長 一五四仙迷 胸圍 七九仙迷 職業 吳服店員
體格營養共ニ中等、内臟器ニ異常ヲ認メズ、食量ハ多量ナラズト云フ

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿(二十四時間ノ全尿)	
日(耗)	色	反應	比重	其他	有無	有無	價
拾月二拾日	黃	酸	1.016		+	+	1.29
全三拾日	〃	〃	1.018		+	+	1.25
全三拾日	〃	〃	1.015		+	+	1.20
平均	〃	〃	1.016		+	+	1.28

第二八號

身長 一五七仙迷 胸圍 八四仙迷 職業 大工職
體格營養共ニ中等、内臟器ニ異常無シ、食思良

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿(二十四時間ノ全尿)	
日(耗)	色	反應	比重	其他	有無	有無	價
拾月二拾日	黃	酸	1.017		+	+	1.33
全三拾日	〃	〃	1.010		+	+	1.31
拾月一日	〃	〃	1.016		+	+	1.37
平均	〃	〃	1.018		+	+	1.37

第二九號

身長 一一四仙迷 胸圍 五二仙迷 職業 一八基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿(二十四時間ノ全尿)	
日(耗)	色	反應	比重	其他	有無	有無	價
拾月二拾日	黃	酸	1.015		+	+	1.6
拾月二拾四日	淡黃	〃	1.015		+	+	1.6
平均	〃	〃	1.010		+	+	1.6

第三〇號

身長 一六〇仙迷 胸圍 八五仙迷 職業 器械職工
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿(二十四時間ノ全尿)	
日(耗)	色	反應	比重	其他	有無	有無	價
拾月二拾日	黃	酸	1.013		+	+	1.94
全三拾日	〃	〃	1.017		+	+	1.97
平均	〃	〃	1.010		+	+	1.91

第三號

西 〇 〇 男 年齡 二五 職業 製紙職工
身長 一六六仙迷 胸圍 八七仙迷 體重 五七基瓦
體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思良

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	尿一ベ
日(託)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月一日	〃 〃 〃	〃	價
拾月二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三十日	〃 〃 〃	〃	〃
平均	〃 〃 〃	〃	〃

第三二號

中務 〇 〇 男 年齡 五二 職業 吳服店員
身長 一五五仙迷 胸圍 八〇仙迷 體重 四五基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	尿一ベ
日(託)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月一日	〃 〃 〃	〃	價
拾月二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三十日	〃 〃 〃	〃	〃
平均	〃 〃 〃	〃	〃

第三三號

長谷川 〇 〇 男 年齡 一〇 職業
身長 一三〇仙迷 胸圍 六二仙迷 體重 二八基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	尿一ベ
日(託)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月一日	〃 〃 〃	〃	價
拾月二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三十日	〃 〃 〃	〃	〃
平均	〃 〃 〃	〃	〃

第三四號

吉武 〇 〇 男 年齡 一一 職業
身長 一一九仙迷 胸圍 六六仙迷 體重 二八基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試驗ニ用ヒタル尿量(託)	尿一ベ
日(託)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月一日	〃 〃 〃	〃	價
拾月二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十一日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十二日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十三日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十四日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十五日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十六日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十七日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十八日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月二十九日	〃 〃 〃	〃	〃
拾月三十日	〃 〃 〃	〃	〃
平均	〃 〃 〃	〃	〃

第三五號

野村 ○ ○ 男 年齡 四〇 職業 農
身長 一六六仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五四基瓦
體格強大、營養良、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良

採尿日	尿量 (耗)		色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	瀉濁出現ノ有無	尿一ベ ブレン 價
	一月一日	一月二日					
一月一日	二〇二	二〇八	酸	1.010	五〇	+	三六
一月二日	二〇二	二〇八	酸	1.010	五〇	+	三六
平均	二〇二	二〇八		1.010			三六

第三六號

坂 ○ ○ 男 年齡 一〇 職業 農
身長 一一〇仙迷 胸圍 六〇仙迷 體重 二三基瓦
體格強健、營養良、全身ニ異常ヲ認メズ

採尿日	尿量 (耗)		色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	瀉濁出現ノ有無	尿一ベ ブレン 價
	一月一日	一月二日					
一月一日	八五	九〇	黃	1.019	五〇	+	三五
一月二日	八五	九〇	黃	1.019	五〇	+	三五
平均	八五	九〇		1.019			三五

第三七號

佐藤 ○ ○ 男 年齡 一六 職業 農
身長 一四六仙迷 胸圍 七三仙迷 體重 三七基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

採尿日	尿量 (耗)		色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	瀉濁出現ノ有無	尿一ベ ブレン 價
	一月一日	一月二日					
一月一日	一四〇	一四〇	黃	1.013	五〇	+	一八
一月二日	一四〇	一四〇	黃	1.013	五〇	+	一八
平均	一四〇	一四〇		1.013			一八

第三八號

山田 ○ ○ 男 年齡 五一 職業 農
身長 一五七仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五四基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

採尿日	尿量 (耗)		色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	瀉濁出現ノ有無	尿一ベ ブレン 價
	一月一日	一月二日					
一月一日	一六〇	一六〇	黃	1.013	五〇	+	三〇
一月二日	一六〇	一六〇	黃	1.013	五〇	+	三〇
平均	一六〇	一六〇		1.013			三〇

第三九號

坂 ○ ○ 男 身長 一四五仙迷 胸圍 七七仙迷 職業 農
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良 體重 四〇基瓦

採尿		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿價	
日	量(耗)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)
拾一月拾日	一五〇〇	黃	酸	1014	+	+	+	+	+	+	120
心三拾日	一五七五	〃	〃	1010	+	+	+	+	+	+	110
拾月八日	一四一〇	〃	〃	1013	+	+	+	+	+	+	110
平均	一四九五			1019	+	+	+	+	+	+	113

第四〇號

坂 ○ ○ 男 身長 一五〇仙迷 胸圍 八七仙迷 職業 農
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良 體重 四八基瓦

採尿		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿價	
日	量(耗)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)
拾一月拾日	一七四〇	黃	酸	1015	+	+	+	+	+	+	126
心三拾日	一三三五	〃	〃	1013	+	+	+	+	+	+	110
拾月八日	一〇七五	〃	〃	1017	+	+	+	+	+	+	110
平均	一三三三			1015	+	+	+	+	+	+	115

第四一號

坂 ○ ○ 男 身長 一三六仙迷 胸圍 七〇仙迷 職業 農
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ 體重 三一基瓦

採尿		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿價	
日	量(耗)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)
拾一月拾日	一〇九〇	黃	酸	1018	+	+	+	+	+	+	97
心三拾日	七九〇	〃	〃	〃	+	+	+	+	+	+	99
拾月八日	一三三〇	〃	〃	〃	+	+	+	+	+	+	150
平均	一〇七七			1018	+	+	+	+	+	+	115

第四二號

茅壁 ○ ○ 男 身長 一五七仙迷 胸圍 八四仙迷 職業 吳服店員
體格大、營養中等、全身ニ異常無シ、食思常 體重 五四基瓦

採尿		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿價	
日	量(耗)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)
拾一月拾日	一八九〇	淡黃	酸	1010	+	+	+	+	+	+	101
心三拾日	一三五五	帶赤黃	〃	1011	+	+	+	+	+	+	118
拾月八日	一七四〇	黃	〃	1008	+	+	+	+	+	+	199
平均	一六六七			1010	+	+	+	+	+	+	140

第四三號

茅壁 ○○○ 男 年齡 六〇 職業 吳服店主人
 身長 一六三仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五三基瓦
 體格強大、營養中等、全身ニ異常無シ、食思良

尿探		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(託)	
拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日
拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日
拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日
拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

第四四號

前原 ○○○ 男 年齡 三六 職業 教師
 身長 一六三仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五一基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思常

尿探		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(託)	
拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日
拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日
拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日
拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

第四五號

山本 ○○○ 男 年齡 三二 職業 鐵工所職工
 身長 一六六仙迷 胸圍 八五仙迷 體重 五一基瓦
 體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思良

尿探		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(託)	
拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日
拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日
拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日
拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

第四六號

松山 ○○○ 男 年齡 五〇 職業 教師
 身長 一五四仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 五〇基瓦
 體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

尿探		尿量		尿色		反應比重其他		試驗ニ用ヒタル尿量(託)	
拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日	拾二月拾七日
拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日	拾二月拾八日
拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日	拾二月拾九日
拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日	拾二月三十日
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

乙、女子ノ例

第一號

野村 ハエ 女

年齢 三六

職業 無

身長 一五二仙迷 胸圍 八三仙迷 體重 四八基瓦

體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

採尿日	尿量(託)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿價
						試	濁	
九月五日	二三〇	帶赤黃	酸	一〇三六		+	+	一九七
全六日	八五〇	〃	〃	一〇三九		+	+	三三六
全七日	三三五	〃	〃	一〇三五		+	+	三三〇
全三拾日	八〇〇	〃	〃	一〇三八		+	+	三三一
拾月一日	二七五	黃	〃	一〇二七		+	+	二七六
全四日	二五〇	帶赤黃	〃	一〇一九		+	+	一三一
拾月二日	一四五	〃	〃	一〇二〇		+	+	二八五
拾月八日	一四二	黃	〃	一〇二〇		+	+	三二四
全三拾九日	一五七〇	〃	〃	一〇二六		+	+	一八一
全三拾二日	一三〇	帶赤黃	〃	一〇二七		+	+	一八一
拾月拾日	二〇〇	〃	〃	一〇三三		+	+	一八一
全拾一日	一五〇	黃	〃	一〇一七		+	+	二四八
平均	二七三			一〇三三				二二七

第二號

野村 月子女

年齢 一二

職業 無

身長 一三三仙迷 胸圍 六三仙迷 體重 二八基瓦

體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

採尿日	尿量(託)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿價
						試	濁	
九月三拾日	九〇	淡黃	酸	一〇一〇		+	+	一〇四
拾月三日	六三〇	〃	〃	一〇三三		+	+	一三六
拾月拾四日	三四五	〃	〃	一〇一七		+	+	一五四
全三拾日	二七〇	〃	〃	一〇一五		+	+	一八三
平均	一〇六四			一〇一八				一三一

第三號

野村越子女 年齡 五 職業 無
 身長 一〇三仙迷 胸圍 五四仙迷 體重 一五基瓦
 體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食量多量ナリ

尿量 (耗)	色	反應比 重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿價
			澗濁出現ノ有無	澗濁出現ノ有無	
九月拾四日 末〇	淡黃	酸	1019	+	八七
拾月三日 七五〇	〃	〃	1015	+	八六
平均 七五五			1017		八七

第四號

山本〇〇女 年齡 三八 職業 無
 身長 一五〇仙迷 胸圍 八〇仙迷 體重 四五基瓦
 體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

尿量 (耗)	色	反應比 重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿價
			澗濁出現ノ有無	澗濁出現ノ有無	
九月拾九日 二八〇	帶赤黃	酸	1013	+	一八九
拾月六日 二七五	〃	〃	1014	+	一八八
平均 二七八			1014		一八九

第五號

野村淺子女 年齡 一四 職業 無
 身長 一四四仙迷 胸圍 六八仙迷 體重 三八基瓦
 體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

尿量 (耗)	色	反應比 重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿價
			澗濁出現ノ有無	澗濁出現ノ有無	
拾月一日 二四五	淡黃	酸	1016	+	一九四
全 二日 七八五	黃	〃	1010	+	二二七
全 五日 二五〇	〃	〃	1018	+	二二二
拾月拾一日 二七〇	〃	〃	1017	+	二四五
全 拾日 二三八〇	〃	〃	1016	+	二八四
全 拾日 八三〇	〃	〃	1018	+	二二二
拾月九日 一〇七五	淡黃	〃	1017	+	二四三
全 拾日 八〇〇	帶赤黃	〃	1016	+	二二〇
全 拾日 二二八五	黃	〃	1017	+	二七一
平均 二二四			1017		二四八

第六號

上浴 ハッノ 女 年齡 二〇 職業 下女
 身長 一五二仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 五二基瓦
 體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思良

採尿日	尿量(託)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿價
						濁濁出現ノ有無	試料	
拾月 四二六〇〇		黃	酸	1013		+	1015	113
全 五二七五		淡黃	〃	1010		+	1015	119
拾月 二二〇		黃	〃	1019		+	1015	126
全 拾八〇		〃	〃	1017		+	1015	125
全 拾九百二六〇〇		〃	〃	1017		+	1015	125
全 拾九百二六〇〇		〃	〃	1015		+	1015	129
拾月 九百七五〇		〃	〃	1011		+	1015	100
全 拾八五五		〃	〃	〃		+	1015	109
平均 二五九								126

第七號

吉富 〇 〇 女 年齡 四二 職業 裁縫業
 身長 一四六仙迷 胸圍 八一仙迷 體重 四六基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良ナリト云フ

採尿日	尿量(託)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿價
						濁濁出現ノ有無	試料	
拾月 百二五〇〇		黃	酸	1010		+	1015	100
全 七〇五〇〇		帶赤黃	〃	1011		+	1015	110
全 八〇九〇〇		〃	〃	1019		+	1015	103
平均 二五〇				1010				114

第八號

齊藤 〇 〇 女 年齡 七三 職業 無
 身長 一四七仙迷 胸圍 七五仙迷 體重 三八基瓦
 體格營養共ニ良、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良

採尿日	尿量(託)	色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿價
						濁濁出現ノ有無	試料	
拾月 百二六〇〇		帶赤黃	酸	1016		+	1015	155
全 七二八〇		〃	〃	1014		+	1015	157
全 八百二八〇		〃	〃	1013		+	1015	177
平均 二〇七				1014				161

第九號

且原 〇〇 女 年齡 四二 職業 農

身長 一四五仙迷 胸圍 八九仙迷 體重 五二基瓦

體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

探尿量 (耗)	尿(二十四時間ノ全尿)			試験ニ用ヒタル尿量(耗)		
	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無
拾月廿一〇〇	帶赤黃	1010				
全拾日二七〇〇	黃	1010				
平均二四五	〃	1011	+			
平均二四五	〃	1010	+			

第一〇號

西村 〇〇〇 女 年齡 三四 職業 無

身長 一五二仙迷 胸圍 八〇仙迷 體重 四五基瓦

體格營養共ニ中等、內臟器ニ異常ヲ認メズ、食思良

探尿量 (耗)	尿(二十四時間ノ全尿)			試験ニ用ヒタル尿量(耗)		
	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無
拾月廿二六二五	黃	1017				
全拾日二七五	〃	1011				
平均二四〇	帶赤黃	1016				
平均二四四	〃	1018	+			

第一號

勝原 〇〇 女 年齡 四〇 職業 農

身長 一四七仙迷 胸圍 八八仙迷 體重 五〇基瓦

體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

探尿量 (耗)	尿(二十四時間ノ全尿)			試験ニ用ヒタル尿量(耗)		
	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無
拾月廿三三五	黃	1011				
全拾日六〇〇	〃	1010				
平均二四六	〃	1011				

第二號

佐藤 〇〇〇 女 年齡 六六 職業 無

身長 一四八仙迷 胸圍 七六仙迷 體重 四〇基瓦

體格營養共ニ良、全身ニ異常無シ、食思良

探尿量 (耗)	尿(二十四時間ノ全尿)			試験ニ用ヒタル尿量(耗)		
	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無
拾月廿二二〇〇	黃	1013				
全拾日二二〇〇	帶赤黃	1013				
平均二四〇	〃	1013				

第一三號 齊藤 〇〇〇 女 年齡 八 職業 農
 身長 一〇九仙迷 胸圍 五四仙迷 體重 一六基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ

採尿日	尿量 (克)		色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(克)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
	全	平均							
第一日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.013		+	+	三
第二日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第三日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第四日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第五日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第六日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第七日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
平均	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三

第一四號 吉富 〇〇〇 女 年齡 九 職業 無
 身長 一〇九仙迷 胸圍 五六仙迷 體重 一七基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ

採尿日	尿量 (克)		色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(克)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
	全	平均							
第一日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三
第二日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三
第三日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三
第四日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三
第五日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三
第六日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三
第七日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三
平均	三三〇	三三〇	黃	酸	1.018		+	+	三

第一五號 齊藤 〇〇〇 女 年齡 一二 職業 無
 身長 一一二仙迷 胸圍 五一仙迷 體重 二〇基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ

採尿日	尿量 (克)		色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(克)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
	全	平均							
第一日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.017		+	+	三
第二日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第三日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第四日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第五日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第六日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
第七日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三
平均	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.018		+	+	三

第一六號 國光 〇〇〇 女 年齡 二五 職業 農
 身長 一四七仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 四六基瓦
 體格強ナルモ營養稍々不良、心臟ニ貧血性雜音ヲ聴取ス、食思良、授乳婦ナリ

採尿日	尿量 (克)		色	反應	比重	其他	試驗ニ用ヒタル尿量(克)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
	全	平均							
第一日	三三〇	三三〇	黃	酸	1.010		+	+	三
第二日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.011		+	+	三
第三日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.011		+	+	三
第四日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.011		+	+	三
第五日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.011		+	+	三
第六日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.011		+	+	三
第七日	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.011		+	+	三
平均	三三〇	三三〇	淡黃	酸	1.011		+	+	三

第一七號

中田 ○ ○ 女 年齡 四〇 職業 無
 身長 一五九仙迷 胸圍 八三仙迷 體重 五〇基瓦
 體格營養共ニ中等、内臟器ニ異常無シ、食思ハ良

尿探	尿(二十四時間ノ全尿)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
日	耗	黄	二〇四	五二〇	+	八〇
拾月拾七日	七〇〇	酸	一〇三	三〇〇	+	九〇
全拾日	七〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	九〇
全拾日	七〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	九〇
拾月拾七日	七〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	九〇
平均	八三三	〃	一〇三	三〇〇	+	九〇

第一八號

長谷川 ○ ○ 女 年齡 三九 職業 無
 身長 一五〇仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 四七基瓦
 體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

尿探	尿(二十四時間ノ全尿)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
日	耗	黄	二〇三	五二〇	+	二七
拾月拾七日	二〇〇	酸	一〇三	三〇〇	+	二七
全拾日	二〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	二七
拾月拾七日	二〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	二七
平均	二四三	〃	一〇三	三〇〇	+	二七

第一九號

常盤 ○ ○ ○ 女 年齡 二四 職業 吳服店員
 身長 一四二仙迷 胸圍 八一仙迷 體重 四二基瓦
 體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

尿探	尿(二十四時間ノ全尿)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
日	耗	黄	二〇八	五二〇	+	二六
拾月拾七日	二〇〇	酸	一〇三	三〇〇	+	二六
全拾日	二〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	二六
拾月拾七日	二〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	二六
平均	二八〇	〃	一〇三	三〇〇	+	二六

第二〇號

平中 ○ ○ 女 年齡 三四 職業 農
 身長 一五四仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 四八基瓦
 體格營養共ニ佳良、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良、授乳婦ナリ

尿探	尿(二十四時間ノ全尿)	色	反應比重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	濁濁出現ノ有無	尿一ベ
日	耗	黄	二〇四	五二〇	+	二五
拾月拾七日	二〇〇	酸	一〇三	三〇〇	+	二五
全拾日	二〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	二五
拾月拾七日	二〇〇	〃	一〇三	三〇〇	+	二五
平均	二〇三	〃	一〇三	三〇〇	+	二五

第二號 長谷川 ○○○ 女 年齡 一五 職業 無
身長 一四六仙迷 胸圍 七一仙迷 體重 四〇基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

探尿日	尿量 (耗)		色	反應比 重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿一價
	量	耗					
第一月	七〇	二五〇	黃	二〇八	+	+	一三三
第二月	八〇	二五〇	帶赤黃	二〇六	+	+	一五〇
平均	一〇九	二五三					一四一

第二三號 山本 ○○○ 女 年齡 一一 職業 農
身長 一一〇仙迷 胸圍 六〇仙迷 體重 二三基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ

探尿日	尿量 (耗)		色	反應比 重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿一價
	量	耗					
第一月	六五	二五五	黃	二〇七	+	+	一〇六
第二月	八〇	二五〇	酸	二〇六	+	+	一〇七
平均	五九	二五二					一〇七

第二三號 木村 ○○○ 女 年齡 二〇 職業 農
身長 一五四仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五二基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

探尿日	尿量 (耗)		色	反應比 重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿一價
	量	耗					
第一月	四四	二四五	黃	二〇九	+	+	一五九
第二月	四四	二四五	酸	二〇六	+	+	一三三
平均	二五六	二五六					一三三

第二四號 野上 ○○○ 女 年齡 二三 職業 農
身長 一四四仙迷 胸圍 八〇仙迷 體重 四二基瓦
體格營養共ニ佳良、內臟器ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

探尿日	尿量 (耗)		色	反應比 重其他	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿一價
	量	耗					
第一月	八五	二八〇	帶赤黃	二〇二	+	+	二五三
第二月	七〇	二七〇	酸	二〇七	+	+	二二〇
平均	二五六	二七〇					二三三

第二五號

野上〇〇女 年齢 六五 職業 無
身長 一五〇仙迷 胸圍 八一仙迷 體重 四四基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試験ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日尿量(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月 六三〇	帶赤黃 酸 二〇一九	+	一八〇
全 廿七	帶黃赤 〃 一〇三三	+	二〇七
全 拾日	〃 〃 一〇二八	+	二二八
平均 二二二	〃 〃 一〇一〇	+	二〇一

第二六號

野上〇〇女 年齢 二七 職業 無
身長 一五〇仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 四七基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試験ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日尿量(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月 六二七	帶赤黃 酸 二〇二四	+	一八七
全 廿八	〃 〃 一〇一九	+	二〇七
全 拾日	〃 〃 一〇一四	+	二〇一
平均 二〇五	〃 〃 一〇一五	+	二〇五

第二七號

木村〇〇女 年齢 一二 職業 無
身長 一三〇仙迷 胸圍 六三仙迷 體重 二七基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試験ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日尿量(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月 七九四	黃 酸 一〇一〇	+	一〇七
全 八二	〃 〃 一〇一八	+	一三三
全 拾日	〃 〃 一〇一九	+	一〇七
平均 一〇五	〃 〃 一〇一九	+	二二九

第二八號

坂〇〇女 年齢 一二 職業 無
身長 一二六仙迷 胸圍 六六仙迷 體重 二六基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ

採尿	尿(二十四時間ノ全尿)	試験ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
日尿量(耗)	色 反應比重其他	濁濁出現ノ有無	ブレン
拾月 拾四〇	黃 酸 一〇一九	+	四三
全 拾日	〃 〃 一〇一八	+	六六
全 拾日	淡黃 〃 〃 一〇一八	+	四八
平均 五四五	〃 〃 一〇一八	+	五三

第二九號

茅壁 ○ ○ 女

年齡 四二

職業 吳服店員

身長 一五二仙迷

胸圍 七九仙迷

體重 三七基瓦

體格中等、營養亦中等ヲ降ラザレモ皮膚稍々貧血ヲ呈セリ、然レモ内臟器ニ著シキ異常無シ、食量ハ大ナラズト云フ

採尿日	尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
	量	色		
拾月拾六日	一八〇	帶赤黃	五	一四
全拾七日	一五〇	黃	五	一四
全拾八日	一三五	〃	五	一四
平均	一五〇	〃	五	一四

第三〇號

茅壁 ○ ○ ○ 女

年齡 二二

職業 吳服店員

身長 一五三仙迷

胸圍 七八仙迷

體重 三七基瓦

體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ

採尿日	尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
	量	色		
拾月拾七日	一〇四	黃	五	一八
全拾八日	一三五	〃	五	一八
全拾九日	一〇七	〃	五	一八
平均	一〇七	〃	五	一八

第三一號

前原 ○ ○ 女

年齡 三四

職業 無

身長 一五四仙迷

胸圍 八〇仙迷

體重 五〇基瓦

體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

採尿日	尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
	量	色		
拾月拾八日	八六〇	黃	五	一五
全拾九日	一三五	〃	五	一五
全三十日	一五七	〃	五	一五
平均	一〇八	〃	五	一五

第三二號

山本 ○ ○ 女

年齡 二三

職業 農

身長 一五四仙迷

胸圍 八〇仙迷

體重 五四基瓦

體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良、授乳婦ナリ

採尿日	尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	尿一ベ
	量	色		
拾月拾三日	六九〇	帶赤黃	五	一〇
全拾四日	六三〇	〃	五	一〇
全拾五日	五五〇	〃	五	一〇
平均	六二〇	〃	五	一〇

第三三號

山本〇〇女 年齡 五七 職業 農
身長 一四六仙迷 胸圍 八〇仙迷 體重 四五基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

探尿		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿
日	量	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無	價	價
九月三日	三〇〇〇	淡黃	二〇四	+	十一	一八〇
全	〃	黃	〃	+	十一	一〇一
平均	二六四八	〃	〃	+	十一	一五

第三四號

山本〇〇女 年齡 三三 職業 農
身長 一四〇仙迷 胸圍 七九仙迷 體重 四〇基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

探尿		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿
日	量	色	反應比重其他	濁濁出現ノ有無	價	價
九月三日	三〇〇〇	黃	一〇八	+	十一	一四五
全	〃	帶赤黃	〃	+	十一	一五
平均	二二〇〇	〃	〃	+	十一	一三〇

第三節 尿量ノ動搖ト尿「ペブシン」濃度及ビ尿「ペブシン」價トノ關係ニ就テ

尿量ノ尿「ペブシン」ノ濃度ニ影響ヲ及ボスハ、風ニ Ellinger 及 Scholze 氏 (10) Fuld 及 平山氏 (11)(12) 等ノ唱ヘタル所ナリ然レ此ノ關係ニ就テノ知見ハ向ホ幼稚ナリト云ハザルベカラズ特ニ一日中ノ總「ペブシン」價トノ關係ニ於テ然リトス、余ハ前節ニ掲ゲタル稍多數ノ検査例ヲ以テ此ノ關係ヲ明白ナラシメント欲ス、即チ尿量增多スレバ尿「ペブシン」濃度稀薄トナリ、尿量減少スレバ尿「ペブシン」濃度濃厚トナルヤ及ビ其ノ程度並ニ是ガ總「ペブシン」價ニ及ボス影響等ナリトス。

今前節ノ表ヨリ三日間連續シテ探尿シ得タルモノヲ抜萃シ表トナシ掲ゲ此關係ヲ觀察スルニ

第十八表

番前節ノ表ノ番	被檢者	探尿日	尿量	試驗ニ用ヒタル尿量(託)		尿「ペブシン」價	
				濁濁出現ノ有無	價		
一	男	野	九月一日	一五六〇	+	十一	三三
			全二日	一八八〇	+	十一	三三六
二	男	府	全三日	九七五	+	十一	二六〇
			九月二日	二六二〇	+	十一	四三三
全	三拾日	二七〇〇	+	十一	四三三		

第十二例ニ於テハ尿量ニ反比例シテ尿「ベブシン」濃度増減セルモ尙ホ全ク調節サル、能ハズレテ尿「ベブシン」價ニ動搖アリ。

第十三例ハ尿量ニ動搖アルモ尿「ベブシン」濃度相同ジ從ツテ尿「ベブシン」價ハ尿量ニ正比例シテ増減セリ。

第十四例ハ第二日ニ於テ尿量大ニシテ尿「ベブシン」濃度稀薄ナリ。

第十五例ハ第二日ニ於テ尿量著シク少量ナルモ尿「ベブシン」濃度はニ反比例シテ増加シ尿「ベブシン」價調節セラル。

第十六例ノ第一及ビ第二日ハ尿量ニ大ナル動搖ナク從ツテ尿「ベブシン」濃度ニ變化ナシ、第三日ニ於テハ尿量減少セルニ尿「ベブシン」濃度濃厚ナラズ、却テ稀薄トナリ爲メニ尿「ベブシン」價著シク低價ヲ示セリ。

第十七例ハ尿「ベブシン」濃度尿量ニ反比例シテ増減シ尿「ベブシン」價ノ三日間著ホ同價ナルヲ得タルノ例ナリ

第十八例ニ於テハ尿量ニ正比例的ニ尿「ベブシン」濃度増減セリ。

第十九例ハ尿量始メ動搖セズ尿「ベブシン」濃度及尿「ベブシン」價亦是ニ倣ヘリ。

第二十例ノ第一日ハ尿量少量ナルニ從ヒ尿「ベブシン」濃度濃厚ナリト雖モ尿「ベブシン」價ハ尙ホ低價ニアリ。

第二十一例ノ第二日ハ尿量ノ減少ト共ニ尿「ベブシン」濃度増加シ尿「ベブシン」價始メ平均價ニ達セリ。

第二十二例ノ第一及ビ第二日ハ尿量ト共ニ尿「ベブシン」濃度動搖セズ、第三日ニ於テハ尿量減少セルモ尿「ベブシン」濃度變化セズ從ツテ尿「ベブシン」價ハ低シ。

第二十三例ハ尿「ベブシン」濃度尿量ニ反比例的ニ増減シ尿「ベブシン」價始メ同價ヲ維持セリ。

第二十四例ハ第一及ビ第二日ニ於テ尿「ベブシン」濃度尿量ニ反比例的ニ増減シ尿「ベブシン」價同價ヲ維持セルモ第三日ニ於テハ尿量多量ナルモ尿「ベブシン」濃度稀薄ナラズ、爲メニ尿「ベブシン」價著シク高價ヲ示セリ。
第二十五例ニ於テハ尿量及ビ尿「ベブシン」濃度始メ動搖セズ。
第二十六例ハ第二日ニ於テ尿量ノ減少ト共ニ尿「ベブシン」濃度増加セルモ尙ホ尿「ベブシン」價ハ他兩日ノ價ニ達セズ。

等種々ノ場合アルヲ見ル、今是ヲ總括シテ尿量ト尿「ベブシン」濃度及ビ尿「ベブシン」價トノ關係ニ就テ結論ヲ試ミンカ左ノ數項ヲ得ベシ。

一、尿量ノ動搖始メ是レ無キカ或ハ輕度ナレバ尿「ベブシン」濃度モ始メ動搖セザルヲ普通トス、從ツテ此ノ場合ニハ尿「ベブシン」價ニモ著シキ動搖無シ、然レモ稀ニハ是ニ反シ尿「ベブシン」濃度並ニ尿「ベブシン」價動搖スルコトアリ、此ノ場合ニハ胃ニ於ケル分泌異常ニ其ノ原因ヲ歸セザルベカラザルベシ。

二、尿量ニ動搖アル場合ニハ尿「ベブシン」濃度はニ反比例シテ増減シ、尿「ベブシン」價ハ尿量ノ動搖著明ナラザル場合ニハ動搖スルニ至ラズ、然レモ尿量ノ動搖著明ナル場合ニハ尿「ベブシン」價ニ動搖アルヲ免カレズ、語ヲ換ヘテ云ヘバ尿量增多スレバ尿「ベブシン」濃度稀薄トナリ、是ニ反シテ尿量減少スレバ尿「ベブシン」濃度濃厚トナリ尿「ベブシン」價ノ平衡ヲ保ツテ普通ノ定規トナスモ此事ハ尿量ノ動搖ノ一定範圍内ナル場合ニノミ可能ニシテ其ノ範圍ヲ超越スル時ハ不可能トナル此ノ範圍外ニ於テハ尿量多量ナレバナル程高價トナリ尿量少量ナレバナル程低價トナルモノトス。

尿量ノ如何ナル程度マデノ動搖ニ應ジテ尿「ベブシン」ノ濃度ガ調節シ尿「ベブシン」價ニ動搖ナキヲ得ルヤハ判然是ヲ決定スル能ハザルモ余ノ例ニ依テ見レバ二四五〇對一八五〇、一五九〇對一二八〇、一三七五對八五〇、一九二〇對一六〇〇、一四〇〇對一二七五、一五〇三對一三二五、一一三五對八六〇、平均一六二五對一二九一即チ大ナル尿量ヲ基礎トスレバ約四分ノ一量ノ減少、小ナル尿量ヲ基礎トスレバ約三分ノ一量ノ増加マデハ可能ナルモノ、如シ。

三、尿量ニ動搖アルモ尿「ベブシン」濃度動搖無キコトアリ、コノ場合ニハ尿「ベブレン」價ハ尿量ニ正比例ス、本項ノ如キ場合ハ日々ノ胃ノ分泌機能ニ差異アリト見做サルベカラザルベシ。

今ヤ余ハ尿量ノ動搖ト尿「ベブシン」濃度及ビ尿「ベブレン」價トノ關係並ニ是等ト胃ノ分泌機能トノ關係ヲ一程度マデ闡明ナラシメタリト信ズ、茲ニ一言附加セザルベカラザルハ一日ノ全量ノ常量ニ遠ザカルコト大ナル尿ニ於ケル「ベブシン」價ヲ以テ胃ニ於ケル「ベブレン」分泌量ヲ推定スルノ實トナスベカラザルコト是レナリ、必ラズ數日間ノ状態ヲ觀察スルノ要アルモノトス。

第四節 尿「ベブシン」價ノ動搖ノ状態ニ就テ

前節ニ於テハ尿量ノ動搖ト尿「ベブレン」價トノ間ニ於ケル一般ノ關係ヲ明カニセリ、本節ニ於テハ稍々多數ノ例ニ於テ尿「ベブレン」價ガ平常如何ナル程度ニ於テ動搖セツ、アリヤ並ニ是ト年齢及ビ職業トノ關係又尿「ベブレン」價ノ動搖率ト尿量ノ動搖率トガ如何ナル關係ニ於テ立テルヤ等ヲ檢索セント欲ス。

本節ノ研究モ亦タ第一節ニ掲ケタル表ヲ基礎トスルハ勿論ナルガ今本節ノ問題ヲ解決スルニ適當ナル形式ニ於

第十九表 甲、三日間以下採尿ノ者

第二節 表ノ 番號	採尿 日	被檢 者	年 齡	職 業	第一日			第二日			第三日			最大尿「ベブレン」價 最小尿「ベブレン」價 動搖率
					尿量 (ト)	尿「ベブレン」 價(ト)	尿「ベブレン」 價(ト)	尿量 (ト)	尿「ベブレン」 價(ト)	尿「ベブレン」 價(ト)	尿量 (ト)	尿「ベブレン」 價(ト)	尿「ベブレン」 價(ト)	
二	九月拾四日、拾五日、拾六日	小村	三九	農	二五九〇	三二八	二七五〇	二八八	二三八	三三三	四〇	二、二		
六	九月八日、拾三日	枝村	四	農	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	四	一、〇		
七	九月九日、拾日、拾一日	藤野	七	農	五〇〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	三	〇、九		
八	九月拾一日、拾七日	藤野	九	農	七五	七〇	六九五	六九	六九	六九	一	一、一		
九	〇	吉富	一八	稅務署員	八五〇	一六二	一〇〇	一七	一七	一七	二	一、七		
一〇	九月拾一日、三十日	且原	一〇	稅務署員	六五〇	一四二	一三〇	一六	一六	一六	六	一、六		
一一	九月拾日、拾七日、三十日	吉富	二	農	五四五	五五	七五	三	三	三	三	一、三		
一二	九月拾一日、拾五日	池三磨	三	工	二〇九五	二五	一〇〇〇	四	四	四	一三	一、四		
一三	九月拾一日、拾七日、三十日	齊藤	一四	農	一四〇	一四〇	一四〇	一六	一六	一六	四	一、三		
一四	九月拾二日、拾四日	國光	一九	農	一三五	一四〇	一三五	一四	一四	一四	三	一、九		
一五	九月拾二日、拾三日	繩田	六	農	五〇	四八	四四五	四	四	四	八	一、七		

二、女子ノ表

第二節ノ番號	採尿日	被檢者	年	職	第一日			第二日			第三日			最大尿價	最小尿價	同ノ最大尿價ノ對シテノ動搖率%
					尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)	尿量(シ)價(ト)			
三	九月拾四日、拾五日	野村 五	三	無	六〇	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	1.1
四	九月拾九日、拾六日	山本 六	三	無	二八〇	二九二	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	1.0
七	拾六日、七日、八日	吉富 三	三	裁縫業	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	1.0
八	〃	齊藤 三	三	無	二六〇	二八〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	1.0
九	〃	且原 三	三	農	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	1.0
一〇	拾九日、拾日	西村 三	三	無	二六五	二七五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	1.0
一一	今九日、拾日	勝原 三	三	農	二三五	二六〇	二三五	二三五	二三五	二三五	二三五	二三五	二三五	二三五	二三五	1.0
一二	〃	佐藤 六	三	無	二六〇	二七〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	1.0
一三	拾一日、拾七日、二拾四日	齊藤 八	三	無	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	1.0
一四	〃	吉富 九	三	無	四九〇	五〇〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	1.0
一五	〃	齊藤 三	三	無	六五〇	六九〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	1.0

一六	拾月拾四日、拾五日、拾九日	國光 三	三	農	一五五	一五八	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	1.0
一七	今拾七日、拾九日、二拾三日	中田 三	三	無	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	1.0
一八	今拾九日、二拾日	長谷川 元	三	〃	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	1.0
一九	拾月二拾一日、二拾二日、二拾三日	常盤 三	三	吳服店員	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	1.0
二〇	拾月二拾三日、二拾八日、二拾九日	平中 三	三	農	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	1.0
二一	拾月二拾七日、二拾八日	長谷川 一	三	無	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	1.0
二二	拾月二拾七日、二拾八日	山本 二	三	無	六七五	六七五	六七五	六七五	六七五	六七五	六七五	六七五	六七五	六七五	六七五	1.0
二三	拾二月三日、四日	山村 三	三	農	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	1.0
二四	今六日、七日、拾三日	野上 三	三	〃	一八九	一八九	一八九	一八九	一八九	一八九	一八九	一八九	一八九	一八九	一八九	1.0
二五	〃	野上 三	三	無	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	1.0
二六	〃	野上 三	三	無	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	1.0
二七	拾二月七日、八日	木村 三	三	〃	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	九四〇	1.0
二八	今拾四日、二拾三日、三拾日	坂 〃	三	〃	五三四	五三四	五三四	五三四	五三四	五三四	五三四	五三四	五三四	五三四	五三四	1.0
二九	今拾六日、拾八日、二拾日、三拾日	茅壁 三	三	吳服店員	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	一八五〇	1.0
三〇	〃	茅壁 三	三	〃	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	1.0
三一	拾二月十八日、二拾九日、三拾日	前原 三	三	無	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	1.0

平均	三 全言、晋、晋	山 本三	農	六 五〇	六 五〇	一 〇〇	五 五五	六 九	一 五	一 四、四
三	全言、晋、晋	山 本三	〃	三 〇五	一 〇	〇	一 〇	八	支	〇
二	全言、晋、晋	山 本三	〃	一 五〇	一 〇	一 一〇	一 〇〇〇	一 七	〇	〇
一	全言、晋、晋	〃	〃	一 一〇	一 二	一 一五〇	一 一〇〇	〇	〇	〇

乙、四日開以上採尿ノ者

番 號	第二節ノ表 番 號	男子表ノ 全	女子表ノ 全	全	全	全	全	全	全	全
第一	一	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第二	二	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第三	三	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第四	四	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第五	五	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第六	六	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第七	七	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第八	八	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第九	九	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十	十	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十一	十一	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十二	十二	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十三	十三	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十四	十四	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十五	十五	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十六	十六	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十七	十七	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十八	十八	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第十九	十九	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ
第二十	二十	野村正一	野村行夫	野村幸次	野村ハエ	野村ハコ	野村ハチ	野村ヒコ	野村ヒメ	野村ヒナ

第採尿日九月三日 日十月十四日 日十月十四日 日九月七日 日十月十四日 日十月五日 日十一月五日 日十一月二十八日

第採尿	日九月三日	日十月十四日	日十月十四日	日九月七日	日十月十四日	日十月五日	日十一月五日	日十一月二十八日	
三尿量(耗)	九七五	九五〇	九〇〇	一三七五	一三四五	一一五〇	一一五〇	一三九〇	
日尿「ベプシン」價	三六	六	六	三〇	一四	一三	一三	一〇六	
第採尿	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日	日九月二十日 日十月二日 日十月二日 日十一月二日 日十一月二日 日十一月二十九日
四尿量(耗)	一六〇〇	六七五	八七五	八〇〇	一三七〇	一三七〇	一三七〇	一六〇〇	
日尿「ベプシン」價	三〇	六	一〇〇	三三	一六	一六	一六	一五	
第採尿	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日	日九月三十日 日十月十二日 日十月十二日 日十月二日 日十月二日 日十月二日
五尿量(耗)	一七〇〇	一〇八〇	八一〇	一七五五	一五六〇	一五六〇	一五六〇	一七〇〇	
日尿「ベプシン」價	三三	一四	九	三六	一七	一七	一七	一五	
第採尿	日十月一日 日十月十九日	日十月一日 日十月十九日	日十月一日 日十月十九日	日十月一日 日十月十九日	日十月一日 日十月十九日	日十月一日 日十月十九日	日十月一日 日十月十九日	日十月一日 日十月十九日	
六尿量(耗)	一五〇〇	九五〇	一三五〇	一三五〇	一三五〇	一三五〇	一三五〇	一七五〇	
日尿「ベプシン」價	三六	三三	三三	三三	三三	三三	三三	一〇〇	
第採尿	日十月十四日	日十月二十八日	日十月二十九日	日十月二十九日	日十月二十九日	日十月二十九日	日十月二十九日	日十月二十九日	
七尿量(耗)	二四八〇	一四三五	一四三五	一四三五	一四三五	一四三五	一四三五	一八三五	
日尿「ベプシン」價	三九七	二八	二八	二八	二八	二八	二八	一〇六	

第 八 日	第 九 日	第 十 日	第 十 一 日	第 十 二 日
第 採 尿 日 十月十五日	第 採 尿 日 十月十六日	第 採 尿 日 十月十九日	第 採 尿 日 十月二十日	第 採 尿 日 十月二十一日
八 尿 量 (耗) 一八五〇	九 尿 量 (耗) 二四五〇	十 尿 量 (耗) 二二〇〇	日 尿 『ベブレン』價 三八四	日 尿 『ベブレン』價 四七
日 尿 『ベブレン』價 四三	日 尿 『ベブレン』價 一三〇	日 尿 『ベブレン』價 一七一	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇	日 尿 『ベブレン』價 二四八
十一月二十九日	十一月三十日	十二月十日	十二月十一日	十二月十一日
八 尿 量 (耗) 一五二〇	九 尿 量 (耗) 一三〇	十 尿 量 (耗) 一三〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇
日 尿 『ベブレン』價 三三	日 尿 『ベブレン』價 一三〇	日 尿 『ベブレン』價 一三〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇
十二月十日	十二月十一日	十二月十一日	十二月十一日	十二月十一日
八 尿 量 (耗) 二〇〇	九 尿 量 (耗) 一三〇	十 尿 量 (耗) 一三〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇
日 尿 『ベブレン』價 一四〇	日 尿 『ベブレン』價 一三〇	日 尿 『ベブレン』價 一三〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇	日 尿 『ベブレン』價 一五五〇

最大尿『ベブレン』 價ト最小尿『ベブ レン』價トノ差	同上ノ最大尿『ベ ブレン』價ニ對ス ル動搖率%	最大尿量ト最小尿 量トノ差(耗)	同上ノ最大尿量ニ 對スル動搖率%
二三五	四七、三	四七五	一九、四
六四	四一、一	四〇〇	四二、一
三	一八、九	一六五	二六、九
一八三	五八、二	四二〇	二六、八
八〇	四〇、五	四六〇	三三、六
八三	四〇、八	六二五	四三、〇
四九	一九、七	四二五	一九、六

右表ノ甲ハ短日子間ノ尿『ベブレン』價ノ動搖ヲ定ムルニ適シ、乙ハ稍々長日子間ノ動搖ヲ知ルニ適セリ、今甲表ヲ觀ルニ最大尿『ベブレン』價ニ對スル動搖ノ最小限ハ男子ニ於テハ一、四%、女子ニ於テハ〇、五%、同最大限ハ男子ニ於テハ四九、三%、女子ニ於テハ四八、五%、ニシテ平均男子ハ二二、五%、女子ハ二一、六%ナリトス、是ヲ以テ觀レバ尿『ベブレン』價ハ可成リニ動搖シ男女ノ間ニ於テ程度ニ著シキ差異ヲ存セザルガ如シ、茲ニ動搖ノ程度ノ配分ヲ明カナラシメテガ爲メニ是ヲ五階級ニ別テハ左ノ如シ。

- 一、一〇%以下ナルモノ
 - 男子十名 全數ノ 一二三、八%
 - 女子四名 全數ノ 一三、三%
- 二、一〇%以上二〇%以下ナルモノ
 - 男子十五名 全數ノ 二二三、八%%
 - 女子十五名 全數ノ 五〇、〇%%
- 三、二〇%以上三〇%以下ナルモノ
 - 男子四名 全數ノ 一二三、八%
 - 女子四名 全數ノ 一三、三%

四、三〇%以上四〇%以下ナルモノ
 男子八名 全數ノ一九、〇%
 女子一名 全數ノ三、三%

五、四〇%以上五〇%以下ナルモノ
 男子四名 全數ノ九、五%
 女子六名 全數ノ二〇、〇%

ナルノ成績ヲ示シ男子ニ於テハ一〇%以下ナルモノ、一〇%以上二〇%以下ナルモノ及ビ二〇%以上三〇%以下ナルモノ多數ニシテ而モ同數ヲ存シ、三〇%以上四〇%以下ナルモノ是ニ次ギ、四〇%以上五〇%以下ナルモノ最モ少ク、女子ニ於テハ一〇%以上二〇%以下ナルモノ最モ多ク、四〇%以上五〇%以下ナルモノ是ニ次ギ、一〇%以下ナルモノ及ビ二〇%以上三〇%以下ナルモノ其ノ低位ニナリ、三〇%以上四〇%以下ナルモノニ至ツテハ僅カニ三、三%ヲ算スルニ過ギズ、故ニ男女ヲ通ジテ概評スレバ一〇%以上二〇%以下ナルモノ最モ多ク、一〇%以下ナルモノ及ビ二〇%以上三〇%以下ナルモノ是ニ次グモノ、如シ、然レモ是レガ配分ノ如キハ著シク多數ノ例ニ於テ檢索シタル後ヲ決定シ得ベキ問題ナレバ以上ハ唯ダ其ノ傾向ノ存スル所ヲ示スニ過ギズ、故ニ余ハ單ニ其ノ動搖ノ程度三〇%以下ナルモノ多數ナルヲ云フニ止メントス。

次ニ余ハ年齢ト尿「ベブシン」價ノ動搖トノ關係ヲ檢索セリ、其ノ結果左表ノ如シ。

一、十五才以下ノモノ
 男子十六名、動搖ノ最小限一、四%最大限四九、三%平均二四、六%
 女子八名、動搖ノ最小限一、一%最大限四六、四%平均二三、八%

二、十六才以上三十五才以下ノモノ
 男子十三名、動搖ノ最小限一、六%最大限四〇、八%平均一九、七%
 女子十一名、動搖ノ最小限一、四%最大限四六、二%平均二〇、一%

三、卅六才以上五十五才以下ノモノ
 男子十名、動搖ノ最小限一、五%最大限三八、五%平均一九、八%
 女子七名、動搖ノ最小限一、〇%最大限四八、五%平均二二、三、〇%

四、五十六才以上ノモノ
 男子三名、動搖ノ最小限二、八%最大限四〇、五%平均三二、八%
 女子四名、動搖ノ最小限一、六%最大限四三、三%平均一九、二%

是レニ依テ觀レバ小兒期ニ於テ稍々著シク。青壯年期ニ於テ著明ナラザルハ男女ヲ通ジテノ傾向ナルモノ、如シト雖モ其ノ差顯著ナラズ、吾人ハ未ダ是レヲ以テ年齢トノ間ニ特殊ノ關係ノ存スルヲ斷定シ能ハザルモノ、如シ。

又余ハ職業ニ尿「ベブシン」價ノ動搖トノ關係ヲモ檢索シタリト雖モ勞働者ト非勞働者トノ間ニ於テ差異ノ存スルヲ發見シ能ハザリキ、茲ニ余ノ得タル平均數ヲ舉グレバ次ノ如シ、本項ノ檢索ニ當ツテハ十五才以下ノ小兒及ビ五十六才以上ノ高年者ハ是ヲ除外シタリ。

一、勞働者
 男子十三名、動搖ノ最小限一、六%最大限四〇、八%平均二〇、五%
 女子八名、動搖ノ最小限一、四%最大限二六、四%平均一七、八%

二、非勞働者
 男子十名、動搖ノ最小限二、六%最大限三四、一%平均一八、八%
 女子十名、動搖ノ最小限一、〇%最大限四八、五%平均二四、〇%

尿「ベブシン」價ノ動搖率ト尿量ノ動搖率トノ關係ヲ檢索スルハ興味アル問題ナリト云ハザルベカラズ、何トナレバ、前節ニ於テ明カニセルガ如ク尿量ノ動搖ト尿「ベブシン」價トハ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テナリ、是ヲ以テ余ハ前掲ノ表ニ於テ尿量ノ動搖ヲ大ナル尿量ニ對スル%數ニテ表ハシ左表ヲ作成セリ、三日間採尿セルモノニ於テハ尿「ベブシン」價ノ差ヲ求メタル當該日ノ尿量ヲ比較シタリ。

第二十表

第 二 類											
女						男					
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二〇	一九	一八	一六	二二	二〇	四	四〇	三六	三〇	二九	二〇
一八	一六	一五	一四	一三	一三	一四	一四	一三	一三	一三	一三
一五、九	一八、七	一一、五	一四、一	一六、四	一三、六	二〇、〇	一八、九	一三、三	一七、〇	一八、七	二〇、〇
									▼	▼	▼
一八〇	二七五	五七〇	二六〇	二六五	三三五	二八〇	六〇	九〇	五〇	三五	二九〇
									▼	▼	▼
一五、九	一八、三	三三、九	一六、五	一六、六	一三、八	一七、八	二、八	九、五	七、七	三三、三	一五、九

第 一 類											
女						男					
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三	八	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二六	一	一	二〇	三	四	八	三	五	七	三	二
六、五	九、四	〇、五	一、一	五、九	一、六	九、六	七、八	七、五	二、六	八、九	九、九
				▼		▼	▼		▼		
三〇〇	一三〇	五	一〇	三三〇	二五〇	三三〇	四	一三〇	一七五	三六五	二五
				▼		▼	▼		▼		
一九、七	九、四	〇、四	一、三	二〇、〇	一七、八	一七、〇	四、八	七、五	一〇、九	二、七	一〇、〇

類 四 第								類							
女	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男	〃	〃	〃	女	〃	〃	〃	〃
二八	四〇	四〇	三六	三六	三二	二二	一〇	三〇	三〇	三三	九	四	四	三	三
二四	一五	一〇	一五	一四	一四	八	六	三〇	四	一〇	六	二	二	九	五
三六、四	三七、〇	三四、一	三三、三	三三、五	三三、三	二七、二	二六、五	二〇、七	二五、七	二五、〇	二六、四	二二、二	二九、四	二二、七	二二、七
五五	五七、五	一四、五	一四、〇	二五、五	二五	六三、〇	六〇、〇	三〇、〇	三五、五	二〇	六七、〇	五七、〇	四〇、〇	九〇	九〇
九、五	三七、一	七、七	一一、四	一八、〇	二一、一	五〇、四	四八、〇	二〇、七	二五、四	二六、七	三八、七	二九、八	一八、一	六、〇	六、〇

三 第							類							
〃	〃	〃	〃	〃	〃	男	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三〇	二七	二四	三三	三三	三七	三	三	九	七	六	五	四	三	三
八七	四九	四	二	六	七	四〇	一五	一五	二四	四〇	三	四	〇	七
三三、三	二八、〇	二七、〇	二六、四	二八、〇	二八、六	二二、五	一四、四	一〇、一	一八、三	一七、六	一七、四	一七、〇	一七、二	一〇、四
五〇	三〇〇	三二五	四〇〇	四〇〇	九〇	六七	九五	五二五	一九〇	三〇	一〇	五八五	三〇五	一六五
二、五	一七、二	二七、二	三五、〇	一九、四	六、四	五、七	一五、二	二八、三	一六、八	二七、四	〇、七	三〇、九	一七、五	一九、六

第 五 類		第 四 類		第 三 類		第 二 類	
男	女	男	女	男	女	男	女
七	七	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三

右表ノ類別ハ尿「ベブレン」價ノ動搖ノ大小ニ依テ行ヘルモノナリ、即チ第一類ハ動搖率一〇%以下ノ者、第二類ハ一〇乃至二〇%ノ者、第三類ハ二〇乃至三〇%ノ者、第四類ハ三〇乃至四〇%、第五類ハ四〇乃至五〇%ノ者ナリ。

又右表ノ尿量ノ差及ビ同動搖率ノ欄ニ於テ▼標ヲ附セルハ尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トガ相伴ハザルモノナリ、更ニ説明スレバ尿量多量ナル者ニ尿「ベブレン」價高クシテ尿量少量ナル者ニ尿「ベブレン」價「尿」價「尿」濃度ニ非ズ)低キ場合ヲ相伴フトナシ、然ラザル場合ヲ相伴ハズトナシ▼標ヲ附セルモノナリ。

今右表ヲ詳細ニ觀察スルニ尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トガ相伴ハザル場合ハ總計十例ヲ算シ、是ヲ全數ニ對スル%數ニテ表ハセバ七、二%トナル、是ニ依テ觀レバ尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トハ多クノ場合ニ於テ相伴フモ少數ノ場合ニ於テハ然ラザルモノ、如シ、茲ニ各類別ニ就テ此關係ヲ示セバ左ノ如シ。

一、第一類十四例中ニ於テ尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トガ相伴ハザルハ四例ニシテ其他ノ十例ハ相伴ヒ而モ動搖率相近似セル者比較的多シ、今十例ニ於ケル動搖率ノ各平均數ヲ擧グレバ左ノ如シ。

尿「ベブレン」價ノ動搖率ノ平均 五、四%

尿量ノ動搖率ノ平均 九、四%

二、第二類二十五例中ニ於テ尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トガ相伴ハザルハ五例ナリ、其他ノ例ニ於テハ動搖率或ハ近似シ或ハ然ラズ、然レモ其ノ平均數ハ近似セリ、

尿「ベブレン」價ノ動搖率ノ平均 一六、八%

尿量ノ動搖率ノ平均 一五、三%

三、第三類十四例中ニ於テハ尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トノ相伴ハザルハ一例ノミ、其他ノ例ノ動搖率ノ平均數ハ

尿「ベブレン」價ノ動搖率ノ平均 二七、一%

尿量ノ動搖率ノ平均 二〇、九%

ニシテ是レ亦其差顯著ナラズ。

四、第四類ニ於テハ尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖ノ相伴ハザルノ例ハナシ、其ノ動搖率ノ平均數ハ左ノ如クニシテ相隔ルコト稍々遠シ。

尿「ベブレン」價ノ動搖率ノ平均 三五、九%

尿量ノ動搖率ノ平均 二二、六%

五、第五類ノ平均數ハ左ノ如シ。

尿「ベブレン」價ノ動搖率ノ平均 四四、五%

尿量ノ動搖率ノ平均 三九、〇%

右記スル所ニ依レバ尿「ベブレン」價ノ動搖率ト尿量ノ動搖率トハ全然相一致スルニ至ラザルモ一程度マデ近似セル者ノ如シ、尿「ベブレン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トガ相伴ハザル場合ノ如キハ其ノ動搖率ノ著シク顯著ナラザル場合ニ於テノミ出現シ得ルヲ示セルハ興味アル所見ニシテ兩者ノ關係ノ如何ニ密接ナルヤヲ語ルモノト云ハザルベカラズ。

今ヤ余ハ尿「ベブレン」價ノ動搖ニ關シ諸多ノ事項ヲ論究セリ、餘ヌ所ハ長日月間ニ於ケル尿「ベブレン」價ノ動搖ノ狀態ニ關スル知見ノミ、本節冒頭ニ於テ掲出セル乙表ヲ觀ルニ其ノ第一號ニ於テハ九月一日ヨリ三日間ノ尿「ベブレン」ノ平均價三三、六、尿量ノ平均量一四七、二、九月二十九日ヨリ三日間ノ尿「ベブレン」ノ平均價四三、三、尿量ノ平均量一六二、三、十一月十四日ヨリ三日間ノ尿「ベブレン」ノ平均價四六、〇、尿量ノ平均量二二六、〇、十二月九日ヨリ三日間ノ尿「ベブレン」ノ平均價四四、七、尿量ノ平均量二二九、五、此ニシテ九月初メニ於ケル尿「ベブレン」價最低タ九月ノ終ヨリ十月初メニ巨ル價差ニ次ギ、十一及十二月ニ於ケルモノ最高シ、而シテ是ヲ尿量ト對比スルニ殆ンド相平行セリ、第二號ニ於テハ十一月マデノ尿「ベブレン」價ハ殆ンド動搖セズ十二月ニ至リテ著シク増加シ尿量亦タ是ニ伴フノ傾向アリ、第三號ハ全期ヲ通ジテ尿「ベブレン」價及ビ尿量殆ンド變化セズ、第四號モ亦タ其ノ狀態殆ンド第三號ニ類セルモ十一月ニ於テ尿「ベブレン」價及ビ尿量稍々大ナリ、第五號ハ期ト共ニ尿「ベブレン」及ビ尿量ヲ増シ、第六號及ビ第七號ニハ此ノ關係無シ、是ヲ以テ觀レバ季節ニ依テ尿「ベブレン」價ノ變動ヲ來セルハ三例ニシテ其ノ他ハ然ラズ、即チ殆ンド相半バセルヲ見ル、而シテ前者ニアリテハ總テ夏季或ハ是ニ近キ季節ニ於テ其ノ價低ク、冬季ニ近ヅクニ從ヒテ増進セリ、尿量トノ關係ハ三例中ノ二例ニ於テハ相並ンデ増量シ一例ハ然ラズ、又尿「ベブレン」價ノ變動ヲ來サルハ四例ニ於テハ尿量モ亦タ一定セル増減ヲナスコト無シ、即チ全然尿量ト相並行スル者ニ非ザルモ其ノ傾向アルヲ知ルベシ、何ガ故ニ尿「ベブレン」價ガ夏季ニ於テ低ク、冬季ニ於テ高キヤハ是ヲ一程度マデ胃ノ機能程度ニ歸セザルベカラザルベシト雖モ然レモ亦タ尿量ノ増減トモ一定ノ關係アルハ余ガ叙上ノ研究ニ依テ明カニセル所ノ如シ、冬季ニ於ケル尿量増加ノ原因ヲ胃ノ機能亢進ニ因ル攝食量ノ増加ニ歸シ得ンカ尿「ベブレン」量ノ増加ノ原因ヲ全然胃ノ機能亢進ニ歸シ得ベシト雖モ然ルトハ云フ能ハズ一部發行ノ多少ニ其ノ因ヲ留メザルベカラザルヲ以テ茲ニ發行ト共ニ「ベブレン」ガ失ハルカ否カノ檢索ノ要ヲ生ズト雖モ余ハ未ダ此ノ點ニ指テ染ムルヲ得ズ、近キ季節ヲ俟ツテ研究スル所アラントスルヲ表明シ得ルノミ。

長日月間ニ於ケル尿「ベブレン」價ノ動搖率ガ如何ナル程度ナルヤハ該表ニ於テ明カナラシメタルガ如ク可成リ

ニ高率ナリ、是ガ尿量ノ動搖率ニ對スル關係ハ該表末尾ニ記入セルガ如ク、三日間以下採尿ノ者ニ於テ擧ゲタル成績ト大差ナシ、然レモ是ニ於テハ尿「ベプシン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トガ逆比例スルガ如キモノハ是ヲ缺キタリ、是レ能ク余ガ先キニ斯クノ如キハ動搖ノ程度輕度ナル場合ニ於テノミ來リ得ルガ如シトセルニ一致シ興味アル所見ナリト云フヲ得ザルベカラズ。

第五節 年齢ト尿「ベプシン」價トノ關係ニ就テ

Pochstein氏 19)ハ乳兒ニ於ケル尿「ベプシン」量ニ就テ檢索シ第一日ニ於テ少ク漸次増量シテ第一年間ハ大人ノ排泄量ノ約二十分ノ一ヲ算スルヲ報セリ、是レ恐ラク本項ニ關係アル文獻ノ唯一ノモノナラン、余ハ既ニ述ベタルガ如ク乳兒ハ是ヲ措キ全尿量ヲ採リ得ルノ年齢ニ達セル小兒ヨリ高年ニ至リ動搖ノ狀態ニ就テ檢索セント欲ス。

季節ヲ異ニスルニ依リ尿「ベプレン」價ニ多少ノ動搖アルハ前節ニ於テ明カニセル所ノ如シ即チ夏季ニ於テハ其ノ價低ク、冬季ニ於テハ是ニ反スルコト是レナリ、是ヲ以テ余ハ本節ノ檢索ヲナスニ當ツテハ同季節ニ於ケルモノニ就テスルノ要アルヲ思ヒタルヲ以テ九月及十二月ニ於ケル檢査例ハ是ヲ除外シ專ラ十月及十一月ニ於ケルモノヲ其ノ資料トナセリ、長期ニ亘リテ檢査セルモノハ十月及十一月ニ於ケル全成績ノ平均數ヲ掲載ス。

第二十一表

甲、小兒ノ表

年 齡	男		女	
	被檢者	尿「ベプシン」價 各個人ノ尿「同年者」 「ベプシン」價平均價	被檢者	尿「ベプシン」價 各個人ノ尿「同年者」 「ベプシン」價平均價
四 枝 村	三	三		
六 繩 田	四	四		
七 薙 野	四	四		
八 西	八	八		
九 薙 野	三	三	吉 富	三
〇 且 原	九	九		
〇 長 谷 川	九	九		
〇 坂	九	九		
〇 野 村	九	九		
〇 野 村	九	九		
二 吉 富	三	三	山 本	三

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
音茅壁吳服店員	國弘無	元野上器械職工	七國光下駄職	兵常盤〃	〃中務吳服店員	〃西製紙職工	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
二四〇	一八八	三五二	一八一	一五一	一〇六	二六七					一〇七			三二七	三二二	二四二					
二四〇	一八八	三五二	一八一	一五一	二二七	一〇七					三二七	二六									
平中西農	西村無		野上無		國光農	常盤吳服店員	野上農	茅壁吳服店員	木村農	上浴下女											
二二六	一四九		二二五		一九七	二二二	二二二	一九九	二二三	二二〇											

1101

天佐藤	年齢	被檢者	〃		〃		〃		〃		〃		〃		〃		〃		〃		〃		
		業職	農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農	無農
	各個人ノ尿價平均價	尿ベア	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
		ベア	二八六	二六	二五	二八	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
被檢者	業職	長谷川		野村		野村		坂村		小村		齊藤		〃		〃		〃		〃			
各個人ノ尿價平均價	尿ベア	二四三	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	

1101



空	容	五	究	岩	望	〃	〃	望	〃	呂	冕	吳	毛	吳	〃
三	茅	山	坂	中	且			平		野	重	野	前		
池	壁	田		田	原			中		村	成	村	原		
磨	主	〃	農	主	酒			大		農	稅	醫	教		
工	人	店		人	造			工			務	師	師		
				業	官			職			官				
				職	職						吏				

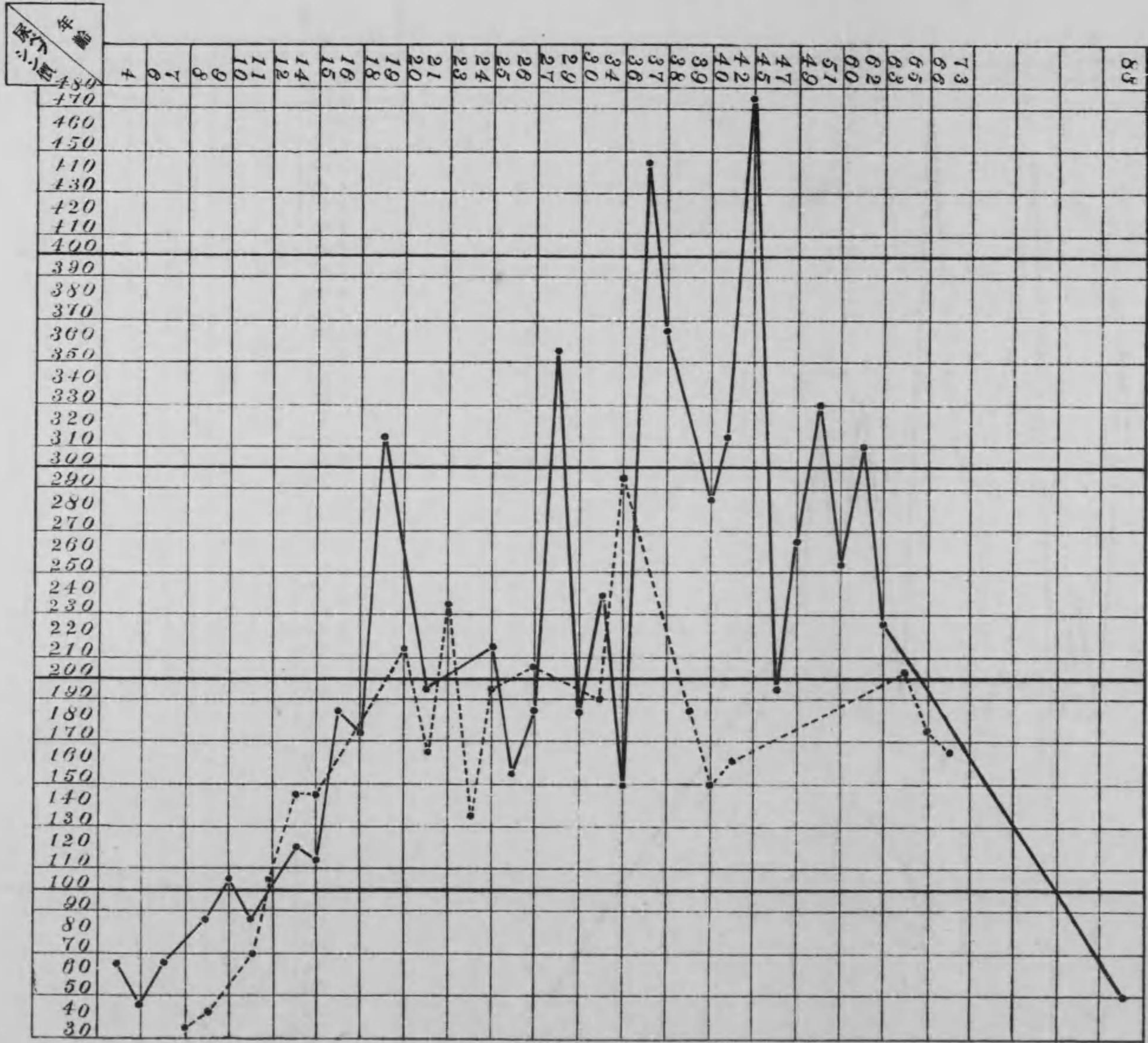
三〇
 三五
 三〇
 三五
 一九五
 四七五
 三七
 三六
 三六
 四九
 一〇

三〇
 三五
 三〇
 三五
 一〇
 四七五
 三七
 三六
 三六
 四九
 一〇

													野	前
													村	原
													〃	無

三六
 一〇〇
 一四
 一〇
 一六
 一八
 三三
 一〇

三〇
 三五
 三〇
 三五
 一〇
 四七五
 三七
 三六
 三六
 四九
 一〇



第一圖
 ●——● 男子尿酸價線
 ○- - -○ 女子尿酸價線

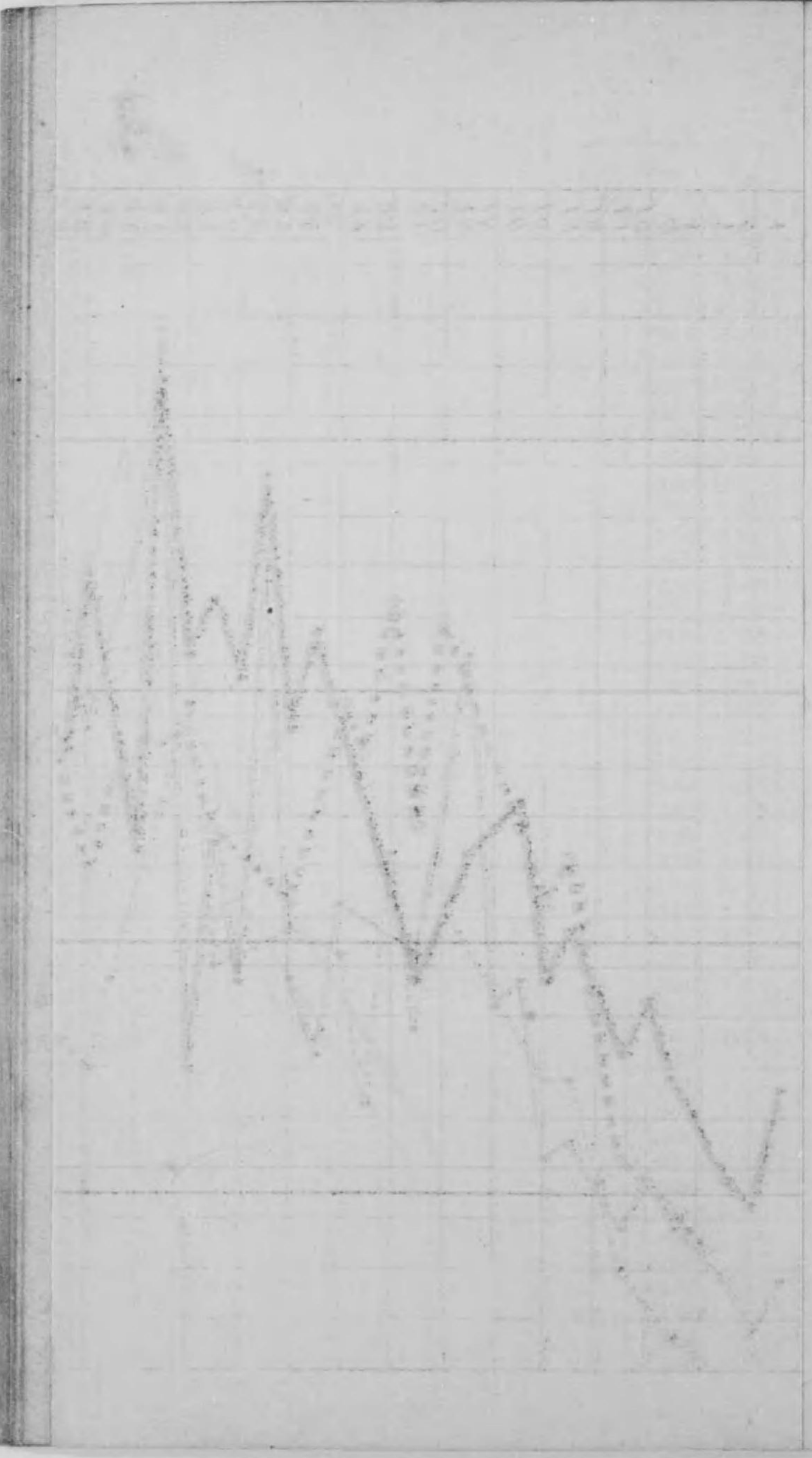
三池	容茅	五山	兎坂	野中	野且
主人	主人	主人	主人	主人	主人
店	店	店	店	店	店
二五	二五	二五	二五	二五	二五
二五	二五	二五	二五	二五	二五



壹國光農	三五	三五	野上	無	1011	1011
六山縣	無	吾	野上	無	1011	1011
平均	無	吾	野上	無	1011	1011
六山縣	無	吾	野上	無	1011	1011
平均	無	吾	野上	無	1011	1011

更ニ右表ニ掲ケタル所ヲ作圖スレバ第一圖ノ如シ、尿「ベアシン」價ハ專ラ平均價ヲ記入セリ。

今右ノ表(第二十一表)及ビ圖(第一圖)ニ於テ年齡ノ變化ニ依ル尿「ベアシン」價動搖ノ狀態ヲ觀ルニ男子ニ於テハ四乃至七才ニテハ五〇前後ノ價ヲ示シ、是ヨリ多少ノ弛張ヲナシ、漸次ニ増加セテ十六才ニシテ一八〇餘ニ達シ以後六十三才マデハ一五〇乃至四八〇ノ間ヲ昇降シテ其ノ弛張甚ダシク、八十八才ニ至レバ低下シテ再び起點ニ達シ、女子ニ於テハ八乃至九才ニテ約四〇ヲ示シ是レヨリ漸次ニ増加シテ二十才ニシテ二〇〇ニ達シ、以後七十三才マデ可成リノ弛張ヲ示セルモ其ノ程度男子ニ於ケルガ如ク甚ダシカラズ、是ヲ以テ觀レバ小兒期ニ於テハ漸次ニ上昇シテ十五乃至二十才ニシテ大人價ニ達スルハ男女ヲ通ジテ相同ジク、大人期ニ於テハ男子ニ於ケル低キ價ト女子ノ價トハ殆ンド相同ジク、男子ニ於ケル高キ價ハ是ニ二倍或ハ其ノ以上ニ達スルヲ見ル、高年ニ於テハ再び低下スルノ傾向ヲ示セリト雖モ七十三才ニ至ルマデハ所謂大人期ノ低キ價以下ニ下降セザルモノ、如シ茲ニ十五才マデヲ小兒トシ小兒期及ビ大人期ニ於ケル尿「ベアシン」價ノ平均數ヲ求メ男女ヲ比較スレバ左ノ如シ



〃	四	〃	〃	〃	三	〃	〃	二	〃	〃	〃	〃	〇	〃	九
重	齊				吉	吉	野	野		坂	長	且	長		藤
成	藤				武	賀	富	村	村		川	原	川		野
八一〇	一一二〇				六三五	一〇〇三	六四〇	九二二	七三五	七八九	九三三	九五〇	七三三		七二〇
一〇八					一〇六			一〇六					七四		
八一	一六五				七	一四	七	一〇	九	五	九	二七	二	三	三
一三〇					九			二					三		
野	野			坂	本	齊		山							吉
村	村			村	藤	藤		本							富
二九五	一二五			五四五	一〇三五	八九〇		五七八							四九七
二五				八				五							四九七
一四九	一五四		五	二九	三			六							四〇
二五				一〇				六							四〇

一四八

期別	性別	男	女
小兒期		八六	八九
大人期		二六五	一九一

右ノ計算中へハ八十八才ナル男子ノ成績ハ算入セズ、是レ女子ニ於テ是ニ匹敵スルモノヲ缺クテ以テ男女ノ間ノ平均數ヲシテ不平均ナラシムルヲ以テナリ、今是ニ依テ觀ルニ小兒期ニ於テハ男女ノ間ニ殆ンド差ナク是ニ反シテ大人期ニ於テハ其ノ差可成リニ大ニシテ七四ヲ算スルヲ見ル、是ヲ男子ノ數ヨリ見ル時ハ其ノ間隔率二七、九%ニシテ女子ノ數ヨリ見ル時ハ三八、七%トナル、何ガ故ニ男女ノ間ニ斯クノ如キ差異ヲ生ズルニ至ルカハ興味アル問題ナリト雖也是ヲ後節ニ讓リ本節ニ於テハ單ニ此ノ事實ノ存スルヲ叙述スルニ止ムベシ。

小兒期及ビ大人期ヲ通ジテノ平均數ノ差モ先キノ表ニ記入セルガ如ク可成リニ大ナリ、是レ小兒期及ビ大人期ヲ分類セル平均數ヲ考フレバ其理元トヨリ明カナル所ナリ。

大人男子ニ於テ最高價ヲ示スノ年齡ハ四十才前後ナルガ如シト雖也コハ余ノ少數ノ検査例ニ於ケル所見ナリ、果シテ然リヤ否ヤ余ハ未ダ斷言スルヲ得ズ、是ヲ他日ノ検査ニ俟タント欲ス。

第六節 年齢及ビ尿「ベブシン」價ト尿量トノ關係ニ就テ

年齢ト尿「ベブシン」價トノ關係ハ是ヲ前節ニ於テ明カニシ、尿「ベブシン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トノ關係ハ第三節及ビ第四節ニ於テ論斷セリ、是ヲ以テ觀レバ本節ノ研究ノ如キハ一見其ノ意味ニ乏シキガ如シト雖也決シテ

然ラズ、是レ同ジク尿「ベブシン」價ト尿量トノ關係ヲ検査スルモノナルモ其ノ方面ナ異ニスレバナリ、即チ第三節ニ於テハ尿量ガ尿「ベブシン」價ニ及ボス關係ノ定則ヲ需メ、第四節ニ於テハ尿量ノ動搖率ト尿「ベブシン」價ノ動搖率トノ關係ヲ検査シ、本節ニ於テハ年齢ニ依ル尿「ベブシン」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トガ如何ナル關係ニ於テ立ツヤヲ検査セントスルモノナレバナリ。

左ニ前節ノ例ニ倣ヒ表及ビ圖ヲ掲ゲ其ノ關係ヲ一目瞭然タラシムベシ、是亦勿論十及ビ十一月ニ於ケル検査例ヲ以テ作成セルモノナリトス。

第二十二表

年 齡	男		女	
	尿量(耗)	尿「ベブシン」價	尿量(耗)	尿「ベブシン」價
被檢者	各個人ノ同年者ノ尿量平均量	各個人ノ同年者ノ尿「ベブシン」價平均價	各個人ノ同年者ノ尿量平均量	各個人ノ同年者ノ尿「ベブシン」價平均價
四 枝 村	七〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
六 繩 田	四九	四〇	四〇	四〇
七 薙 野	五一七	四八	四八	四八
八 〃 西	五三	八四	八四	八四
被檢者	齊藤	齊藤	齊藤	齊藤
業 職				
尿 量	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
尿「ベブシン」價	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
國	國	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
弘	茅	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
無	壁	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	吳	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	服	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	店	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	賃	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一五三	一六七	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二
二八	二四〇	一五〇	一四九	一四八	一四七	一四六	一四五	一四四	一四三	一四二	一四一	一四〇	一三九	一三八	一三七	一三六	一三五	一三四	一三三
一八	二〇	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	二四	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

一〇〇

五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五	一八五
一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八
一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇

今第二圖ニ於テ觀ルニ女子ニ於ケル尿「ベグ」價ノ動搖線ト尿量ノ動搖線トハ殆ンド相並行シ、男子ニ於テモ一小部分ヲ除イテハ大体ニ於テ相並行スルヲ見ル、即チ年齡ヲ異ニスルニ依ル尿「ベグ」價ノ動搖ト尿量ノ動搖トハ男女ノ何レニ於テモ一程度マデ並行的ナルコト明カナリ、是ヲ以テ觀レバ先キノ第四節ニ於テ明カニヒル尿量ノ動搖ト尿「ベグ」價ノ動搖トノ間ニ於ケル規則ハ此場合ニ於テモ適用サルト雖モ茲ニ本節ノ研究ニ依テ闡明セル特異點アリ即チ左ノ如シ。

右ノ表大末期ニ於テ男子ノ尿「ベグ」價線ト女子ノ尿「ベグ」價線トノ關係及ヒ男子ノ尿量線ト女子ノ尿量線トノ關係ガ多少趣ヲ異ニスルコト是レナリ即チ男女間ノ尿量線ハ尿「ベグ」價線ニ比シ一般ニ少シク近接

シ、而カノミナラズ一小部分ニ於テハ尿「ペブシン」價ノ關係トハ逆比例的ニ女子ニ於テ尿量却テ多量ナルコトナリトス、今平均數ニテ表ハシ尿「ペブシン」價ノ間隔率ニ比較スレバ左ノ如シ。

第二十三表

尿量(大人ノ平均量)(ト)	男		女		同上ノ間隔率%
	尿「ペブシン」價(大人ノ平均價)	間隔率	尿「ペブシン」價(大人ノ平均價)	間隔率	
一五五	二五	一三三	一五	一三	男子尿量ニ對シテハ 一一、九 女子尿量ニ對シテハ 一三、六
二五	一九	一四	七	一三	男子尿「ペブシン」價ニ對シテハ 二七、九 女子尿「ペブシン」價ニ對シテハ 三六、七

備考 八十八才ノ老人ノ検査成績ハ算入セズ

右ノ表ニ依テ觀レバ尿量ノ間隔率ハ尿「ペブシン」價ノ間隔率ニ比スレバ二分ノ一以下ナリ、即チ女子ノ尿量ハ比較的多量ナルモ尿「ペブシン」價ハ此比例ニ準ゼズ換言スレバ女子ニ於テハ尿「ペブシン」濃度ハ男子ノ夫レニ比スレバ稀薄ナリ、此事ハ女子ノ尿「ペブシン」價ノ男子ノ夫レニ及バザルノ理由ヲ尿量ノ關係ヲ以テ説明スベカラザルヲ證シ必要ナル事項ニ屬スマシト信ズ。

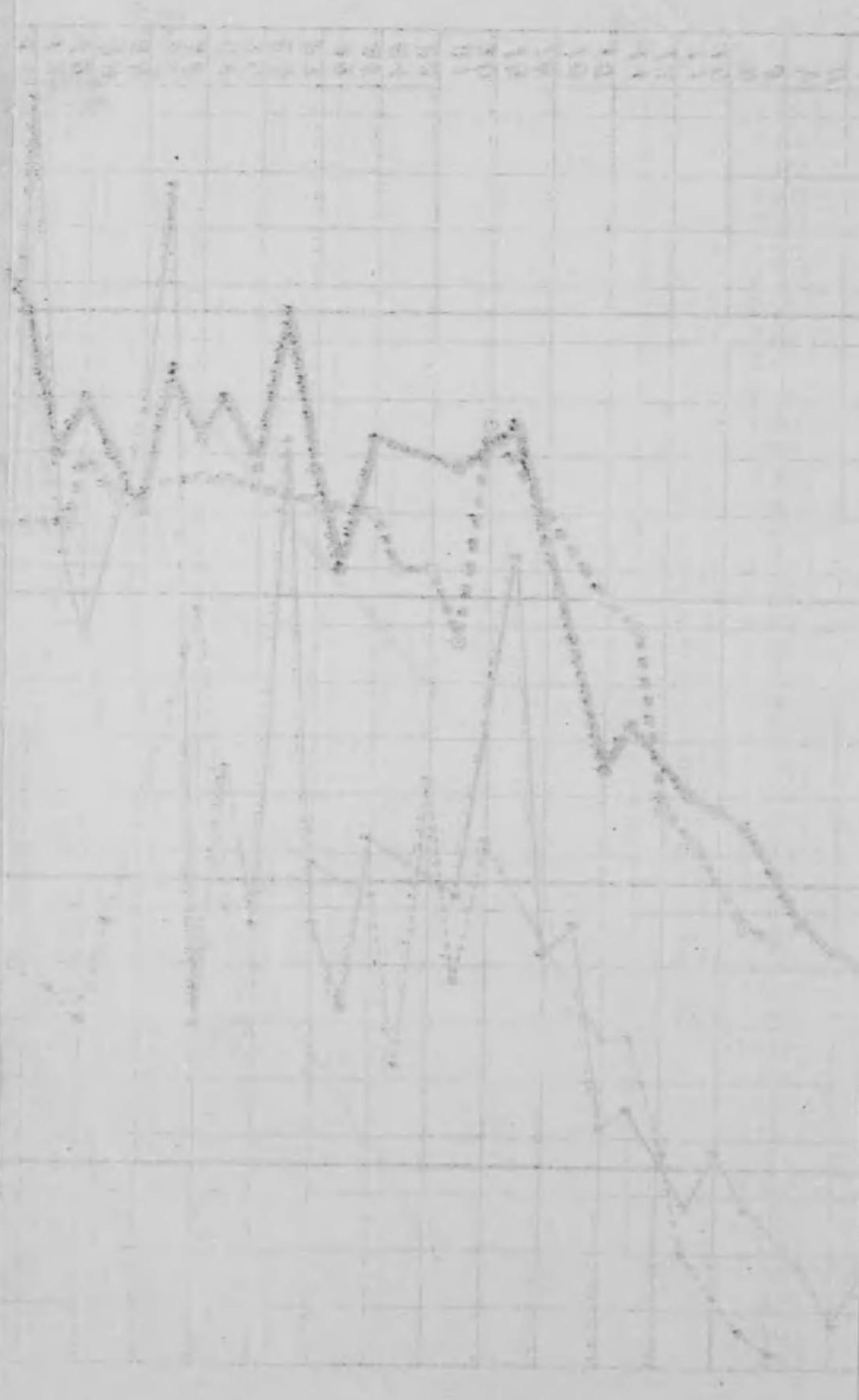
第七節 年齢及ビ尿「ペブシン」價ト體重トノ關係ニ就テ

年齢ト尿「ペブシン」價トノ關係ヲ觀ルニ第五節ニ於テ是ヲ明カニセルガ如ク小兒期ニ於テハ若キ年齢ニ從テ增加シ大人期ニ於テモ亦大体ニ於テ一定ノ範圍内ニアリト雖モ其ノ動搖ハ可成リニ烈シク特ニ男子ニ於テ然リトス

此個人ニ依ルノ差異ヲ體重ノ關係ヲ以テ説明シ得ベキヤ否ヤ、蓋シコハ興味アル問題ナリト雖モ未ダ文獻ニ其ノ記載ヲ缺クモノ、如シ、勿論是レ從來ノ検査未ダ詳細ニ亘ラズ、從ツテ個人ヲ異ニスルニ依ルノ差異等充分ニ闡明セラレザルニ因ルナラン、體重大ナレバ一般ニ食量是ニ準ジ尿量モ亦多量ナルヲ普通トスルヲ以テ從ツテ尿「ペブシン」價ノ大ナルハ蓋シ當然ナルベシト雖モ如何程マデ關係ヲ有スルヤハ精密ナル觀察ヲナスニ非ザレバ知ルコト難キヲ以テ余ハ余ノ八十例中ヨリ十及ビ十一月ニ於ケル成績ヲ表及ビ圖トシ觀察ヲ試ミントス、九及ビ十二月ニ於ケル成績ヲ除外セルハ既ニ記述セル理由ニ依ル。

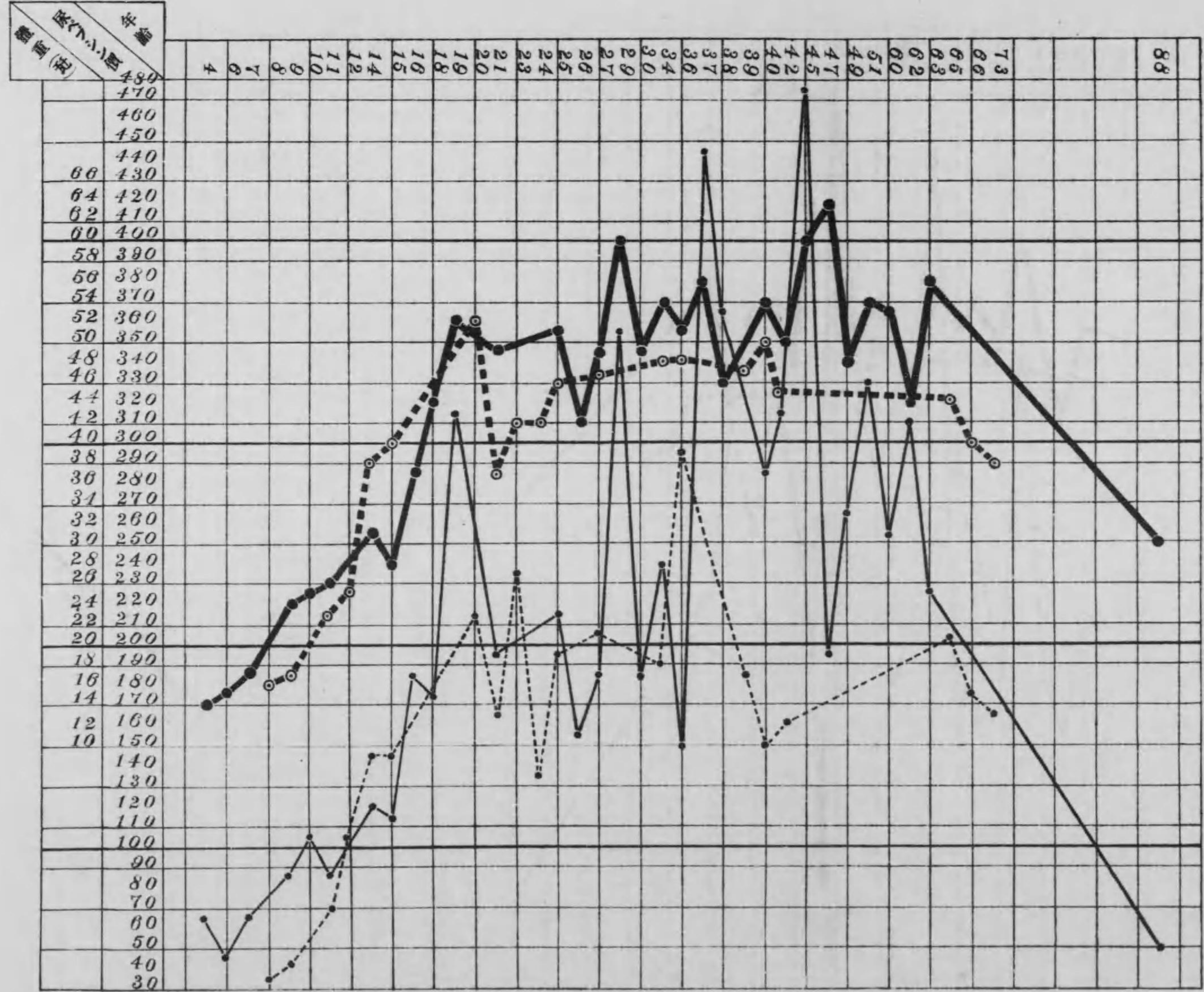
第二十四表

年 齡	男		女	
	尿量(ト)	尿「ペブシン」價	尿量(ト)	尿「ペブシン」價
被檢者	枝村	一四	三三	空
職 業	繩田	一五	四	空
體 重	野	一六	四八	一六
各個人ノ同年者ノ平均	一八	一七	一六	一七
各個人ノ同年者ノ尿「ペブシン」價平均	一八	一七	一六	一七
被檢者	藤	一六	一七	一七
職 業	藤	一六	一七	一七
體 重	藤	一六	一七	一七
各個人ノ同年者ノ平均	一六	一七	一六	一七
各個人ノ同年者ノ尿「ペブシン」價平均	一六	一七	一六	一七



兒	豐	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
坂	中	且		平	野	野	重	野	前				茅	國
農	田	原		中	村	村	成	村	原				壁	弘
	主人	左		大	農	醫	稅	醫	牧				吳	無
	酒	官		工		師	務	師	師				店	無
	造	職		職			官						員	
	業						吏							
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二五	一九	四七		三二	二六		三六	四九	一五			二四	一八	
二五	一九	四七		三二	二六		三六	四九	一五			二四	一八	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二五	一九	四七		三二	二六		三六	四九	一五			二四	一八	

一五六



第三圖

—●— 男子尿ベプシン價線
 - - - ○ - - - 女子尿ベプシン價線
 —●— 男子體重線
 - - - ○ - - - 女子體重線

野村農	平中大工職	且原左官職	中酒造業	田主人	坂農	野村農
三六	三六	三六	三七	四七	一五	三五
長谷川無	勝原無	中田無	吉富裁縫業	且原農	茅壁吳店員	長谷川無
三七	三六	三六	三六	三五	三七	三七
一六	一六	一六	一四	一三	一三	一六
一六	一六	一六	一五	一五	一五	一六

第二十五表

年齢	男		女	
	体重	尿ベ	体重	尿ベ
四	一四	四六	八	四七
六	一五	四四	九	四〇
七	一七	六六	一一	五〇
九	二四	八二	一三	六四
一〇	二五	一〇八	一四	一〇一
一一	二六	八九	一五	一四九
一二	二八	一一〇	一七	一四三
一四	三二	一三〇	一九	一四四
一五	二八	一一六	二〇	一四二
一六	二七	一六六	二二	一五〇
一八	四〇	一七六	二四	一七一
一九	五二	三二七	二五	一九七
二一	五九	一九七	二七	二〇五

二五	四、五	二二七	三、六
二六	三、六	一五八	三、六
二七	四、九	一八一	三、九
二九	六、〇	三五一	五、八
三〇	四、九	一八八	三、八
三四	五、〇	二四〇	四、四
三六	五、一	一五〇	二、八
三七	五、六	四四九	八、〇
三八	四、六	三三六	七、六
四〇	五、四	二八六	五、〇
四一	五、〇	三二七	六、四
四三	六、〇	四七五	七、九
四七	六、四	二九五	三、五
四九	四、八	二六五	五、三
五一	五、四	三〇〇	六、一
五三	五、五	二五二	四、七
六〇	五、二		

平均	六	七	八	平均	四	三、四
凡	凡	凡	凡	凡	凡	凡
三三	三三	三五	三三	三三	三三	三三
凡	凡	凡	凡	凡	凡	凡
四、七	四、七	四、七	四、七	四、七	四、七	四、七
平均	六	七	八	平均	四	三、四
凡	凡	凡	凡	凡	凡	凡
三三	三三	三五	三三	三三	三三	三三
凡	凡	凡	凡	凡	凡	凡
四、七	四、七	四、七	四、七	四、七	四、七	四、七

備考 凡ノ字ノ意味ハ前表備考ニ於テ説明セル所ニ同シ

右ノ表ニ依テ觀レバ体重一基瓦ニ對スル尿「ベグシン」價ハ男子於テハ八十八才ノ老人ニ於ケル凡一、六七ヲ除キテハ最低二、九三 最高八、〇二 女子ニ於テハ最低二、三一 最高六、〇八ナリ、是ヲ以テ觀レバ其ノ動搖ハ可成リニ著明ナルガ如シト雖モ今是ヲ類別シテ大勢ノ存スル所ヲ見ルニ

- 一、二、〇〇乃至二、九九ノ間ニアル者
 - 男子 二 全數ノ 六、七%
 - 女子 三 〃 一五、〇%
- 二、三、〇〇乃至三、九九ノ間ニアル者
 - 男子 八 全數ノ二六、七%
 - 女子 六 〃 三〇、〇%
- 三、四、〇〇乃至四、九九ノ間ニアル者
 - 男子 九 全數ノ三〇、〇%
 - 女子 九 〃 四五、〇%

- 四、五、〇〇乃至五、九九ノ間ニアル者
 - 男子 四 全數ノ一三、三%
 - 女子 一 〃 五、〇%
- 五、六、〇〇乃至六、九九ノ間ニアル者
 - 男子 三 全數ノ一〇、〇%
 - 女子 一 〃 五、〇%
- 六、七、〇〇乃至七、九九ノ間ニアル者
 - 男子 三 全數ノ一〇、〇%
 - 女子 〇 〃
- 七、八、〇〇乃至八、九九ノ間ニアル者
 - 男子 一 全數ノ 三、三%
 - 女子 〇 〃

ノ如クニシテ男子ニ於テモ女子ニ於テモ四、〇〇乃至四、九九ノ間ニアル者最多數ヲ占メ、三、〇〇乃至三、九九ノ間ニアル者は二次其ノ以下及ビ以上ノ者ハ比較的少數ナリ、是ヲ以テ見レバ体重ト尿「ベグシン」價トガ如何ニ密接ナル關係ヲ有スルヤハ今ヤ疑フベキノ餘地ナシト云ハザルベカラズ、而シテ五、〇〇以上ノ者男子ニ比較的多數ニシテ女子ニ比較的少數ナルコト、從ツテ其ノ平均價ノ女子ヨリモ男子ニ於テ稍著シク高キコト（八十八才ノ老人ノ成績ヲ除キテ計算スレバ男子ニ於ケル平均數ハ四、八二トナルヲ以テ其ノ差ハ一層著明トナル）ハ是ヲ食餌ノ關係ニ因ルトナスヲ至當トスマシト雖モコハ本節ニ於テハ決定セズシテ是ヲ後節ノ研究ニ俟ツベシ。

是ヲ要スルニ余ハ尿「ペブシン」價ガ各個人ニ於テ可成リ著明ナル動搖ヲナスモ体重トハ畧ホ一定ノ關係ニ於テ立ツヲ立證セルモノナリ是レ元トヨリ體重ト食量トガ畧ホ一定ノ關係ヲ有スルノ結果ナルベシト雖ル尿「ペブシン」ニ關スル知見上極メテ重要ナル所ナルベシト信ズ。

第八節 男女間ニ於ケル尿「ペブシン」濃度ノ差異ニ就テ

余ハ第六節ニ於テ年齡及ビ尿「ペブシン」價ト尿量トノ關係ヲ檢索スルニ際シ大人期女子ノ尿量ハ男子ニ比シ尿「ペブシン」價ノ割合ヨリモ多量ナルヲ發見シ、是ヲ以テ女子尿ノ「ペブシン」濃度ハ男子ノ夫レニ比シ稀薄ナルヲ推論セリ、茲ニ余ハ此ノ關係ヲ明瞭ナラシメシメガ爲メニ第二節ノ表ノ各例ニ於ケル尿「ペブシン」單位(一、〇%)ノ「カゼイン」溶液ヲ二時間半ニ消化スルノ最小尿量ノ平均ヲ算出シ掲ケントス。勿論茲ニハ大人ノミナラズ、小兒ノ表ヲモ掲グマシ。

第二十六表 一、小兒ノ表

枝村	男			女		
	被檢者	年齢	職業	被檢者	年齢	職業
四	七〇	豐	三	三	三七	豐
	尿量(耗)	尿ペブシン單位	尿量(耗)	尿ペブシン單位		
	七〇	豐	三	三	三七	豐
	位	價	位	價		
	三	豐	三	三	三七	豐
	價	價	價	價		
	三	豐	三	三	三七	豐
	價	價	價	價		

繩田	六	四九八	豐	四	四九七	豐	四〇
野	七	五二七	豐	八	五七八	豐	六四
西	〇	五六一	豐	九	八九〇	豐	七三
野	九	七二〇	豐	一〇	一〇三三	豐	七三
長谷川	〇	七三三	豐	一一	八九〇	豐	七三
且原	二	九五〇	豐	一二	一一五	豐	五三
長谷川	〇	九三三	豐	一三	一一五	豐	五三
坂	〇	七八九	豐	一四	一九五	豐	一四九
野村	〇	七三五	豐	一五	一九三	豐	一四三
野村	〇	九三三	豐	一六	二〇〇	豐	一四三
吉富	二	六四〇	豐	一七	二〇〇	豐	一四三
宇賀	〇	一〇〇三	豐	一八	二四	豐	一四三
吉武	〇	六五五	豐	一九	六七	豐	一四三
齊藤	一	一三〇	豐	二〇	一五	豐	一四三
重成	〇	八〇	豐	二一	八二	豐	一四三
坂	〇	一〇七	豐	二二	一五	豐	一四三

野上元	國弘三	茅壁四	前原三	野村三	重成〃	野村四	平中四	且原三	中田四	坂四	山田五	茅壁三	三池三	國光三	平均
器機工	無	吳服店員	教師	醫師	稅務官吏	農	大工職	左官職	酒造業主人	農	〃	吳服店主人	磨工	農	
一九五五	一五三三	一六六七	一五二二	二二五五	一一八二	一七〇〇	三九二一	一四五五	一八四七	一九八三	一四四〇	一八五五	一四六六	二二八〇	
三	三	六	六	元	元	六	六	三	天	六	六	六	六	三	三
三三	一八	二四〇	一五〇	四四九	三六六	三六六	三七七	四七五	一五五	二五五	三三〇	二五三	三三〇	三三〇	三三
前原	野村	長谷川	勝原	中田	吉富	且原	茅壁	野上	佐藤	齊藤					平均
無	〃	〃	農	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
一九〇〇	一四二〇	一三四五	一四六八	八二二	一五〇〇	一四五五	一五〇〇	二二二	一四〇〇	二〇七					
三	六	六	六	六	六	六	六	三	三	三	三	三	三	三	三
一四六	二九三	一八九	一九六	一〇三	一四一	三〇〇	二〇〇	二〇三	一七九	二六一					

彼檢者	佐藤	吉富	坂	國光	田中	西三	中務	常盤	國光	平均
年	六	六	〃	九	三	三	〃	三	三	
職	農	稅務署員	農	〃	下男	製紙工	吳服店員	〃	下駄職	
尿量	二七五	九七五	一四五	一八八	九二五	二七五	一六七〇	一六三三	一四三二	
尿ベツ	六	六	六	五	六	六	三	三	三	
尿ベツ	一六	一四	二二	三三	三三	一七	一七	一六	一八	
者檢者	上浴	木村	茅壁	野上	常盤	國光	野上	西村	平均	
年	三〇	〃	三	三	三	三	三	三		
職	下女	農	吳服店員	農	吳服店員	農	無	無		
尿量	一七三	一五六	一三〇	一六八	一八〇	一四六	一〇三	一四四		
尿ベツ	三	三	三	六	三	三	三	六		
尿ベツ	三〇	三三	一六	三三	一三	一七	二〇	一四		

二、大人ノ表

右ノ表ニ依テ觀ルニ小兒ニ於テハ男子ト女子トノ間ニ於テ顯著ナル差ナク、唯ダ平均數ニ於テ幾分ノ差ヲ示ス
 ノミナルモ、大人ニ於テハ其ノ間ニ特異ノ狀態ノ存スルヲ見ルベシ、即チ女子ニ於テハ其ノ單位量ホ一定セリト
 雖モ男子ニ在ツテハ或ハ女子ノ量ニ近似シ、或ハ是レヨリモ著シク少量ニシテ其ノ動搖甚ダシ、然レモ是レヲ平
 均スレバ稍著シク女子ノ價ト差アリトス、是ヲ以テ觀レバ男子ノ尿「ベブシン」濃度ガ總テノ場合ニ於テ女子ニ於
 ケルヨリモ濃厚ナリトハ稱スル能ハザルモ大体ニ於テ其ノ傾向ノ存スルハ否定スル能ハズ、即チ余ガ先キニ推斷
 セル所ニ異ナラズ。

第九節 職業ト尿「ベブシン」價トノ關係ニ就テ

職業ト尿「ベブシン」價ノ關係ノ可成リニ密接ナルベキハ想像スルニ難カラズ、是ニ勞働者ト非勞働者トヲ比較
 スレバ前者ニ於テ食量多量ナルヲ一般トナスヲ以テ胃ニ於ケル「ベブシン」分泌量亦タ是ニ從ツテ多量ナルヲ當然
 トスベキヲ以テナリ、余ハ余ノ検査例ヨリ十五才以下ノモノ並ニ勞働者非勞働者ノ何レニ屬セシムベキカ不明ナ
 ルモノ、又九及十二月ニ於ケル検査例ヲ除キ檢索ヲ試ミタリ、其ノ成績左表ノ如シ。

第二十七表 甲、男子ノ表

一、勞働者

第二節 番號	被檢者	年齢	職業	体重 (斤)	尿量 (耗)	尿「ベブシン」價
一四	國光	一九	農	五二	二八八	三二七
一七	國光	三三	〃	五五	二八〇	三三三
一八	且原	三三	左官職	六〇	一四五	四七五
二〇	田中	三三	下男	四九	九一五	一七七
二六	平中	三三	大工職	五〇	一三九	三二七
三〇	野上	三九	器械職工	六〇	一九五	三五一
三三	西	三五	製紙職工	五七	二二三	三六七
三三	野村	四〇	農	五七	一七〇	三六六
三三	佐藤	一六	〃	三七	二七五	一八六
三三	山田	五	〃	五四	一四〇	三三〇
三三	坂	一八	〃	四〇	一四五	三三三
三三	坂	一八	〃	四八	一九三	三三三
四〇	平均	四九	〃	五二	一四七	二五五

二、非労働者

第二節 表ノ番 號	被檢者	年齢	職業	體重 (斤)	尿 量 (耗)	尿ベ グ 價
九	吉富	一八	稅務署員	四七	九七五	二四
三	三池	三〇	磨工	四四	一四八	三〇
一九	國弘	三〇	無	四九	一五二三	一八
三	中田	四七	酒造業主	六四	一八四七	一五
三	重成	三六	稅務官吏	四四	二一八〇	三六
七	常盤	三六	吳服店員	四三	一六三三	一八
三	中務	三五	〃	四三	一六七〇	二六
四	茅壁	三四	〃	四三	一六七〇	二六
四	茅壁	三〇	吳服店主	五三	一八八五	二五
四	前原	三〇	教師	五三	一五二二	二〇
平均				五〇	一五一一	二七

乙、女子ノ表

一、労働者

第二節 表ノ番 號	被檢者	年齢	職業	體重 (斤)	尿 量 (耗)	尿ベ グ 價
六	上浴	二〇	下女	五二	一七二三	三〇
九	且原	四四	農	五二	一四五五	二〇
二	勝原	四〇	〃	五〇	一四六八	一六
六	國光	三五	〃	四六	一四七八	一七
〇	平中	三四	〃	四八	一〇三五	二六
三	木村	三〇	〃	五三	一五六六	二五
四	野上	三三	〃	四三	一六五八	三一
平均				四九	一四八五	二九

二、非労働者

第二節 番 表 號	被 檢 者	年 齡	職 業	體 重 (斤)	尿 量 (斤)	尿 價 シ ン 價
七	吉 富	四	裁縫業	四	二五〇	一四
一〇	西 村	四	無	四	一四四	一四
三	佐 藤	六	〃	四〇	一四六〇	一七
一七	中 田	〇	〃	五〇	八六三	一〇
一八	長 谷 川	元	〃	四七	一三四五	一八
一九	常 盤	二	吳服店員	四三	一三八〇	一三
二五	野 上	五	無	四	二六三	一〇
二六	野 上	七	〃	四七	一〇九三	一〇
二九	茅 壁	三	吳服店員	三七	一五六〇	一六
三〇	茅 壁	三	〃	三七	一三三〇	一六
三三	前 原	四	無	五〇	二一九〇	一四
平 均				四	二六〇	一五

右ノ表ニ依テ觀レバ男子ニ於テモ亦タ女子ニ於テモ其ノ差可成リニ顯著ニシテ男子ノ平均價ノ差ヲ求ムレハ七
七、女子ノ平均價ノ差ハ六六ナルヲ見ルベシ、是ヲ以テ見レハ労働者ニ於テ尿「ペブレン」價差カニ高キハ是ヲ認メ
ザルベカラザルモノ、如シ、而シテ是ト體重トガ如何ナル關係ニ於テ立ツヤチ見ルニ體重ノ平均ハ男子労働者ニ
於テハ五一、同非労働者ニ於テハ五〇、女子労働者ニ於テハ五〇、同非労働者ニ於テハ四四ナリ、即チ女子ニ於テ
ハ其ノ差稍顯著ナリト雖モ男子ニ於テハ其ノ差殆ンド認ムベカラズ、是ヲ以テ觀レハ労働者及ビ非労働者間ニ於
ケル尿「ペブレン」價ノ差ハ體重ノ關係ヲ以テ説明スベカラズ労働者ノモノニ主因ヲ存スルヤ明カナリ、然レモ此
ノ際ニ於テモ第七節ニ於テ明カニセル體重トノ一般ノ關係ノ定律ニ反スルコトナキハ前表ノ示ス所ノ如シ。

第十節 授乳婦及ビ非授乳婦間ニ於ケル尿「ペブレン」價ノ差異ニ就テ

授乳婦ト非授乳婦トノ間ニ於ケル尿「ペブレン」價ニ差アリヤ否ヤ未ダ文献ニ其ノ記載ヲ缺クモノ、如キヲ以テ
余ハ余ノ検査例中ノ二十才以上四十二才以下ノ女子ニ就テ其ノ關係ヲ檢索シタリ。

左表ニ於テ記スル所ノ尿量及ヒ尿「ペブレン」價ハ共ニ二日或ハ三日或ハ十、十一ノ二ヶ月間ノ平均數ナリ。

第二十八表

第二節 番 表 號	授 乳 婦				非 授 乳 婦							
	被 檢 者	年 齡	職 業	體 重 (斤)	尿 量 (斤)	尿 價 シ ン 價	被 檢 者	年 齡	職 業	體 重 (斤)	尿 量 (斤)	尿 價 シ ン 價

一	野村	三	無	四	一四〇	二五	六	上	浴	二〇	下女	五	一七三	三〇
九	且原	四	農	五	一四五	七	七	吉	富	四	裁縫業	六	一五〇	二四
六	國光	五	〃	六	一四七	〇	〇	西	村	四	無	五	一四四	二四
一八	長谷川	元	無	七	一四五	二	二	勝	原	四	農	五	一四八	二六
一九	常盤	二	吳服店員	八	一三〇	三	七	中	田	〃	無	五	一四六	二六
二〇	半中	四	農	九	一〇五	元	元	茅	壁	四	吳服店員	五	一五〇	二八
三三	木村	二〇	〃	五	一五六	三	三	茅	壁	三	〃	七	一三〇	二九
三四	野上	三	〃	四	一五八	三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三三	野上	三	〃	四	一五八	三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三三	野上	三	〃	四	一五八	三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
平均	前原	四	〃	五	一九〇	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	一三四	三元

右ノ表ニ依テ觀レハ授乳婦ト非授乳婦トノ尿「ペブレン」價ノ差ハ可成リニ顯著ニシテ平均四九ナリ、何ガ故ニ此差ヲ生スルカ、是レ素トヨリ授乳婦ガ非授乳婦ニ比スレハ多量ノ食ヲ攝ルニ其ノ因ヲ當メザルベカラザルベキモノナラン。

第十一節 尿「ペブレン」價ト尿總窒素量トノ關係ニ就テ

余ハ先キニ大人期ニ於ケル男女間ノ尿「ペブレン」價ニ可成リニ差ヲ存スルヲ發見シ、進ンデ尿「ペブレン」價ト體重トガ密接ナル關係ニ於テ立ツヲ證シ、更ニ勞働者ト非勞働者、授乳婦ト非授乳婦トヲ比較シ何レニ於テモ其ノ前者ニ尿「ペブレン」價高キヲ示シ、尙ホ是ノミナラズ尿「ペブレン」價ヲ體重一基瓦ニ對スル價トシテ表ハス時ハ男子ニ於テハ往々著シキ高キ價ヲ示スモノアルヲ發見シ、而シテ是等ノ總テヲ食量特ニ攝取スル蛋白質ノ量ノ關係ヲ以テ説明セントシタリ、茲ニ余ハ本章ノ最後ノ研究トシテ此ノ想定ガ正當ナリヤ否ヤヲ確定セント欲スルモノナリト雖モ、攝取スル食物中ノ蛋白質ノ量ヲ定量スルノ法ニ代フルニ尿ノ總窒素定量法ヲ以テセントセリ、素トヨリ尿中ノ總窒素量ヲ以テシテハ正確ニ輸入スル窒素ノ量ヲ知ル能ハズト雖モ然レモ其ノ大体ヲ知ルニハ大ナル支障無キヲ以テナリ。

消化時中ニ分泌スル胃液ノ量ノ食量ニ正比例スルハ既ニ古クヨリ明カナル所ナリト雖モ Hammarsten氏(23)ニ依レバ必ラズシモ蛋白質ニ富メル肉類ヲ用フル際ニ「ペブレン」ノ分泌多量ナラザルモノ、即シ、今此ノ關係ニ就テ記サレタル所ヲ擧グレバ左ノ如シ。

第一	肉	麵	麵	分泌ノ持續
第二	牛乳	肉	麵	麵
第三	麵	牛乳	牛乳	牛乳

然レモ「ペプシン」ガ假令「エレプシン」ノ準備的消化ヲナスニ過ギズトハ云ヘモ蛋白質消化ヲ以テ本能トナヒル以上少シク不自然的ナルノ感ナクタンバ非ラズ、實ニ余ハ此ノ所信ノ基礎ノ上ニ於テ本節ノ研究ヲ行ヘルモノナリ。

實驗甲 男女計二十六名ノ尿(内十七名ニ於テハ三日間、其ノ他ノモノニ於テハ二日或ハ一日間ノ)ニ於ケル尿「ペプシン」價及ヒ總窒素量ヲ定メタリ、總窒素量ハ「Fehling」氏法ニ據テ定量セリ、其ノ結果左表ノ如シ。

第二十九表

第一號 常盤〇〇男 年輪二六 職業 吳服店員
身長 一五四仙迷 胸圍 七九仙迷 體重 四二基瓦
體格營養共ニ中等、内臟器ニ異常ヲ認メズ食量ハ多量ナラズト云フ

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	
日	尿量(耗)	色	反應比重	總窒素(瓦)	價
十月二十四日	一七五〇	黄	酸	一〇一八四、八七〇	十一
十月二十五日	一七〇〇	〃	〃	一〇一五五、七九六	十一
平均	一七二五			一〇一七〇、三〇八	十一

第二號 平中〇〇男 年輪四二 職業 大工職
身長 一七五仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五〇基瓦
體格營養共ニ中等、内臟器ニ異常無シ、食思良、

第三號 坂〇〇男 年輪一〇 職業 體格強健營養良、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良、

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	
日	尿量(耗)	色	反應比重	總窒素(瓦)	價
十一月廿四日	一四二五	黄	酸	一〇二六九、六六四	十一
十一月廿五日	一四二五	〃	〃	一〇二六九、六六四	十一
平均	一四二五			一〇二六九、六六四	十一

第三號 坂〇〇男 年輪一〇 職業 體格強健營養良、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良、

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	
日	尿量(耗)	色	反應比重	總窒素(瓦)	價
十一月廿四日	八五五	黄	酸	一〇一九三、五六一	十一
十一月廿五日	九四五	〃	〃	一〇一三三、〇九九	十一
平均	八九九			一〇一六三、三〇五	十一

第四號 坂 ○ ○ 男 年齡 四九 職業 農
身長 一五〇仙迷 胸圍 八七仙迷 體重 四八基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良、

採尿日	尿量 (耗)		反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量 (耗)	溷濁出現ノ有無	尿一ペ ブレン 價
	量	色					
十一月十日	二七四〇	黃	一〇一四六	三三六	+	+	二五八
全 十二月三日	二二三五	〃	一〇一七	四七五	+	+	二八〇
十一月八日	二〇七五	〃	一〇一七	七九六	+	+	二七
平均	一九八三	〃	一〇一六	八四八	+	+	二六五

第五號 坂 ○ ○ 男 年齡 一八 職業 農
身長 一四五仙迷 胸圍 七七仙迷 體重 四〇基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良、

採尿日	尿量 (耗)		反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量 (耗)	溷濁出現ノ有無	尿一ペ ブレン 價
	量	色					
十一月十日	二五〇〇	黃	一〇一四六	三三〇	+	+	二二〇
全 十二月五日	二一五五	〃	一〇一〇	六四八	+	+	三三〇
十一月八日	二四一〇	〃	一〇一三	五三四	+	+	一八八
平均	二四九五	〃	一〇一五	六二二	+	+	二二三

第六號 坂 ○ ○ 男 年齡 一四 職業 農
身長 一三六仙迷 胸圍 七〇仙迷 體重 三一基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良、

採尿日	尿量 (耗)		反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量 (耗)	溷濁出現ノ有無	尿一ペ ブレン 價
	量	色					
十一月十日	二〇〇〇	黃	一〇一四	三四四	+	+	九七
全 十二月五日	七〇〇	〃	一〇一三	七六八	+	+	九九
十一月五日	二二三〇	〃	一〇一五	五三四	+	+	一五〇
平均	一〇三七	〃	一〇一四	五〇九	+	+	一一五

第七號 野村正一 男 年齡 三七 職業 醫師
身長 一六九仙迷 胸圍 八五仙迷 體重 五六基瓦
體格長大、營養稍々良、全身ニ異常無シ、食思良、

採尿日	尿量 (耗)		反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量 (耗)	溷濁出現ノ有無	尿一ペ ブレン 價
	量	色					
十一月十日	二四八〇	黃	一〇一四	八四八	+	+	三九七
全 十二月五日	一八五〇	〃	一〇一六	四七六	+	+	四九三
全 十二月五日	二四五〇	〃	一〇一〇	三九八	+	+	四九〇
平均	三三七	〃	一〇一四	一〇一	+	+	四六〇

第八號 野村行夫 男 年齡 一〇 職業 職業
 身長 一一六仙迷 胸圍 六一仙迷 體重 二五基瓦
 體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思大ニ振フ

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿
日	量(耗)	色	反應比重	總窒素(瓦)	澾濁出現ノ有無	價
十一月十四日	九五〇	黄	酸	1015.5, 0154	+	九六
全二十三日	六五	〃	〃	三、八七五	+	九〇
平均	八三			1015.4, 0154		九三

第九號 野村幸次 男 年齡 一〇 職業 職業
 身長 一三一仙迷 胸圍 六一仙迷 體重 二七基瓦
 體格營養共ニ中等、全身ニ異常ヲ認メズ、食思良

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿
日	量(耗)	色	反應比重	總窒素(瓦)	澾濁出現ノ有無	價
十一月十四日	九〇〇	黄	酸	1015.5, 0200	+	九〇
平均	九〇〇			1015.5, 0200		九〇

第一〇號 茅壁〇〇 男 年齡 三四 職業 吳服店員
 身長 一五七仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五四基瓦
 體格強大、營養中等、全身ニ異常無シ、食思良

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿
日	量(耗)	色	反應比重	總窒素(瓦)	澾濁出現ノ有無	價
十一月十四日	八八〇	黄	酸	1010.5, 0185	+	三〇二
全十八日	三五	帶赤黄	〃	1011.4, 0199	+	二八
全二十三日	七〇	黄	〃	1008.4, 0233	+	一九九
平均	二六七			1010.4, 0159		二四〇

第一一號 茅壁〇〇〇 男 年齡 六〇 職業 吳服店主人
 身長 一六三仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五三基瓦
 體格強大、營養中等、全身ニ異常無シ、食思良

尿探		尿(二十四時間ノ全尿)		試驗ニ用ヒタル尿量(耗)		尿
日	量(耗)	色	反應比重	總窒素(瓦)	澾濁出現ノ有無	價
十一月十四日	二四五	帶赤黄	酸	1010.5, 0153	+	三三
全十八日	九〇	〃	〃	四、八〇七	+	二九
全二十三日	三五	黄	〃	1015.9, 0198	+	三〇〇
平均	一八五			1013.6, 0194		三五二

第一二號

前原 ○ ○ 男 年齡 三八 職業 教師
身長 一六五仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 五一基瓦
體格營養共ニ中等、全身ニ異常無シ、食思良

日	尿探		色	反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿價
	量(耗)	量(耗)						
十一月	二三八	二四五	黃	一〇二七六、二八五	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	一三四
十二月	二九六	二九五	〃	一〇三三三、三三〇	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	一七〇
平均	二八七	二七〇	〃	一〇一九七、〇四〇	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	一五〇

第三號

山本 ○ ○ 男 年齡 二二 職業 鐵工職工
身長 一六六仙迷 胸圍 八五仙迷 體重 五一基瓦
體格強健、營養佳良、全身ニ異常無シ、食思良

日	尿探		色	反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿價
	量(耗)	量(耗)						
十一月	二四三	二四〇	帶赤黃	一〇三三九、二七六	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	三三三
十二月	二四五	二四五	〃	一〇三〇七、九四三	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	二六〇
平均	二四四	二四二	〃	一〇一七〇、一〇	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	二九六

第一四號

松山 ○ ○ 男 年齡 五〇 職業 教師
身長 一五四仙迷 胸圍 八二仙迷 體重 五〇基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

日	尿探		色	反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿價
	量(耗)	量(耗)						
十一月	二五〇	二五〇	帶赤黃	一〇二九八、五七三	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	二〇九
十二月	二六〇	二六〇	〃	一〇二六八、〇六七	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	一八六
平均	二五五	二五五	〃	一〇二八三、〇三二	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	一九九

第一五號

野上 ○ ○ 女 年齡 二七 職業 無
身長 一五〇仙迷 胸圍 八四仙迷 體重 四七基瓦
體格營養共ニ佳良、全身ニ異常無シ、食思良

日	尿探		色	反應比重	總窒素 (瓦)	試驗ニ用ヒタル尿量(耗)	溷濁出現ノ有無	尿價
	量(耗)	量(耗)						
十一月	二八〇	二八〇	帶赤黃	一〇一九五、二五〇	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	三三七
十二月	二六〇	二六〇	黃	一〇二四四、九七七	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	二〇三
平均	二七〇	二七〇	〃	一〇二二〇、一〇	五〇二五、〇三三〇、四四九、五〇六、七〇八、九〇九	+	+	二二五